

14.3

121

帝國議會貴族院議事經過報告書

研究会政務審査部編

第六十六、六十七回



* 0006208001 *

0006208-001

14. 3-121

帝國議會貴族院議事經過報告書

研究会政務審査部・編

研究会政務審査部

第66・67, 68・69, 70・71・72, 73-75回

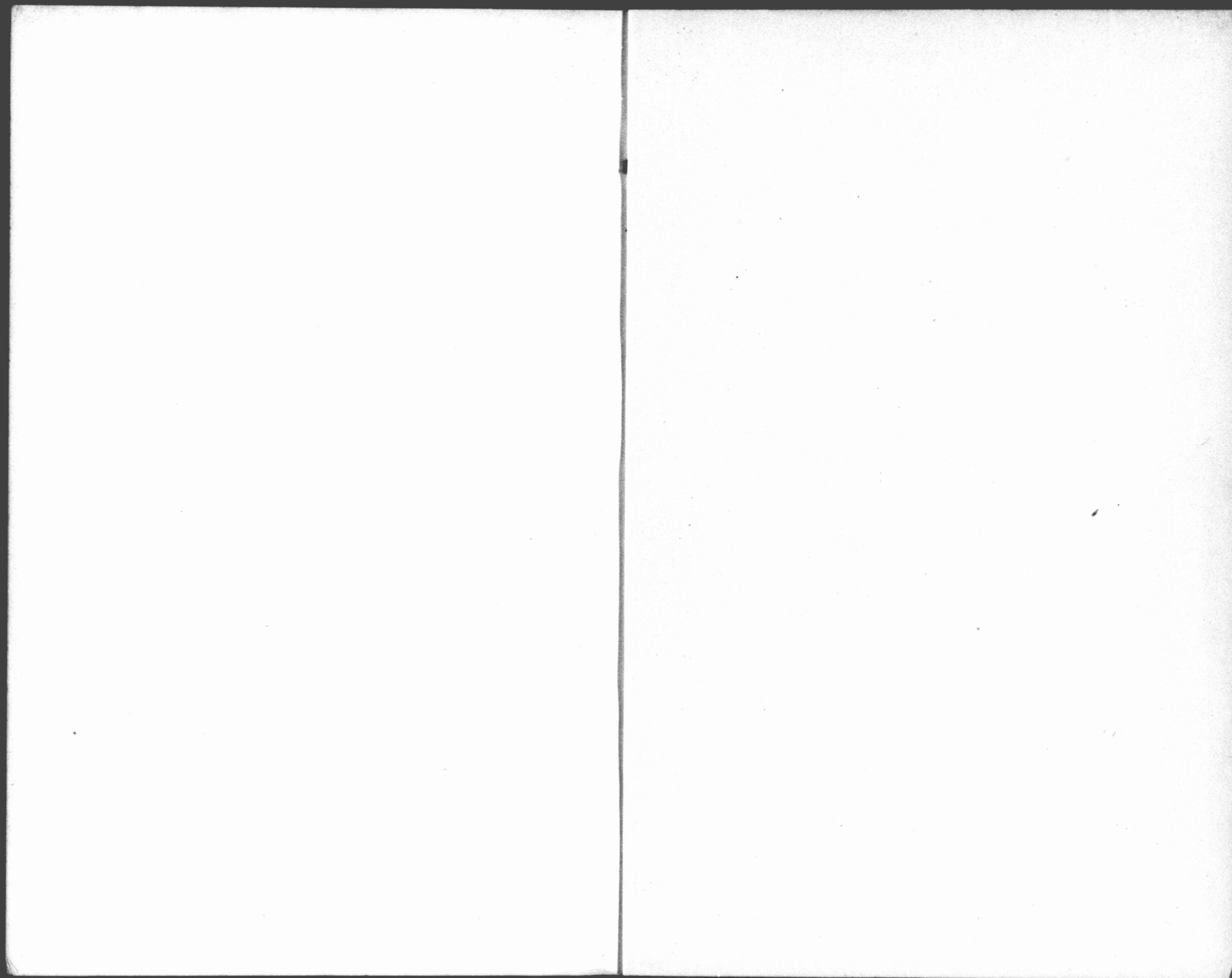
昭10-15

ABE

第六十六回
第六十七回

帝國議會貴族院議事經過報告書

研究會政務審查部





帝國議會貴族院議事經過報告書



14.3-121

例言

一、本書は第六十六回及第六十七回帝國議會に於ける貴族院の議事概要を記述せるものにして、固より其詳細は之を議事速記録に譲るも、多少の参考たるを得ば幸なり。

一、各議案の案文は廣汎に亘るものなるが故に、建議案を除くの外法律案其他の記載は總て之を省略せり。

一、本書の編纂及其内容の記述は總て従前の例に依りしも、左の諸點に付て改變を加へたり。

○本會議に於ける國務大臣の演說に對する質疑に關しては、質問者の氏名の外質問事項をも併せて記載せること。

○議決に至らざりし法律案に付ても、其重要なるもの又は多年懸案たりしものに付ては参考までに委員會の經過を略述せること。

○常任委員一覽表(附録)に於ける常任委員記載の順序は、貴族院規則第三十三條の順序に依るものと改めたること。

昭和十年五月

研究會政務審査部

第六十六回帝國議會貴族院議事經過報告書

第六十六回帝國議會貴族院議事經過報告書

第六十六回帝國議會貴族院議事經過報告書

目次

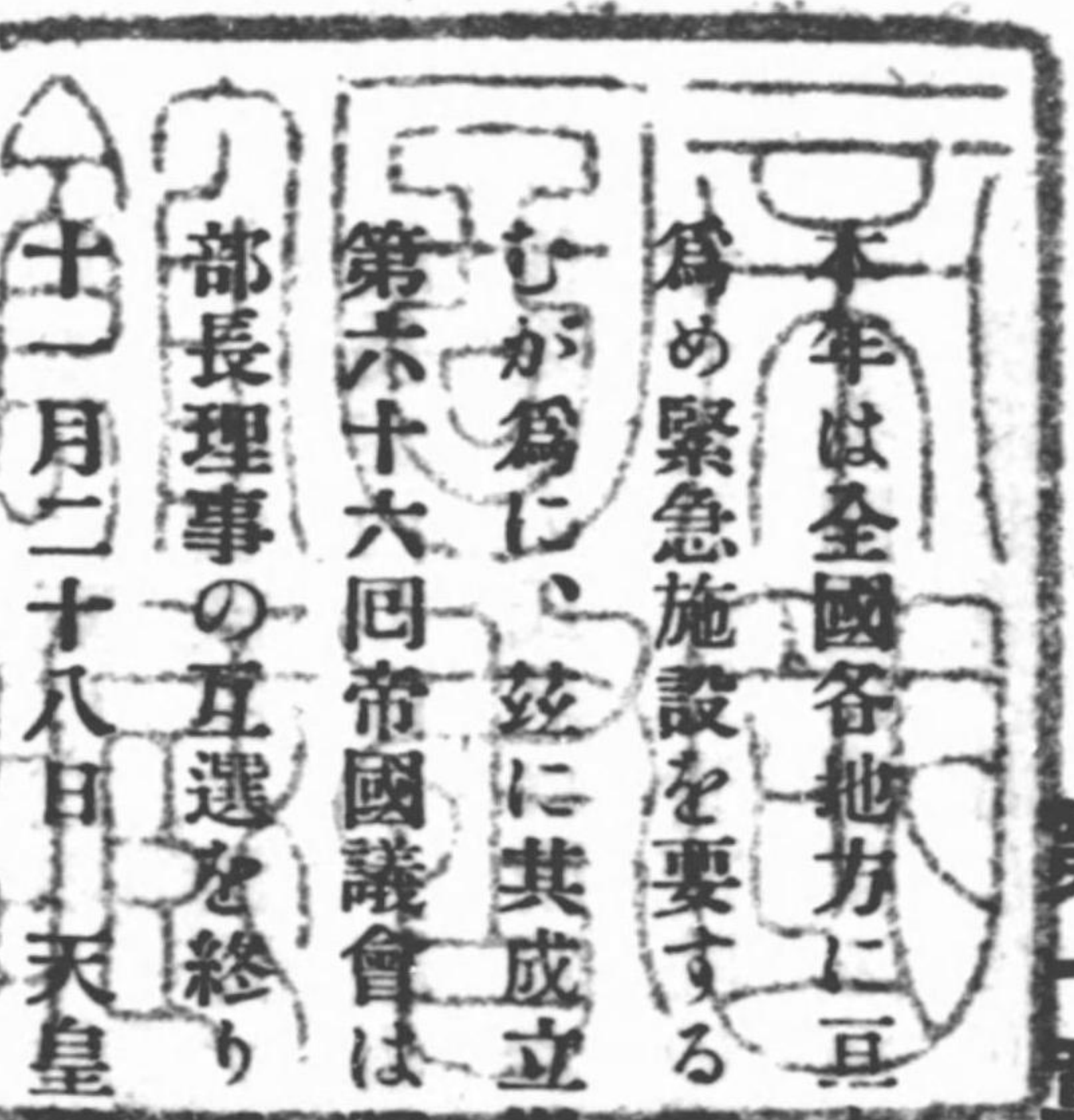
第一章 總說	一頁
第二章 施政方針並に外交に關する演說	三
第三章 法律案	一〇
第四章 追加豫算案	二〇
第五章 請願	三〇

附錄

第一 第六十六回帝國議會貴族院議事經過一覽	一
第二 第六十六回帝國議會國務大臣並政府委員一覽	二
第三 第六十六回帝國議會貴族院全院委員長及常任委員一覽	六
第四 研究會會員一覽	一一
第五 研究會會員移動	一七
第六 研究會役員一覽	一八

第六十六回帝國議會貴族院議事經過報告書

第一章 總 說



本年は全國各地方に亘りて各種の災害相踵ぎて起り、多數の國民は艱苦窮乏に遭遇し、之が救濟復舊の爲め緊急施設を要すること切なるものあり。仍て岡田内閣は緊急なる追加豫算案及び法律案の協賛を得むが爲に、茲に其成立以來最初の帝國議會を開くに至りたり。

第六十六回帝國議會は昭和九年十一月二十七日を以て召集せられ、貴族院及衆議院は何れも部屬の抽籤、部長理事の互選を終りて即日其成立を告げたり。

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク
朕ハ國務大臣ニ命シテ緊急ナル追加豫算案及法律案ヲ帝國議會ニ提出セシム卿等克ク朕カ意ヲ體シ

和衷審議以テ協賛ノ任ヲ竭サムコトヲ望ム

翌二十九日貴族院は本會議を開き、議長の起草に係る左の勅語奉答書案を議題とし、全會一致を以て之を可決せり。

貴族院議長臣近衛文麿誠恐誠惶謹テ

敕聖文武天皇陛下ニ上奏ス

爰ニ第六十六回帝國議會開院ノ盛典ヲ行ハセラレ優渥ナル

勅語ヲ賜フ臣等謹テ

敕旨ヲ奉體シ慎重審議協贊ノ任ヲ竭シ以テ

皇猷ヲ贊襄セムコトヲ期ス臣等恐懼ノ至ニ任ヘス謹テ奉答ス

近衛議長は奉答書捧呈の爲め直に参内し、鳳凰の間に於て 天皇陛下に拜謁仰付けられ奉答書を捧呈したるに、更に左の 勅語を賜はりたり。

朕貴族院ノ深厚ナル敬禮ヲ嘉ス

議長参内の間に、議場に於て全院委員長の選舉、及び各部常任委員の選舉行はれたり。(全院委員長及常任委員の氏名は附録参照)

十一月三十日貴族院の本會議に於て、岡田内閣總理大臣の爲したる施政方針並に廣田外務大臣の爲したる外交問題に關する演說に對し、通告順に依り議員と國務大臣の間に質問應答を重ね、更に各議案に對し慎重審議を竭したり。

本議會の會期は初め十一月二十七日より十二月四日に至る七日間と定められたるも、其後二回に亘りて會期延長せられたり。(第一回、十二月七日迄三日間、第二回、十二月九日迄二日間)。斯くて十二月九日會期終了を告げ、翌十日閉院式を行はせられ、左の 勅語を賜はりたり。

朕貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

朕本日ヲ以テ帝國議會ノ閉會ヲ命シ併セテ卿等勵精克ク協贊ノ任ヲ竭セルノ勞ヲ嘉獎ス

茲に於て第六十六回帝國議會は閉會せられたり。

本議會は臨時議會なりしが故に、議案の數は極めて少數なりしも、猶ほ全国各地方の災害匡救に關する重要な議案提出せられしを以て、慎重なる審議を竭したり。而して我研究會員諸君は日夜勵精克く其任に當り、公正なる態度を以て之に處し、貴族院議員たるの本分を全うせられしは洵に欣快とする所なり。

第二章 施政方針並に外交に關する演說

昭和九年十一月三十日貴族院本會議に於て、岡田内閣總理大臣及廣田外務大臣は施政方針並に外交問題に關し演說を爲したり。其要旨左の如し。

岡田内閣總理大臣

内外時局極めて多事多難の秋に當り、不肖拙らずも大命を拜し、内閣を組織するに至りたることは寔に恐懼の至りに堪えざる所なり。不肖固より菲才微力なれども赤誠を披瀝し、各方面の協力を得て、内、國民康福の増進と、外、國際大義の顯揚とに勉め、以て 聖明に應へ奉らむことを期する所なり。

今回災害對策等の爲め臨時議會を開かるゝに當りて、茲に初めて諸君と相見え、所信の大體を開陳し、諸君の御協力を仰ぐ機會を得たるは余の最も光榮とする所なり。

施政の大綱に付きては曩に組閣當初に於て之を聲明し、以て一般の協力を期待する次第にして、之が具體化の爲には十分なる審議を盡し、逐次實現に邁進する考へにして、何れ通常議會に提案し御協賛を願ふことも少からざること、思考す。近時各地に災害相踵ぎ多數の國民は艱苦窮乏に遭遇し、之が救濟復舊の爲め緊急施設を要すること極めて切なるものあり。組閣勿々、繭絲價の下落に依り、養蠶農家窮乏の爲め應急の施設を講じたれども、其後關西、北陸地方等に暴水害甚しく、東北地方に冷害凶作慘を極め其他隨所に旱害の生ずるあり。而して各方面に於ける損害著しく、應急の救濟復舊等を要するもの極めて多きに上れり。是等の災害に對し、畏くも 天皇 皇后兩陛下には深く御軫念あらせられ、御救恤の思召を以て内帑御下賜の御汰沙を拜し、又 皇太后陛下、各宮家、王公家よりも御下賜金の恩命に浴し寔に恐懼感激に堪へざる所なり。東北地方に對する 兩陛下の御下賜金は之を基と致し、備荒竝に隣保相扶の爲め、所謂郷倉の普及を圖り、以て聖旨に副ひ奉らむことを期するなり。

而して政府に於ては直に實行し得べき緊急施設にて苟も災害對策上效果ありと認めらるゝものに付きては、既に著々之を實施せるも更に是等の應急施設中、必要なるものを繼續すると共に災害地方民更生の意氣を作興せしめ、將來の災害を防止輕減せんが爲め、禍を轉じて福と爲すべき諸種の恒久的災害對策を樹立せむとす。是等の爲め所要の經費を豫算に計上し、茲に臨時議會を開き御協賛を願ふ

次第なり。米穀對策に關しては米穀統制法の運用を根幹とし、米穀統制に勉め來りしが、同法實施の經過、諸般の米穀事情及財政上の影響に顧み、更に考究を遂ぐるの要あるを認め新に米穀對策調査會を設置し、目下慎重審議しつゝあり。而して同調査會の答申を俟ち成案を得んと努力せる所なり。

此機會に於て海軍々備制限會議問題及對滿關係機關調整問題に關し附言すれば、來るべき海軍軍備制限會議に付きては帝國政府は國防の安全を確保するを第一義とし、關係各國間に不脅威不侵略の原則を確立すると共に、軍縮の實を擧ぐる爲め最も公正妥當なる方式に依り、其實現を期せむとするものにして、目下倫敦に於て進行中の豫備交渉に於ても帝國代表は右方針を體し、銳意善處しつゝあり。

次に對滿關係機關調整問題に付きては、滿洲事變前に於ける在滿帝國諸機關は事變後著しく變化せる情勢に其儘即せざるべきことは論を俟たざる所なるを以て、曩に是等諸機關の圓滿なる連絡統制の爲め、其首腦には同一人之人に當るの措置を講せられたれども其後の經驗に徴し、又滿洲國の發展に顧み益々各機關の協力を依る機能の發揮を必要とせるを以て、茲に滿洲國の獨立を尊重し同國と我國との格別なる親善關係を考慮すると共に、對滿行政事務の統一を保持し政府總體を以て滿洲國關係事項を處理し得るの機構と爲すことを企圖したるなり。而も現在の機構に急激なる變化を加へず、治安工作を第一とする現實の事態に即し、必要にして適切なる限度の機關の改革を行はんとする所なり。此對滿關係機關調整問題に關し其過程に於て多少の紛糾ありたるは甚だ遺憾となす所なれども、既に調整

案の根本趣旨の了解せらるゝに従ひ誤解及び杞憂は自ら解消するに至り、各機關相協力して新機構の目的達成に邁進せんとしつゝあり。

政府は上述の災害對策に關する經費、其他此際緊急を要する若干の經費を豫算に計上したれども、之が財源は殆ど全部公債に求めざるを得ざりしことは、財政の現状に照し已むを得ざる所なり。此支出の外、尙ほ預金部より能ふ限り多額の低利資金を供給し、復舊復興を援助する方針なり。斯して今回緊急なる豫算案及法律案を提出したる次第なれば政府の意の在る所を諒とせられ、宜しく御審議の上御協賛あらむことを切望する次第なり。

廣田外務大臣

余は前回第六十五議會に於て帝國の對外方針を開陳する機會を得たりしが、其後内閣の更迭後に於ても、引續き當時開陳したる方針に従ひ外交案件を處理しつゝあり。其後に於ける我が對外關係に付きて概觀するに、帝國の東亞に於ける地位は漸次列強の理解認識を加ふるに至り、歐米諸國及中華民國等の關係も從て漸次、親善を加へつゝあることは眞に欣幸に堪へざる所なり。余は茲に前議會後に於ける帝國外交上の重要な二三の問題に就き其經過を報告すべし。

我が盟邦たる滿洲國の獨立國として健全なる發達を遂ぐるは、聯盟脫退の當時渙發相成りたる詔書に於て御垂示の如く、帝國の根本的關心事なり。爾來同國に於ては内外の諸政愈々進み、本年三月帝政樹立せられ、國基永遠に奠まるに至りたることは誠に慶祝に堪へざるなり。畏くも 天皇陛下には

本年五月秩父宮殿下を滿洲に御差遣遊ばされ慶賀の意を表せられ、日滿兩國の關係は愈々緊密の度を加へたることは、吾人一同の感激措く能はざる所なり。帝國と「ソヴェート」聯邦との關係は前議會に於て報告せる處なれども、爾來稍々良好に向へるの感あり。北洋漁業の如きも亦本年は平穩裡に事業を遂行するを得たるは兩國の國交上、慶賀すべき所なり。又北鐵讓渡交渉は本年初頭、一時停滯の狀態なりしが、其後三月頃より再び交渉を開始し、其後更に幾度の難關に逢著し、帝國政府は其間能ふ限りの仲介斡旋を爲し、現在は代價額其他讓渡に關する重要な條件は、大部分既に意見の一致を見るに至れり。併し乍ら尙三四の未解決の手續問題あれども、是等は殆ど細目の點に亘れるを以て、其解決を見るには尙多少の日時を要すべし。

目下倫敦に於て開催中の海軍々縮豫備交渉は、主として日英米の三大海軍國間に行はれ、極めて重要な交渉として、其成行は帝國の注視を怠らざる所なり。本年五月十七日に英國政府より海軍々縮會議を容易ならしむる爲、倫敦に於て關係國間に個別的に豫備交渉を行ひ度き旨の申出あり、帝國政府は之を適當と認めて同意の旨を通報し、而して六月十八日以來、倫敦に於て關係國間の交渉開始を見るに至りたり。大體最初は明年度開かるべき筈の會議の手續問題に付き意見の交換を爲し、十月より日英米三國間に軍縮の實質問題に付き文書を行ひつゝあり。右交渉に當り帝國は我が國防の安固に十分なる兵力の保有を期すると共に不脅威不侵略の原則を確立せむとするものにして、帝國は從來の比率主義を廢し、關係國間に兵力量の共通最大限度を設くることを主張せるは此趣旨に基くものなり。

而して帝國は軍縮精神を發揮する爲に、極力軍備の縮減を計り、以て將來成るべく國民負擔の援和に資せむとするものにして、之が協定に當りては右共通の限度を能ふ限り低くすると共に、攻撃的兵力は極力縮減し、防禦的兵力は整備し、而して各國をして攻むるに難く守るに不安なからしめむとするものなり。茲に於て帝國代表は右方針を體し、我が主張の貫徹を圖ると共に、合理的なる新條約の妥結を見るべく努力せる次第なり。帝國は英米其他關係國に於て我が主張の公正妥當なることを諒解し、新なる軍縮協定の成立に依り、世界的平和が更に確保増進せられむことを希望するものなり。尙ほ豫備交渉の経過は發表せざること、なれるを以て、茲に詳述せず。

次に我が對外通商關係に付、主要なる案件の経過を説明すれば、英領印度との通商交渉は本年一月日印兩代表者間に大體實質的意見の一致を見、愈々條文の作成に際し、印度側より二三重要な原則的問題を提出せられたるが爲に、一時交渉は停滞し、漸く四月十九日に至りて兩代表者間に條約案の假調印を成すに至れり。其後日英兩國間に於て日印通商條約及附屬議定書に正式に調印を爲し、雙方の批准を経て本年九月十四日より實施せるなり。爾來今日迄の實績に徴すれば、本條約の運用は誠に順調に行はれ、大局に於て日印貿易は満足なる發展を成しつつあり。

終りに目下「バタヴィア」に於て開催中の日蘭會商に付き述べれば、近年に於ける和蘭本國及蘭領印度の貿易の不況、又日本の對蘭印輸出貿易の激増に鑑み、本年の初め和蘭條約の補足的協定を作る目的を以て會商を開催せむとする希望あり。此商會に於て我が代表部は先方代表部と既に六箇月に亘

り各種の問題を討議し、之が妥結に努力せるも、此問題は極めて複雑且つ多岐に亘れる關係上、未だ十分雙方の意見の合致を見ざる所なり。併し帝國政府としては終始公正妥當なる主張を以て之に臨み先方の提案にて克く兩國の利益に合致し、且つ其現實の可能なるものに限り十分之を考慮し、何等か妥結の途を求めむと努力せる次第なり。本會商が近き將來に於て満足なる結果を見るに至り、日蘭兩國の親善關係増進に寄與せむと切に希望せる所なり。

上述の事柄は何れも最近に於ける帝國外交上の重要案件にして、總て圓滿なる妥結に達し、關係各國との和親の増加に資し、以て一般國際情勢の安定に一層の貢獻を爲さむことを期せるも、目下内外の時局重大の際、我が外交方針の遂行に付き眞に舉國一致、朝野各方面の協力を衷心より余は希望して已まざる次第なり。

又高橋大藏大臣は十二月七日の本會議に於て財政演説を爲せり。該演説は昭和九年度追加豫算に關聯するものなるに付、便宜上之を第四章に記載せり。

以上國務大臣の演説に對する質問並に應答は十一月三十日より十二月四日まで繼續せられたり。今茲に其質問應答の内容を記載する餘白なきを以て、單に質問者の氏名及質問事項を左に摘示するに止めむべし。(通告順に依る)

質 問 者

質 問 事 項

加藤政之助君(成)

幼學綱要に關する問題

- 岩田宙造君(和) 司法權の運用に關する問題
- 石川三郎君(研) 負債整理に關する問題
- 松井茂君(和) 警察及憲兵の組織に關する問題
- 田中館愛橘君(無) 氣候豫報の調査に關する問題

備考 各氏名の下に記したる(研)は研究会、(成)は同成會、(和)は同和會の各會派所屬を示す。
(無)は無所屬なり。(以下之に同じ)

第三章 法律案

第六十六議會に於て貴族院に提出せられたる法律案は四件にして、何れも政府提出に係るものなり。而して總て可決せられたり。件名左の如し。(件名の下に記したる頁數は本文記事の索引なり)

- 一、風水害ニ因ル被害者ニ對スル租税ノ減免猶豫等ニ關スル法律案(一一頁)
 - 一、昭和九年法律第五號中改正法律案(一三頁)
 - 一、都市計畫法中改正法律案(一五頁)
 - 一、凶作地ニ對スル政府所有米穀ノ臨時交付ニ關スル法律案(一七頁)
- 以上各案に付其議事の經過及結果を略述すべし。

第一 風水害ニ因ル被害者ニ對スル租税ノ減免猶豫等ニ關スル法律案

本案は昭和九年十二月五日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して同日の本會議に上程せられ、高橋大藏大臣は提案理由に付き大要左の如き説明を爲せり。

過般の北陸地方及關西地方等に於ける風水害は、近年稀有の災害にして、被害區域も廣範圍に亘り、且被害の程度も甚大を極めたり。而して是等罹災地方に於ける被害者に對しては誠に同情に堪へざる次第なり。右風水害の被害者中には住宅、家財、其他營業用の家屋、機械器具、商品等を流失又は破壊せられ、著しく擔税力を減殺せられたる者尠からず。是等被害者に對する租税の徴收に關しては、現行法の運用の範圍内に於て、適當なる處置を講じ、萬遺憾なきを期しつゝあるも、現行法規を適用するのみにては未だ十分なる救済を爲し能はざる點あり。茲に先例に則り、別途に租税の減免徴收猶豫等の途を開く必要を痛感せり。之れ本案を提出せる所以なり。

次で本案は重要法案なるを以て、之を特に左記十五名の特別委員に付託せられたり。

- | | |
|--------------|-------------|
| 公爵 山縣有道君(火) | 侯爵 松平康昌君(火) |
| 伯爵 樺山愛輔君(研) | 子爵 曾我祐邦君(研) |
| 子爵 野村益三君(研) | 子爵 裏松友光君(研) |
| 岡喜七郎君(交) | 男爵 松岡均平君(公) |
| 男爵 松平外與麿君(公) | 男爵 本多政樹君(公) |

西野 元君(研)
山本 米三君(成)
山上 岩二君(交)

三木 與吉郎君(研)
野村 徳七君(和)

本委員は十二月六日曾我子爵を委員長に、松岡男爵を副委員長に挙げ、會期切迫の折柄即日審査を終り、直ちに委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。

同日午後の本會議に於て、曾我委員長は委員會に於ける審査の經過及結果を報告せり。其要旨左の如し。

委員會に於ける質疑應答の主なるものを擧ぐべし。(問)本法に於て法人に對する第一種所得税を減免又は猶豫せざる理由如何。(答)政府は法人の風水害に因りて蒙りたる損害に關しては、之れを計算上の損金と爲すことに依り救済せらるゝの途あり。又從來の例に於ても第一種所得税の減免は行はざりしものなり。(問)風水害に因りて山林に被害を蒙りたる者に對して本法は適用せらるゝや否や。(答)山林所得の納税者にして風水害に因り其住宅又は家財に付き著しき被害を受けたる者に對しては第三種所得税を免除するも、住宅又は家財に付き被害なく、單に山林に付きてのみ被害を蒙りたる者に付きては、省令制定の際慎重に考慮すべし。(問)災害の頻發に鑑み、之が救済の爲に適當なる恒久的法律を制定するの意志なきや。(答)其趣旨を諒とし慎重考慮すべし。(問)本法に依り輕減又は免除すべしと認められたる税額の見込如何。(答)昭和九年度に於て約百三十六萬圓の見込なり。(問)本法を風水害の被害者に限り適用し、早害冷害に因る被害者に適用せざる理由如何。(答)早害冷害に對しては現行の地租法又は所得税法に依りそれ〴〵救済し得るを以て、特に本法を之に及ぼさざりしなり。(問)田畑收穫皆無の認定竝に其取扱を特に緩和する意志ありや。(答)從來沿革的に取扱ひ來たりし行政上の斟酌範圍に關しては、今回の被害の實情に鑑み遺憾なきを期すべし。斯くして討論に入り二三委員より本案に對する賛成意見の開陳あり、次で採決結果全會一致を以て本案を可決せり。

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく本案を可決せり。

第二 昭和九年度法律第五號中改正法律案

本案は昭和九年十二月七日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して同日の本會議に上程せられ、高橋大藏大臣は提案理由に付き大要左の如き説明を爲せり。

曩に第六十五回帝國議會に於て、昭和九年度一般會計歳出の財源に充つる爲め、公債を發行し得る法律の成立を見たるも、別途提出せる昭和九年度歳入歳出總豫算追加第一號に計上せる經費の財源として、普通歳入百八萬餘圓の外約六千九百九十餘萬圓は、今日の場合之れを公債に依るの外なし。而して此金額の内六十九萬五千圓は、既存の通路公債法に依り公債を發行することとなせるが故に、差引約六千九百二十萬圓は新規に起債權を得るの必要あり。之れが爲め昭和九年法律第五號中の公債發行限度を擴張するの要あり。之れ本案を提出せる所以なり。

次で本案は左記九名の特別委員に付託せられたり。

侯爵 佐竹義春君(火)	伯爵 後藤一藏君(研)
子爵 梅園篤彦君(研)	男爵 長基連君(公)
各務 鎌吉君(和)	小倉 正恒君(研)
武井 覺太郎君(成)	大西 虎之介君(交)
上野 喜左衛門君(研)	

本委員は十二月八日後藤伯爵を委員長に、長男爵を副委員長に擧げ、會期切迫の折柄即日審査を終り、直に委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。

同日午後の本會議に於て、後藤委員長は委員會に於ける審査の經過及結果を報告せり。其要旨左の如し。

委員會に於ける質疑應答の主なるものを擧ぐべし。(問)内國債の低利借換を行ふ意志ありや。(答)公債を低利借換することに依り利子の減額を見、國費の減少を來すものなるが故に低利借換は望まじきことなれども、低利借換を爲し得るは極めて狭き範圍にして、國庫の負擔左程大なる減少を見る能はざるなり。即ち事實問題としては目下大規模の借換は爲し得ざるものと思考す。(問)公債の現在及將來に於ける消化力如何。(答)現在に於ては消化力ありと信ずるも、將來に於ては公債發行額を制限し市場に於ける公債消化力を維持せざるべからず。世上論するが如き公債を無限に發行するも消化さる

べしとなす説には首肯し難し。(問)赤字公債の漸減と低利借換との關係如何。(答)今日の如き財政の狀況に於ては大規模の低利借換は不可能なり。然れども幸にして將來赤字公債を發行せざる時代の到來せる場合に於て大規模の低利借換が可能なりや否やは外國の例に依れば必しも不可能とは云ひ難く、政府の財政に對する國民の信用の程度竝に金利狀態の基礎の安定等に依り行ふを得べしとも考ふ。(問)本年七月頃の金融の引締の原因如何。(答)種々の原因ありしも就中今春以來日本銀行の公債賣行狀況は極めて旺盛なりし爲め、之が七八月頃の金融市場に反映せしことは疑なき所なり。されど目下は平靜なる低金利の狀態に復歸せり。(問)銀行の手持公債増加の傾向ありと思ふも所見如何。(答)日本の銀行の今日の公債所有高は外國の例と比較するに未だ決して過大ならず。斯くして討論に入り二委員より本案に對する贊成意見の開陳あり、次で採決の結果全會一致を以て本案を可決せり。

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく本案を可決せり。

第三 都市計畫法中改正法律案

本案は昭和九年十二月五日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して同日の本會議に上程せられ、後藤内務大臣は提案理由に付き大要左の如き説明を爲せり。

先般關西地方を襲ひし颱風に依り、海岸に近接せる市街地中には、大波浪の爲め破壊せられ之れが復興を要するものあり。斯の如き災害を被りたる場合には組合を設立して土地區劃整理を施行せむとす

るなり。然れども今回は地元公共團體をして之を行はしむるを、寧ろ最も機宜の處置なりと考ふ。然るに現行法律に依れば都市計畫として土地區劃整理を決定するも、公共團體は内閣の認可後一年を経過せざれば、之れが施行を爲す能はず、今回の如き緊急施行の需要に應ずるを得ざるなり。故に法律を改正し一年の期間の経過を待たず、公共團體をして都市計畫事業として、土地區劃整理を施行せしめ得るの途を開かむとするにあり。之れ本案を提出せる所以なり。

次で本案は左記九名の特別委員に付託せられたり。

侯爵 小村 捷 治君(火)	伯爵 松 木 宗 隆君(研)
子爵 富小路隆直君(研)	男爵 伊 江 朝 助君(公)
男爵 冲 貞 男君(公)	岡 田 文 次君(和)
大塚 惟 精君(研)	平 沼 亮 三君(成)
水野 甚次郎君(交)	

本委員は十二月六日松木伯爵を委員長に、伊江男爵を副委員長に擧げ、會期切迫の折柄即日審査を終り、直に委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。

同日午後の本會議に於て、松木委員長は委員會に於ける審査の経過及結果を報告せり。其要旨左の如し。委員會に於ける質疑應答の主なるものを擧ぐべし。(問)「災害其他特別ノ事情」と規定するも、此特別の事情を廣義に解釋すれば法の精神を破る虞ありと思ふが如何。(答)政府は成るべく狹義に解釋すべ

し。(問)一年を待たずして、公共團體をして施行せしむるは徒に公共團體に過重の責を負はしむるの感あるが如きも所見如何。(答)施行に當りて地主と公共團體との意見に非常なる懸隔ある場合には相當地主等の意嚮を斟酌すべく、又公共團體に非常なる負擔をかくるが如きことは殆んどなきものと考えふ。(問)公共團體の申請を待つて内務大臣は命令を發する考なりや。(答)法文上は申請を待たざるものなれども、手續上は内務大臣は都市計畫地方委員會の意見を聴取すべきものとせられたり。

斯くして討論に入り二委員より本案に對する賛成意見の開陳あり、次で採決の結果全會一致を以て本案を可決せり。

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく本案を可決せり。

第四 凶作地ニ對スル政府所有米穀ノ臨時交付ニ關スル法律案

本案は昭和九年十二月六日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して翌七日の本會議に上程せられ、山崎農林大臣は提案理由に付き大要左の如き説明を爲せり。

本年の凶作の實情に鑑み、東北六縣其他特殊の地方に對し、豫算上の一般應急土木事業の外特に米の供給に付き、適切なる方策を講ずるの必要を認め、是等の地方に於ける米作を爲す市町村にして、其區域内の本年産米の收穫高平年作の半に達せず、且冬季に於ける應急土木事業の施行困難なるものに對し、臨時の施設として關係縣等を通じ、五十萬石の範圍内に於て政府所有米穀を交付し、之に依りて現下の窮狀緩和に資すると共に、將來是等の市町村に備荒貯畜の施設を整備せしめ、以て應急恒久

兩方面の効果を収めむとす。之れ本案を提出せる所以なり。
次で本案は重要法案なるを以て、特に左記十五名の特別委員に付託せられたり。

公爵 鷹司 信輔君(火)	公爵 島津 忠承君(火)
伯爵 酒井 忠正君(研)	子爵 片桐 貞央君(研)
子爵 織田 信恒君(研)	子爵 綾小路 護君(研)
松村 眞一郎君(研)	桑山 鐵男君(交)
男爵 伊藤 文吉君(公)	男爵 足立 豊君(公)
男爵 杉溪 由言君(公)	赤池 濃君(和)
石川 三郎君(研)	油井 徳藏君(成)
岩崎 清行君(交)	

本委員は十二月七日酒井伯爵を委員長に、伊藤男爵を副委員長に挙げ、會期切迫の折柄即日審査を終り、直に委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。

同日午後の本會議に於て、酒井委員長は委員會に於ける審査の經過及結果を報告せり。其要旨左の如し。
委員會に於ける質疑應答の主なるものを擧ぐべし。(問)本案に依れば米作を爲す農村を條件とする故に、養蠶地帯たる農村にして窮迫せるものには、其効力及ばざるやの感あり。斯の如き農村に對しては如何なる處置を執らむとするものありや。(答)本案は備荒野蓄の制度と關聯せるものなるが故に、

米作を爲す農村を條件となせるなり。養蠶地帯には又別途の方法に依り、即ち現在の米穀統制法の規定に依る貸付、拂下、又は政府所有米の格安供給等に依り是等の急迫せる農村を救済すべく、今回の豫算上にも或程度此計畫を見積りたり。(問)法文上貸付又は交付とあるも、其區別の標準如何。(答)貸付は返還の見込あるものに對し行ひ、交付は例外の場合にして供給するも返還の見込なき困窮者に限り爲さるゝなり。而して其標準は市町村をして之を決定せしむるなり。(問)交付米穀量を五十萬石となせる根據如何。(答)東北六縣に於ける五割以上の凶作市町村、又土木事業施行困難なる町村を調査せる結果、救済を必要とするもの七十五萬人を算し、一人當り一ヶ月一斗見積り四ヶ月分の食糧の交付又は貸付をなせば約三十萬石を要すべし。其他の地方の分として十萬石、更に夫れ以外に餘裕ありしむるが爲め十萬石を加算し合計五十萬石とせり。(問)米穀特別會計法の目的は、米の數量及市價の調節の爲にする買入、賣渡にありて、無償にて交付又は貸付することを認めざるなり。然るに本案は無償にて給與することを目的とせり。斯の如きは米穀統制法の基礎を危くするものに非ざるや。(答)本案は米穀需給特別會計に屬する米穀を無償交付するものと云ひ得べきも、交付を受けたる市町村は是と同數量の米穀を所有する義務を負ひ、平常に於ては之を蓄へ、凶作に際しては之を需要に充つるものなれば、米穀統制法の需給調節の目的に自然合致し、決して米穀統制法の効力を甚しく減殺するものにあらず。

斯くして討論に入り一委員より本案に對する賛成意見の開陳あり。次で採決の結果全會一致を以て本

案を可決せり。

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく本案を可決せり。

第四章 追加豫算案

第六十六議會に於て貴族院に提出せられたる追加豫算案は、左記四件にして何れも可決せられたり。

一、昭和九年度歳入歳出豫算追加案（第一號）

一、昭和九年度各特別會計歳入歳出豫算追加案（特第一號）

一、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件（追第一號）

一、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件（追第二號）

以上四案は昭和九年十二月七日衆議院を通過（可決）し、即日貴族院に送付せられ、左記高橋大藏大臣の説明の後、直に豫算委員に付託せられたり。

茲に昭和九年度追加豫算の概要を説明するは、余の最も光榮とする所なり。

本年は不幸にも國內各地に災害相踵ぎて起り、北陸地方の水害、九州及四國地方の旱害、東北地方の冷害、朝鮮に於ける風水害等、何れも地方農村に多大の損害を與へたるのみならず、關西地方を襲ひたる風水害に因る都市農村の被害は頗る激甚を極め、災害は殆ど全國に亘りたるの感あり。而かも

罹災地方民の被弊困憊は實に見るに忍びざるものあるの状態なり。之に加ふるに繭價の下落等に因る養蠶地方の窮狀も亦甚しきものあるが故に、政府は是等災害地等の復舊救済、其他の對策に要する諸經費を提案することと爲せし次第なり。

而して是等災害等の對策の爲に要する臨時經費の總額は、一般會計に於て二億千六百餘萬圓にして、其大部分は昭和九年度及同十年度に於て之を支出し、災害復舊の長期に亘るもの等に付ては、昭和十一年度以降に於ても繼續支出せむとするの計畫なり。即ち今回提出したる昭和九年度追加豫算に於ては七千六十餘萬圓を計上せしも、更に昭和十年度に於ては六千六百十萬餘圓を、昭和十一年度以降に於ては七千九百二十餘萬圓を支出せむとするものなり。

茲に右臨時經費の總額に付き概要を説明すれば、内務省所管に於ける災害土木費補助三千七百三十餘萬圓、治水事業費二千五百十餘萬圓、大阪港復興修築費補助千九十餘萬圓、農村其他應急土木事業費二千七百七十餘萬圓、郷倉獎勵費百六十餘萬圓、災害土木助成費其他千八百七十餘萬圓、合計一億二千七百七十餘萬圓、農林省所管に於ける風水害等の復舊諸施設費三千七百餘萬圓、災害地方諸施設費二千六百六十餘萬圓、養蠶地方諸施設費九百六十餘萬圓、合計六千八百三十餘萬圓、文部省所管に於ける風水害罹災市町村立小學校復舊建築費借入金元利補給八百餘萬圓、災害地方其他市町村立尋常小學校費臨時補助三百萬圓、災害地方其他學齡兒童就學臨時獎勵費九十餘萬圓、颱風對應並寒冷觀測施設費其他四百三十餘萬圓、合計千六百五十餘萬圓が其主なるものにして、此他に大藏省、陸軍省、司法省、

商工省及逕信省所管に於て合計九百四十餘萬圓あるも、右は主として是等各省に於ける廳舎其他の風水害復舊費等なり。

尙ほ特別會計に於ても災害地方の救済等に寄與すると共に、風水害に因る應急及復舊諸施設等を行ふが爲に、通信事業特別會計資本勘定に於て三百餘萬圓、同じく業務勘定に於て百四十餘萬圓、帝國鐵道特別會計資本勘定に於て四百六十餘萬圓、朝鮮總督府特別會計に於て千二十餘萬圓を九年度以降に於て支出するの豫定なり。

次に今回提出に係る昭和九年度追加豫算に付て説明すべし。昭和九年度一般會計追加豫算案は、主として前述の災害對策に關する臨時經費中昭和九年度に於て支出を要する分にして、其金額は内務省所管三千八百九十餘萬圓、農林省所管二千四百餘萬圓、文部省所管二百餘萬圓、及び大藏省、陸軍省、海軍省、司法省、商工省並に逕信省所管に於て合計五百六十餘萬圓にして、之が總計は七千六十餘萬圓なり。右の災害關係經費の外本追加豫算には外務省所管に於て日蘭通商會議委員派遣費十八萬七千餘圓、大藏省所管に於て對滿事務局新設に關する經費六百餘萬圓、是等を計上せしものなるも、右は何れも緊急已むを得ざる經費なり。而して之が財源は歳出に伴ふ普通歳入百八萬餘圓を除き、他は全部公債財源に依るの豫定なり。次に特別會計に於ても、災害應急及復舊施設費に關し、通信事業特別會計資本勘定に於て七十三萬餘圓、同じく業務勘定に於て百四十餘萬圓、帝國鐵道特別會計資本勘定に於て三百十萬圓、朝鮮總督府特別會計に於て四百三十餘萬圓をそれ／＼計上したり。而して其財源

は通信事業に於ては本年度歳入金の増加、帝國鐵道に於ては前年度持越資金、朝鮮總督府に於ては主として前年度剩餘金繰入に依ることと爲したり。尙ほ此際一般並に各特別會計を通じて、繼續費又は豫算外國庫の負擔に屬する奨約の協賛を経ることを要するものは、それ／＼其提案を爲せる次第なり。

以上政府提出の豫算に付ては衆議院に於て全部政府提出案の通り可決せられたり。

災害地方等の復舊其他の對策に付ては、以上の如く豫算に計上したる國費の支出の外、罹災者に對する租税の減免並に徴收猶豫の途を開くこととし、別途法律案を提出したるのみならず、豫金部よりも出來得る限り多額の低利資金を供給し、其復舊復興を援助するの方針なり。即ち罹災各地に於ける小學校其他の公共施設の復舊事業費、罹災者の復舊資金及早害冷害地方等に於ける農村其他應急土木事業費等に付ては、國庫の助成に依るの外資金の借入を必要とするものに對し、其負擔の輕減を爲め預金部資金を融通するの計畫なり。尙ほ地方公共團體各種組合及罹災者の災害復舊に關する事業等にして、國庫の助成なきものに對しても同様豫金部資金を融通し、之が復舊を援助するの計畫なるも、是等融通豫定の金額は總額約二億圓にして、内昭和九年度分は九千六百餘萬圓なり。罹災地に於ける中小商工業復興の爲にも、政府に於て特別の施設を爲するの必要ありと認め、是等地方に於ける中小商工業者に對して金融機關が貸付を爲し、之に依り損失を受けたるに對し道府縣又は市が損失補償を爲したるときは、國庫は道府縣又は市の區域内に於ける貸付金總額の十分の二を限度とし、總額

七百萬圓を限り道府縣又は市に對し其補償額の二分の一以内の金額を補給するを得るの制度を設けむとするものにして、之に依り銀行等の罹災地中小商工業者の貸付に付き資金融通の圓滑迅速を圖り、且つ貸付利率を低下せしむるを得るものと思ふ。右補償制度に依り金融機關の貸出し得る金額は三千五百萬圓にして、本制度は銀行等の自己資金に依る貸付にも適用せらるるものなるも、預金部としては特に條件を緩和したる資金を供給することとし、差當り千五百萬圓の融通を決定せり。

以上の如く政府は今回の豫算案に基く國費支出並に豫金部資金の融通等に依り、是等罹災地の復舊復興並に救済に關し最善を盡すの考なれども、國民各自に於ても此際出來得る限り將來に於ける災禍を未然に防止するの計畫を立つると共に、避くべからざる天災の場合に於ても成るべく其損害を少からしむるの用意を怠らず、以て今回の災害が教示せる各種の經驗を永く善用し、禍を轉じて福と爲すの實を擧ぐるの必要ありと信するものなり。

終りに臨み本豫案に對し、協賛を與へられむことを希望する次第なり。

以上大藏大臣の説明後、國務大臣の演説に對する質疑に入り、津村重舍君(研)と廣田外務大臣との間に米國「アリゾナ」洲に於ける邦人排斥事件に關し質問應答ありたり。(紙數の關係上其内容の詳細は之を總べて議事速記録に譲る)。

豫算委員は十一月三十日伯爵柳澤保惠君を委員長に、男爵大井成元君を副委員長に擧げたり。

委員會は十二月七日及び八日の兩日之を開會し、各分科會は之を省略せり。十二月八日昭和九年度歳入歳出總豫算追加案外三件は、何れも衆議院議決案の通り可決せられ、委員長より各案議決報告書を議長に提出せり。

翌九日の本會議に於て、柳澤委員長は委員會に於ける各案審査の經過及結果を報告せり。其要旨左の如し。

豫算委員會の經過並に結果を報告すべし。先づ豫算の概要を説明す(別項大藏大臣の説明参照)。

委員會に於ては會議の日數短期なりしが爲に、質問者の數は僅に六名に止り、其質問に係る問題は第一、一般財政計畫、第二、農村問題、第三、冷害對策、第四、罹災救助基金、第五、對滿機構問題等なり。以下順次是等の質問應答の概要を報告すべし。

第一、一般財政計畫に關する問題。本問題に付ては前藏相と現藏相の財政方針は異なるが如く思はるるも如何と質し、其他各種の問題に付て質問ありたり。之に對する政府の答辯は次の如し。政府は公債を唯無暗に發行することを能とするものに非ず。原理としては入るを計つて出づるを制すといふことに従ふべきは當然のことなれども、現下の状態は之を許さず。然れども我國に於ては外國に於けるが如く、外國の資本の爲に國內の經濟界が攪亂せらるることなきは誠に幸なり。而して現在の我國としては國防を以て第一の必要なりとし、是が爲に數億の經費を要し赤字公債を發行するに至るとも、夫は外交を支持せむが爲には又已むを得ざるものなり。或は今日増稅論ありと雖も、是は他日の爲の用意として殘し置くを必要なりと考ふ。又今日の狀態に於ては赤字公債は極度に達せしものとは考へず。

今年及び來年度に於て相當多額の赤字公債を發行するも、尙ほ大丈夫なりと思惟す。然れども發行限度を問はるるも、之には即答するを得ざる次第にして、社會の情勢より考慮して判斷する外致し方なきものと思ふ。地方の赤字公債の監督に付ては、内務省及び大藏省に於て嚴重なる監督を爲し、地方の狀況及び金融機關の狀態を十分に考慮して其發行に注意すべし。次に低金利公債の銷却方法として其財源を定むることは困難なるも、先づ増税に求むるより外途なしと考ふ。然れども之が爲には更に時期を誤らざらむことを必要とするものにして、現在は其時期に到達せるものにあらず。元來低金利なるものは勞資の争を避くるが爲に必要なものにして、公債を安く發行するを目的となすものにあらず。次に會計法の適用に關する件にして、豫算通過するも歳入に缺陷を生ずる場合、例へば増税の收入を見込みたるに拘らず増税等の不成立を來せし如き場合に於て豫算不成立に終るに非ずやとの質問なるも、斯の如き場合に於ては支出の減少を計るか或は收入を補充するの途を執るべきものにして、豫算の不成立にはあらず。次に先般衆議院に於て一億八千萬圓問題の起りたる際に、總理大臣は速記録の如き言明を爲せるも、其意味如何との質問あり、之に對し夫は簡單に言へば、「此後に於て何か新しいことが起る場合、眞に必要なりと認むる時には考慮する」との意味なる旨を答辯せり。

第二、農村問題。農村救済の具體案に付て陸軍大臣に質問せるに對し、多くの農民は國防上兵役に従事するものなるも、農村救済の方法を陸軍より世上に呼び掛くるは如何かと考ふ。是に付ては又他にも途あり。次に例の「パンフレット」問題に付ては、之に關しては随分世間に誤解あるが如くなる

も、是は國防上大體の指針を與へたるものにして、個々の問題に付て具體的に言ふことを避け、研究問題を提供したる次第にして、之を今後追々研究せむとするものなり。又世間に於ては軍がしかく云々と言ふも、是は大なる間違にして、陸軍省發表或は大臣の聲明と云ふものと、新聞班の言ふこととは自ら區別あるものなるが故に、此點留意ありたし。新聞記事には相當多くの誤謬あるが如し、等の答辯を爲したり。

第三、冷害對策に關する問題。是は主として東北六縣に關する問題なり。之に付て政府の調査は甚しく遅延し、從て豫算の内容も不十分なるも、就ては將來十分の配慮を希望すると共に、又來年に於て今年の如き禍害起りたる場合は如何にする考なりやとの質問に對し、政府は豫算に計上せし二三の事項を説明せられたり。即ち本豫算の目的は當面の急を救ふに在りて、其中に於て見らるるが如く、或は太平洋の潮流調査の爲に船舶を建造するの企あり、或は農作物の種子の選定に關するものあり、或は又東北振興調査會創定に關するものもあるも、是等は何れも應急の施設にして、又將來の災害に對する用意なりとす。又洋上の氣象觀測に相當の經費を支出せしも、更に財政の都合に依りては府縣の測候所を増加したき旨を答辯せり。

尙ほ高等小學廢止の風聞、小學教員の俸給の行渡らざること、缺食問題、醫療問題、粃の貯藏に關する補助金減額及其理由、町村農事技術員缺員の補充、馬の保護に關する問題、國有林野の交付金の増額、東北地方の下級の軍人に對する救助の有無、副業として軍需工業の發達如何と云ふが如き微細な

る質問ありたるも、是等の一二の點を除きては質問者に十分の満足を與へざるもの如く思はれたり。
第四、罹災救助基金問題。第六十三議會に於て罹災救助基金法の改正ありたるも、是等救貧行政として、社會事業の爲の支出金は九年度を以て打切るや否やとの質問あり。之に對しては九年及十年度に於ては、財政窮乏の土地に付ては社會事業の爲に使用することとすべし。十一年度以降に付ては其場合に至りて考慮すべしとの答辯ありたり。

第五、滿洲問題。滿洲問題に付ては非常に詳細なる質問ありたり。先づ新機構其他に付ての抱負に關する件にして、從來の成績を見るに種々なる言明ありしも實行之に伴はざるものあり、其抱負決心等は通常議會に於て伺ふべしと前提し次の如き質問を爲せり。(問)移民問題に付ては種々の計畫あるが如きも、當局の決心如何。(答)移民は最も必要なる案件の一なれども、治安が改善せられれば十分には行はれざるものなり。故に先づ治安の方面に力を盡すの考なり。而して調査の上移民の可能なること分明せば、十分之を實行し、又是は武裝移民のみならず、普通の移民に付ても及ばざむとするものにして、斯くして經濟的發展を期待する次第なり。(問)目下立案中の對滿事務局、關東局の組織權能に關する質問八箇條ありたり。之に對する政府の答辯を一括して報告すべし。(答)當局の抱負は滿洲國の獨立を尊重し、日滿兩國の不可分關係を密接ならしむるに在り。又兩國の經濟關係の統整に付ても十分研究すべし。對滿事務局は總理大臣の補助機關として行動するものにして、軍務及び外交の問題には與らず。即ち拓務省所管内の關東洲及び滿洲に關する部分を移管するものなり。又關東局長

の下に現役軍人を任ずるも、是は文官的の事務を執るものにして、又此局の下に司政、警務、監理の三部を置くものなり。但し官制の決定までには多少の變更あるやも知れずと雖も、大體前述の如く決定を見るに非ずやと考ふ。

次に滿鐵附屬地の行政權還付の問題に付て質問ありたり。是に關しては昨年の議會に於て外務省の答辯あり。滿鐵附屬地の返還の意思なきことは前年申されたる所なるも、今又行政權還付に付ても考慮せざる旨の答辯ありたり。然れども今日の滿洲國は支那時代と異なり、日滿協力して運命を共にせざる可からざるの場合なれば、從來と同様なる状態を以て進むや否やは十分考究の必要あるべきも、我國に不利なるものに付ては考慮するを欲せざるが如き答辯ありたり。

質問應答の大意は以上を以て終りたり。而して質問終了後、分科に移さずして直に委員會に於て討論採決の結果付託四案何れも異議なく可決せられたり。

委員長報告後質問に移り、男爵阪谷芳郎君(公)は大意左の如き質問を爲せり。對滿事務局が新設せらるるは對滿事務統轄の爲に甚だ結構なることにして、從て其豫算に賛成する旨を述べ、更に滿洲に關係する各種の問題は常に鐵道が其の因を爲すものなるが故に、此弊害を除去せむが爲に、又延いて日滿親善保持の上よりして南滿洲鐵道株式會社の組織の上にも大なる變革を加へざるべからざるものと考ふ。又日滿雙方の利害衝突を防止せむが爲には、該鐵道を兩國の共有と爲すを妥當なるものと考ふるも、右會社の基本條例(第二條)に依れば滿洲國及び滿洲國人は同會社の株主たることを得ざる結果となり兩國の

利害の一致を得るは不可能なり。本條例を改正して此根本問題を解決すべきものなりと考ふるも所見如何と質し、之に對し岡田内閣總理大臣は條例の改正及び改正後の措置に付ては考究中なり。又滿鐵の株を滿洲國に所有せしむるや否やに付ては同會社の將來の經營問題として十分善處する所あるべしと答辯を爲せり。

次で討論に移り、子爵前田利定君(研)は今回災害對策の爲に臨時議會を召集せられたるは結構なることなるも、其開會時期の遅延せしは洵に遺憾なり。又本豫算は所謂災害豫算なるも、果して全國各地方に起りたる災害を救済するに十分なりや否やを疑ふものなり。豫算委員會に於て總理大臣が「實情に即して緊急施設を要するが如き場合には、それに付て考究することは吝かならず」と言明せられしは、此事實を裏書するもの如く考へらる。又本豫算には何等根本的恒久對策に關するものを見出し得ざるが故に甚だ遺憾なり。次に又折角東北振興調查會を設くるに至れるものなれば、之が善用を望む。何卒今後の對策に付ては十分熟慮あらむことを切望すとの要旨を述べて本豫算に賛成する旨を開陳せり。討論を終りて引續き採決の結果、全會一致を以て委員長報告通り右四案を可決せり。

第五章 請願

第六十六回帝國議會に提出せられたる請願書受領件数は二十二件にして、其中、採擇に決したるもの十

九件、審議未了のもの三件なり。

請願委員會は昭和九年十一月三十日伯爵酒井忠克君を委員長に、男爵東久世秀雄君を副委員長に擧げ、前例に依り分科竝に分科擔當委員の選定は省略し、總會を開くこと四回にして終了せり。十二月五日及同月八日の本會議に於て、酒井委員長は委員會に於ける請願審査の經過及結果を報告せり。

請願委員會特別報告に係る請願は本會議に於て、何れも採決することに議決せられたり。其請願の件名左の如し。

- 一、高知市、宇佐町間ニ省營自動車運輸開始ノ件
- 一、義務教育費國庫支辨ニ關スル件
- 一、實業補習學校ト青年訓練所ノ統合ニ關スル件
- 一、義務教育費臨時國庫補助金繼續ニ關スル件
- 一、相坂川改修ノ件
- 一、災害地ニ於ケル母子保護ニ關スル件
- 一、氣象觀測機關整備ニ關スル件
- 一、岡山縣倉敷、矢掛間ニ省營自動車運輸開始ノ件
- 一、岡山縣清音、西總社間ニ省營自動車運輸開始ノ件

第五章 請願案

- 一、青森縣川内町ニ護岸工事施行ノ件
 - 一、罹災救助基金法附則ノ適用繼續ニ關スル件
 - 一、政府所有米貸下ニ關スル件（八件）
- 以上

附

錄

附 録

第一 第六十六回帝國議會貴族院議案經過一覽

(各件名の下に記したる頁数は報告書本文の索引とす)

●法律案(四件)

○政府提出案(四件)

可決したるもの(四件)

- 一、風水害ニ依ル被害者ニ對スル租税ノ減免猶豫等ニ關スル法律案……………二一
- 一、昭和九年法律第五號中改正法律案……………二三
- 一、都市計畫法中改正法律案……………二五
- 一、凶作地ニ對スル政府所有米穀ノ臨時交付ニ關スル法律案……………二七
- 豫算案及豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件(四件)
- 一、昭和九年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)……………二七
- 一、昭和九年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)……………二八
- 一、豫案外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第一號)……………二九
- 一、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)……………三〇
- 請 願(十九件)
- 一、本會議に於て採擇すべしと決したるもの(十九件)……………三〇



第二 第六十六回帝國議會國務大臣並政府委員一覽

國務大臣

內閣總理大臣	岡田啓介君
大藏大臣	高橋是清君
內務大臣	後藤文夫君
海軍大臣	大角岑生君
外務大臣	廣田弘毅君
陸軍大臣	林銑十郎君
逓信大臣	床次竹二郎君
司法大臣	小原直君
商工大臣	町田忠治君
農林大臣	山崎達之輔君
文部大臣	松田源治君
鐵道大臣	內田信也君
拓務大臣	伯爵兒玉秀雄君

政府委員

內閣書記官長	吉田茂君	法制局長官	金森德次郎君
法制局參事官	樋貝詮三君	法制局參事官	森山銳一君
外務政務次官	井阪豐光君	外務參與官	松本忠雄君
外務省通商局長	來栖三郎君	外務書記官	岡本季正君
內務政務次官	男爵 大森佳一君	內務參與官	伯爵 橋本實斐君
內務省神社局長	石田馨君	內務省地方局長	安井英二君
內務省警保局長	唐澤俊樹君	內務省土木局長	廣瀬久忠君
內務省衛生局長	岡田文秀君	內務書記官	山崎巖君
內務書記官	松村光磨君	社會局長官	赤木朝治君
北海道廳長官	佐上信一君	大藏政務次官	男爵 矢吹省三君
大藏參與官	豐田收君	大藏省主計局長	賀屋興宣君
大藏省主稅局長	(辭任) 中島鐵平君	大藏省主稅局長	(就任) 石渡莊太郎君
大藏省理財局長	青木一男君	大藏省銀行局長	川越丈雄君
大藏書記官	入間野武雄君	大藏書記官	山田龍雄君
大藏書記官	(辭任) 石渡莊太郎君	預金部長	荒井誠一郎君

陸軍政務次官	子爵 土岐 章君	陸軍參與官	石井三郎君
陸軍主計總監	平手勘次郎君	陸軍少將	永田鐵山君
陸軍一等主計正	大城戶仁輔君	海軍政務次官	伯爵 堀田正恒君
海軍參與官	窪井義道君	海軍主計中將	村上春一君
海軍中將	吉田善吾君	海軍主計大佐	石黑利吉君
司法政務次官	原 夫次郎君	司法參與官	子爵 舟橋清賢君
司法省刑事局長	木村尙達君	司法書記官	黑川 涉君
文部政務次官	添田敬一郎君	文部參與官	山榊儀重君
文部省專門學務局長	赤間 信義君	文部普通學務局長	下村壽一君
文部書記官	男爵 山川 建君	農林政務次官	守屋榮夫君
農林參與官	森 肇君	農林省農務局長	小濱八彌君
農林省山林局長	村上龍太郎君	農林省水產局長	戶田保忠君
農林省畜產局長	高橋武美君	農林省蠶絲局長	井野碩哉君
農林省米穀局長	荷見 安君	農林省經濟更生部長	小平權一君
農林書記官	田淵敬治君	商工政務次官	勝 正 憲君
商工參與官	高橋守平君	商工省商務局長	村瀬直養君

商工省工務局長	竹內可吉君	商工省貿易局長	寺 尾 進君
商工省鑛山局長	福田庸雄君	商工書記官	東 榮 二君
遞信政務次官	青木精一君	遞信參與官	平野光雄君
遞信省經理局長	富安謙次君	鐵道政務次官	樋口典常君
鐵道參與官	兼田秀雄君	鐵道省經理局長	工藤義男君
鐵道省監督局長	前 田 穰君	鐵道省運輸局長	新井堯爾君
鐵道省建設局長	河原直文君	鐵道省工務局長	平井喜久松君
拓務政務次官	櫻井兵五郎君	拓務參與官	佐 藤 正君
拓務書記官	小河正儀君	朝鮮總督府政務總監	今井田清德君
朝鮮總督府財務局長	林 繁 藏君		

第三 第六十六回帝國議會貴族院全院委員長及常任委員一覽

備考 各氏名下に記したる(研)は研究会、(公)は公正會、(交)は交友俱樂部
(和)は同和會、(成)は同成會、(火)は火曜會を示す。

全院委員長 公爵 徳川 圀 順君(火)

常任委員

資格審査委員

委員長 子爵 青木 信 光君(研)

副委員長 織 田

萬君(和)

侯爵 山内 豊 景君(火)

伯爵 二 荒 芳 徳君(研)

關屋貞三郎君(研)

黒崎 定三君(研)

男爵 伊藤 文 吉君(公)

菅原通 敬君(成)

大西虎之介君(交)

豫算委員

委員長 伯爵 柳 澤 保 惠君(研)

副委員長 男爵 大井 成 元君(公)

公爵 一條 實 孝君(火)

侯爵 西郷 從 徳君(火)

侯爵 徳川 義 親君(火)

侯爵 大隈 信 常君(火)

侯爵 細川 護 立君(火)

侯爵 佐佐木 行 忠君(火)

侯爵 徳川 頼 貞君(火)

伯爵 溝口 直 亮君(研)

伯爵 黒木 三 次君(研)

男爵 坂本 俊 篤君(公)

子爵 大久保 立君(研)

子爵 前田 利 定君(研)

子爵 井上 匡 四郎君(研)

子爵 渡邊 千 冬君(研)

子爵 藪 篤 麿君(研)

子爵 大河内 輝 耕君(研)

子爵 伊東 二 郎 九君(研)

子爵 岡部 長 景君(研)

子爵 西尾 忠 方君(研)

子爵 織田 信 恒君(研)

子爵 高橋 是 賢君(研)

子爵 松平 康 春君(研)

眞野 文 二君(和)

芳澤 謙 吉君(交)

男爵 四條 隆 英君(公)

内田 重 成君(交)

坂西利八郎君(研)

男爵 太田 政 弘君(研)

柴田 善三 郎君(成)

男爵 淺田 良 逸君(公)

男爵 井田 磐 楠君(公)

男爵 岩倉 道 俱君(公)

潮 惠之 輔君(研)

男爵 渡邊 汀君(公)

男爵 小畑 大 太郎君(公)

男爵 大藏 公 望君(公)

男爵 稻田 昌 植君(公)

男爵 深尾 隆 太郎君(公)

橋本圭三郎君(交)

竹越 與三 郎君(交)

倉知 鐵 吉君(和)

山岡萬之助君(研)

田所 美 治君(和)

次田 大 三 郎君(成)

松村 義 一君(公)

加藤 政之 助君(成)

辭任 阿部 房次 郎君(和)

江口 定 條君(和)

金杉 英五 郎君(研)

久保 市三 郎君(研)

上松 泰 造君(研)

藤原 銀次 郎君(研)

宇野 勇 作君(交)

鶴澤 總 明君(交)

長野 忠 次君(研)

濱口 儀兵 衛君(研)

小林 嘉平 治君(和)

絲原武太郎君(研) 金岡又左衛門君(成) 松岡潤吉君(研)
澁澤金藏君(交) 補闕 川崎卓吉君(和)

懲罰委員

委員長 公爵 德川家 達君(火) 副委員長 木場貞長君(研)
侯爵 大久保利武君(研) 子爵 伊集院兼知君(研) 水上長次郎君(交)
上山滿之進君(和) 伊澤多喜男君(成) 男爵 赤松範一君(公)
男爵 千秋季隆君(公)

請願委員

委員長 伯爵 酒井忠克君(研) 副委員長 男爵 東久世秀雄君(公)
公爵 山縣有道君(火) 侯爵 池田仲博君(火) 侯爵 中御門經恭君(火)
侯爵 井上三郎君(火) 侯爵 小村捷治君(火) 男爵 安保清種君(公)
子爵 仙石政敬君(研) 子爵 清岡長言君(研) 子爵 松平保男君(研)
子爵 立花種忠君(研) 子爵 水無瀨忠政君(研) 子爵 井上勝純君(研)
子爵 米倉昌達君(研) 子爵 濱尾四郎君(研) 男爵 若林資藏君(研)
宮尾舜治君(研) 男爵 高崎弓彦君(公) 男爵 北島貴孝君(公)
男爵 沖貞男君(公) 男爵 伊藤一郎君(公) 男爵 本多政樹君(公)

男爵 肝付兼英君(公)

坂野鐵次郎君(成)

岡田文次君(和)

大橋新太郎君(研)

今井五介君(研)

光永星郎君(和)

橋本辰二郎君(研)

野村茂久馬君(研)

油井德藏君(成)

吉田羊治郎君(交)

津村重舍君(研)

佐藤龜八郎君(研)

佐々木八十八君(和)

岩田宙造君(和)

田中德兵衛君(交)

飛嶋文吉君(研)

平沼亮三君(成)

金成通君(研)

風間八左衛門君(研)

青木才次郎君(交)

水野甚次郎君(交)

山上岩二君(交)

決算委員

委員長 公爵 鷹司信輔君(火)

副委員長 子爵 秋月種英君(研)

公爵 島津忠承君(火)

侯爵 佐竹義春君(火)

侯爵 山階芳麿君(火)

侯爵 松平康昌君(火)

伯爵 有馬頼寧君(研)

伯爵 後藤一藏君(研)

松浦鎮次郎君(和)

子爵 西大路吉光君(研)

子爵 今城定政君(研)

子爵 片桐貞央君(研)

子爵 秋元春朝君(研)

子爵 富小路隆直君(研)

子爵 鍋島直繩君(研)

男爵 千田嘉平君(公)

三井清一郎君(研)

山川端夫君(研)

男爵 松尾義夫君(公)

男爵 周布兼道君(公)

男爵 安場 保健君(公)	男爵 三須 精一君(公)	男爵 加藤 成之君(公)
男爵 岩村 一木君(公)	男爵 山根 健男君(公)	永田 秀次郎君(和)
大塚 惟精君(研)	森 平兵衛君(研)	松本 眞平君(研)
林 平四郎君(交)	下出 民義君(交)	田村 新吉君(成)
三 橋 彌君(交)	久恒 貞雄君(交)	鈴木 幸作君(研)
平尾 喜三郎君(研)	松本 勝太郎君(和)	山本 米三君(成)
野村 德七君(和)	松澤 清次郎君(研)	米原 章三君(研)
大和田 建三郎君(成)	岩崎 清行君(交)	大谷 尊由君(研)
上野 喜左衛門君(研)		

第四 研究會會員一覽

(昭和九年十一月廿七日現在)

(一) の部

子爵 伊集院 兼知君	子爵 井上 匡四郎君	子爵 今城 定政君
子爵 池田 政時君	子爵 井伊 直方君	子爵 伊東 二郎九君
子爵 井上 勝純君	子爵 岩城 隆徳君	勅選 市來 乙彦君
勅選 今井 五介君	勅選 磯村 豊太郎君	多額 板谷 宮吉君
多額 石川 三郎君	多額 絲原 武太郎君	

(八) の部

伯爵 林 博太郎君	伯爵 橋本 實斐君	子爵 濱尾 四郎君
勅選 坂西 利八郎君	勅選 八田 嘉明君	勅選 馬場 鏌一君
多額 橋本 辰二郎君	多額 濱口 儀兵衛君	

(二) の部

子爵 西大路 吉光君	子爵 西四辻 公堯君	子爵 西尾 忠方君
勅選 西野 元君	多額 西本 健次郎君	

(ホ) の部

伯爵 堀田 正恆君	子爵 保科 正昭君	勅選 堀切 善次郎君
-----------	-----------	------------

勅選 堀 啓次郎君

多額 細田安兵衛君

(ト)の部

子爵 豊岡圭資君

子爵 富小路隆直君

子爵 戸澤正己君

子爵 土岐章君

勅選 富谷銚太郎君

多額 飛嶋文吉君

(ヲ)の部

侯爵 大久保利武君

伯爵 小笠原長幹君

子爵 大久保立君

子爵 大河内輝耕君

子爵 岡部長景君

子爵 織田信恒君

子爵 大岡忠綱君

勅選 太田政弘君

勅選 岡崎邦輔君

勅選 大塚惟精君

勅選 大橋新太郎君

勅選 小倉正恆君

勅選 大谷尊由君

多額 大澤徳太郎君

(ワ)の部

子爵 渡邊千冬君

勅選 若林實藏君

(カ)の部

伯爵 川村鐵太郎君

伯爵 樺山愛輔君

子爵 加藤泰通君

子爵 片桐貞央君

勅選 金杉英五郎君

多額 上郎清助君

多額 金子元三郎君

多額 金成通君

多額 風間八左衛門君

(ヨ)の部

子爵 吉田清風君

子爵 米津政賢君

子爵 米倉昌達君

多額 米原章三君

(タ)の部

子爵 立見豊丸君

子爵 立花種忠君

子爵 高橋是賢君

子爵 高木正得君

多額 高鳥順作君

(レ)の部

子爵 冷泉爲勇君

(リ)の部

子爵 曾我祐邦君

(ツ)の部

多額 津村重舍君

(ネ)の部

勅選 根津嘉一郎君

(ナ)の部

子爵 鍋島直繩君

勅選 内藤久寛君

多額 中村圓一郎君

多額 名取 忠愛君

多額 仲田 傳之助君

多額 長野 忠次君

(ウ)の部

子爵 梅小路 定行君

子爵 裏松 友光君

子爵 植村 家治君

子爵 梅園 篤彦君

勅選 潮 惠之輔君

多額 上松 泰造君

多額 上野 喜左衛門君

(ノ)の部

子爵 野村 益三君

多額 野村 茂久馬君

(ク)の部

侯爵 黒田 長成君

伯爵 黒木 三次君

勅選 黒崎 定三君

多額 久保市三郎君

多額 久米田 新太郎君

(ヤ)の部

伯爵 柳澤 保惠君

伯爵 柳原 義光君

子爵 藪 篤麿君

勅選 山川 端夫君

勅選 山岡 萬之助君

多額 山 隈 康君

(マ)の部

伯爵 松木 宗隆君

伯爵 松平 頼壽君

子爵 松平 直平君

子爵 牧野 忠篤君

子爵 前田 利定君

子爵 松平 乘統君

子爵 松平 保男君

子爵 蒔田 廣城君

子爵 松平 忠壽君

子爵 松平 康春君

勅選 松村 真一郎君

勅選 松本 真平君

多額 松澤 清次郎君

多額 松岡 潤吉君

(フ)の部

伯爵 二荒 芳徳君

子爵 舟橋 清賢君

勅選 藤沼 庄平君

勅選 藤山 雷太君

勅選 藤原 銀次郎君

(コ)の部

伯爵 兒玉 秀雄君

伯爵 後藤 一藏君

子爵 近衛 秀麿君

勅選 木場 貞長君

(ア)の部

伯爵 有馬 頼寧君

子爵 青木 信光君

子爵 秋月 種英君

子爵 秋田 重季君

子爵 秋元 春朝君

子爵 安藤 信昭君

子爵 綾小路 護君

勅選 有賀 光豊君

(サ)の部

伯爵 酒井 忠克君

伯爵 酒井 忠正君

子爵 實吉 純郎君

多額 佐藤 龜八郎君

(キ)の部

子爵 清岡長言君

(ミ)の部

伯爵 溝口直亮君

子爵 三室戸敬光君

子爵 水無瀬忠政君

子爵 三島通陽君

勅選 三井清一郎君

勅選 宮尾舜治君

勅選 宮田光雄君

多額 三木與吉郎君

(シ)の部

子爵 白川資長君

子爵 新庄直知君

勅選 勝田主計君

多額 白勢春三君

(ヒ)の部

多額 平尾喜三郎君

(モ)の部

子爵 毛利元恒君

多額 森平兵衛君

子爵 仙石政敬君

勅選 關屋貞三郎君

(ス)の部

多額 鈴木幸作君

第五 昭和九年十二月二十七日以降ノ研究會會員移動
勅選 松本 學君 昭和九年十二月七日 入會

第六 研究會 役員 一覽

(昭和九年十一月廿七日現在)

常務委員

伯爵 溝口直亮君	伯爵 酒井忠正君	子爵 大久保立君
子爵 伊東二郎九君	子爵 保科正昭君	子爵 松平康春君
勅選 西野元君	勅選 金杉英五郎君	多額 松本眞平君
多額 風間八左衛門君		

研究會幹事

子爵 松平忠壽君	子爵 三島通陽君
----------	----------

研究會會計監督

子爵 梅小路定行君	子爵 松平直平君	子爵 池田政時君
-----------	----------	----------

協議員

候爵 大久保利武君	伯爵 松木宗隆君	伯爵 黒木三次君
伯爵 小笠原長幹君	子爵 松平直平君	子爵 青木信光君
子爵 牧野忠篤君	子爵 前田利定君	子爵 渡邊千冬君
子爵 曾我祐邦君	子爵 岡部長景君	子爵 西尾忠方君
勅選 坂西利八郎君	勅選 山岡萬之助君	勅選 馬場鏌一君

多額 森平兵衛君	多額 高鳥順作君	多額 鈴木幸作君
多額 濱口儀兵衛君	勅選 大谷尊由君	多額 松岡潤吉君

政 務 審 查 部

(昭和九年十一月廿七日現在)

政務審查長

伯爵 黒木三次君

政務審查副長

子爵 裏松友光君

政務審査部幹事

子爵 安藤信昭君

第一部長 子爵 高橋是賢君

第二部長 伯爵 二荒芳徳君

第三部長 子爵 藪 篤 麿君

第四部長 子爵 鍋島直繩君

第五部長 子爵 片桐貞央君

第六部長 伯爵 有馬頼寧君

第七部長 子爵 吉田清風君

子爵 高木正得君

同 理事 伯爵 後藏一藏君

同 理事 子爵 秋月種英君

同 理事 子爵 實吉純郎君

同 理事 子爵 立見豐丸君

同 理事 子爵 米倉昌達君

同 理事 子爵 加藤泰通君

同 理事 子爵 松平保男君

子爵 綾小路 護君

子爵 大岡忠綱君

子爵 濱尾四郎君

子爵 富小路隆直君

子爵 井上勝純君

子爵 植村家治君

子爵 秋元春朝君

子爵 戸澤正己君

第六十七回帝國議會貴族院議事經過報告書

目次

第一章 總說	一頁
第二章 施政方針、外交及財政に關する演說	三
第三章 法律案	一四
第一節 第一部(大藏)關係法律案	一四
第二節 第二部(外務、司法)關係法律案	四五
第三節 第三部(內務、文部)關係法律案	五五
第四節 第四部(陸軍、海軍)關係法律案	六七
第五節 第五部(農林、商工)關係法律案	七一
第六節 第六部(遞信、鐵道)關係法律案	八〇
第七節 第七部(內閣、拓務)關係法律案	八三
第八節 議決に至らざりし法律案	八六
第四章 豫算案	一〇七

第一節 總豫算案……………一〇八

第二節 追加豫算案……………一五三

第五章 事後承諾案……………一六三

第六章 決算及國有財産法に依る報告……………一六五

第七章 建議案及決議案……………一七〇

第八章 請願……………一七六

附録

第一 第六十七回帝國議會貴族院議案經過一覽……………一

第二 第六十七回帝國議會國務大臣並政府委員一覽……………九

第三 第六十七回帝國議會貴族院全院委員長及常任委員一覽……………一四

第四 研究會會員一覽……………一九

第五 研究會會員移動……………二五

第六 研究會役員一覽……………二六

第六十七回帝國議會貴族院議事經過報告書

第一章 總説

第六十七回帝國議會は昭和九年十二月二十四日を以て召集せられ、貴族院及衆議院は何れも部屬の抽籤、部長理事の互選を終りて即日其成立を告げたり。

十二月二十六日 天皇陛下貴族院に御親臨、帝國議會の開院式を行はせられ、左の勅語を賜ふ。

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

帝國ト締盟各國トノ交際ハ益々親厚ヲ加フ朕深ク之ヲ欣フ

朕ハ國務大臣ニ命シテ昭和十年度豫算案及各般ノ法律案ヲ帝國議會ニ提出セシム卿等克ク朕カ意ヲ體シ和衷審議以テ協贊ノ任ヲ竭サムコトヲ望ム

翌二十七日貴族院は本會議を開き、議長の起草に係る左の勅語奉答書案を議題とし、全會一致を以て之を可決せり。

貴族院議長 臣近衛文麿 誠恐誠惶謹テ

叡聖文武天皇陛下ニ上奏ス

爰ニ第六十七回帝國議會開院ノ盛典ヲ行ハセラレ優渥ナル

勅語ヲ賜フ臣等謹テ

叡旨ヲ奉體シ慎重審議協贊ノ任ヲ竭シ以テ

皇猷ヲ贊襄セムコトヲ期ス臣等恐懼ノ至ニ任ヘス謹テ奉答ス

近衛議長は奉答書捧呈の爲め直に參内し、 天皇陛下に拜謁仰付けられ奉答書を捧呈したるに、更に

左の 勅語を賜はりたり。

朕貴族院ノ深厚ナル敬禮ヲ嘉ス

議長參内の間に、議場に於て全院委員長の選舉、及び各部常任委員の選舉行はれたり。(全院委員長及常任委員の氏名は附録參照)

同日貴族院は恒例に依り緊急事件の生ぜざる限り、昭和十年一月二十日迄休會することを議決せり。

昭和十年一月二十二日貴族院の本會議に於て、岡田内閣總理大臣の爲したる施政方針並に廣田外務大臣の爲したる外交問題に關する演說に對し、通告順に依り議員と國務大臣の間に質問應答を重ね、更に各議案に對し慎重審議を竭したり。

斯くて三月二十五日會期終了を告げ、翌二十六日閉院式を行はせられ、左の 勅語を賜はりたり。

朕貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

朕本日ヲ以テ帝國議會ノ閉會ヲ命シ併セテ卿等勵精克ク協贊ノ任ヲ竭セルノ勞ヲ嘉獎ス

茲に於て第六十七回帝國議會は閉會せられたり。

本議會は通常議會なるを以て、相當多數の重要なる議案提出せられ、慎重なる審議を竭されたるが、我研究會員諸君は日夜勵精克く其任に當り、公正なる態度を以て之に處し、貴族院議員たるの本分を全うせられしは洵に欣快とする所なり。

第二章 施政方針、外交及財政に關する演說

昭和十年一月二十二日貴族院の本會議に於て、岡田内閣總理大臣及廣田外務大臣は施政方針並に外交問題に關し演說を爲せり。其要旨左の如し。

岡田内閣總理大臣

舊臘臨時議會に於て諸君の御協力に依り、急を要する追加豫算案等の協贊を得、年改つて再び茲に諸君と相見え、施政の方針に付き政府の所見を開陳することは余の光榮とする所なり。

帝國の東亞に於ける地位は、漸次一般の理解する所となり、帝國と友邦各國との親善關係は益々増進しつゝあり。殊に隣接諸邦との友好關係に付ては、帝國政府の夙に努力を拂ひし所にして、ソヴィエト聯邦に對しては滿洲國の北滿鐵道買收斡旋等、諸種懸案の解決に力を盡し、支那に付ては一日も速に其安定の回復せられ、東亞の大局に覺醒し、帝國と共に平和維持の重責を分たむことを衷心希望し居る次第にして、最近日支關係が稍々好轉の傾向を示せるは、寔に喜ばしきことなり。日滿關係に付て

は、對滿關係機關の調整に關し、前議會に於て豫算の協賛を得たるを以て、官制其他關係勅令の公布を急ぎ、昨年十二月二十六日を以て内閣に對滿事務局を設け、在滿帝國大使館に關東局を置き、中央と現地と相協力し、滿洲國の健全なる發達に寄與すると共に、各般の方面に於て兩國親善に基く最大の成果を擧げむことを期しつつある次第にして、現に兩國の和親は益々深く、東洋平和の確保愈々強きを加へつつあるは御同慶に堪へざる所なり。是の時に當り陽春四月の候を以て、滿洲國皇帝陛下が親しく 天皇陛下を御訪問あらせらるるは、兩國の國交上寔に意義深きことにして感激措く能はざる所なり。我が國民は盟邦の元首を衷心より御歓迎申上ぐるの機會を與へらるることを大なる光榮とするものなり。

帝國の對外案件中現に最も重要視すべきものは、海軍軍備制限に關する交渉なり。倫敦に於ける豫備交渉に於て、帝國代表は關係各國代表と隔意なき意見の交換を行ひ、我が主張の貫徹に勉め來りしも、關係國間の打合に依り、右交渉は昨年未を以て一先づ休止し、追つて適當なる時期の到來次第再開せらるることとなれり。此度の交渉に處する帝國政府の方針は、前議會に於て開陳せるが如くにして、之に依り昨年未米國政府に對し華府海軍軍備制限條約廢止の意思を通告せしものなり。帝國政府は成るべく速に關係國との交渉の再開せられ、同條約に代り公平妥當なる新協定の成立を見るに至らむことを希望するものなり。

我が對外貿易の益々好調を續けつつあるに付ては、國際情勢に對應し、適切なる貿易調整策を講じ、之が擁護に力を盡し、本邦貿易の維持發展に遺憾なきを期すると共に、關係諸國との利害の調節を圖ることに勉めつゝある次第なり。

昭和十年度一般會計豫算總額は、歳入歳出各二十一億九千三百餘萬圓にして、之を前年度に比較するに、二千餘萬圓の減少となれり。而して歳出豫算に於ては、軍事費として相當多額を計上せるも、是は現下の國際情勢に應じ國防の安固を期せむとするに外ならざるなり。此外滿洲事件に關する經費、昨年の各地災害等の對策の爲に要する經費、爲替相場の變動に基く經費の如き、相當多額を計上する必要あるを以て、其他の諸經費は勉めて増加を避け、尙ほ上述の諸經費に付ても節約を旨として計上せる次第なり。之に對し歳入に於ては經濟界の恢復に伴ひ、普通歳入に相當額の自然増収を見込むことを得、又新に臨時利得税を設くることとなせしも、歳入不足は尙ほ巨額に上ぼるが故に、已むを得ず之を公債財源に求むることとし、其發行額は一般會計及特別會計を合せ八億二千六百餘萬圓なり。臨時利得税は其收入見込昭和十年度二千餘萬圓なるも、我が國の經濟界は今尙ほ不況の域を脱せざるもの存する反面に於て、一部の産業が時局の好影響を受けつつあるの狀況に顧み、是等活況を呈しつつある産業に對して臨時的課税を爲し、其増益の一部を國に納付せしむることとしたるなり。

一方農山漁村或は中小商工業の方面に於ては、經濟不況の克服未だ思はしからざるものあり、殊に昨年の災害に依り多大の損害を蒙りしものもあり、都市農村を通じ産業部門全體に亘り普く景氣の恢復を圖らむが爲には、前途尙ほ幾多の努力を要するものあるを以て、農山漁村の經濟更生と、一般中小

商工業者の振興とに更に力を盡さんと欲する次第なり。

産業の振興、國民生活の向上安定に付ては、政府の夙に意を用ひし所にして、其最も急を要するものとして米穀、蠶絲、肥料等諸般の重要問題に付き、其適正なる解決に力を注がむとする次第なり。昨年各地に起りし災害に對する應急善後の施設に付ては、前議會に於て豫算の協賛を得たるを以て、それ〴〵其實施を急ぎ、速に効果を擧げむことを勉めつつあるも、今回提出の豫算に依り引續き其必要なる施設を行ひ、十分の努力を以て遺漏なきを期せむとするものなり。殊に東北地方の不振は其由つて來る所既に久しく、禍害亦相踵ぐの狀況に顧み、之が原因を探究し、之に對應して災害を防除し、福祉を増進すべき根本の振興策を樹立するを緊要なりと認め、朝野有識の士を煩はし、内閣に東北振興調査會を設置したる次第にして、調査の結果を尊重し、將來確乎たる振興計畫の樹立と、之が實施とに勉めむと欲する次第なり。

所謂國策審議機關設置に付ては、豫て政府に於て十分考究せし所なるも、大體成案を得たるを以て來年度より之を設置し、以て國政全般に亘つて今後の大策を樹立し、政治の刷新改善に重大なる寄與を爲さむことを期せむとす。政府の腹案は、内閣に重要政策に付き審議すべき諮問機關を置き、練達堪能の士を選びて其委員となし、又此機關に關する庶務を掌り、併せて常時一般重要政策の調査を行ふべき調査部局を設け、是には專任職員の外、廣く朝野の衆智を蒐むることを期せむとするものなり。是等に關する經費は遠からず追加豫算として提出すべく、之が協賛あらむことを望む次第なり。

目下内外時局極めて多事多難なることは改めて申す迄もなく、政府は全國民と共に之が打開に全幅の力を致さむことを期するものなり。乃ち曩に赤誠を披歴して廣く所信を中外に聲明し、緩急宜しきに從つて其實現に努め、憲法政治の眞髓を發揮して民意を暢達し、舉國一致の實を擧げて愈々國運の進展を圖り、以て聖明に對へ奉らむことを期せむとするものなり。以上の所見に基き昭和十年度の豫算案及各般の法律案を提出せるを以て、政府の意を諒とせられ、速に協賛を與へられむことを切望する次第なり。

廣田外務大臣

帝國の對外關係に付ては、臨時議會に於て大要を説明したる所にして、近時帝國と諸外國との間に漸次好感感情の増し來りしは誠に同慶の至りなり。世界何れの國とも益々和平親善の關係を樹立し、互に交通通商の進展を計るは實に我對外方針の根幹とする所なり。

滿洲國に於ては今や既に建國の基礎を完成し、此後の發達に付ては、眞に日滿兩國民の融和協力に俟つもの多しと思惟す。就中經濟的方面に於ては益々有無相通じ、共存共榮の實を擧げんことを期待する次第なり。斯かる際に今春四月上旬を期して、同國皇帝陛下が親しく帝都に 天皇陛下を御訪問あらせられ、兩皇室の間に御親交を重ねさせらるるは、吾人の感激措く能はざる所にして、又同皇帝陛下を近く我國に御歡迎申上ぐるの機會を得ることは、全國民の特に光榮とする所なり。

今日帝國の大なる關心を拂ひつつあるは海軍の軍備制限問題なり。ロンドンに於ける日、英、米三

國の豫備交渉に付ては、前議會に於ても説明せる所にして、今回の交渉に對する帝國の根本方針は、其際詳述せしが如く、徹底的に軍縮を行ひ、攻撃的兵力の全廢若くは大縮減を實現し、以て各國をして他國よりの脅威を免れしむると共に、又如何なる國に對しても脅威を加ふるを得ざらしむるにあり。而して大正十一年華盛頓に於て署名せられたる海軍軍備制限條約は、今や右方針と相容れざるものあるを以て、帝國政府は同條約の規定に遵ひ、客年の十二月二十九日を以て米國政府に之が廢止の意思を通告せり。其結果同條約は昭和十一年十二月末日を以て廢止せらるるに至りしも、固より帝國政府は之に依り進みて軍備の擴張を爲すが如き意圖を有せざるは勿論にして、眞に軍備制限の精神に基く新なる方式に依り、同條約に代るべき新協定の成立を期せむと欲するものなり。曩の豫備交渉に於ては關係國間に十分なる討議行はれ、各國の見解も略ぼ明白となりし結果、此際各國代表が親しく本國政府と打合を行ひ、從來の交渉の結果を篤と検討するを適當と認められしが故に、昨年十二月二十日を以て一先づ交渉を休止することとなりし次第なり。然れども交渉休止中も關係國は引き続き互に密接なる連絡を保持し、適當なる時期の到來次第、交渉を再開することの打合を爲したり。而して帝國政府は右交渉の速に再開せられ、關係國間の友好的協力に依り徹底的軍縮と不脅威、不侵略の原則に基く公正妥當なる新協定を成立せしめ、以て世界の平和に貢獻せむことを切望するものにして、政府は之が爲に最善の努力を致さむことを期するものなり。

元來日米兩國は經濟通商の關係に於て、他に例を見ざるが如き相互依存の重要なる關係にあり、國

交開始以來兩國間は歴史的友好關係に在りて、此の間には本質上圓滿なる解決を見得ざるが如き如何なる問題をも存せざるは勿論、遙か太平洋を隔て其東西に存在する兩國の間に於て、何等衝突すべき原因を想像するを得ざるなり。又舊同盟國たる英吉利との關係に付ては、帝國の通商貿易擁護上、同國との間に幾多折衝の必要なるもの存するは事實なれ共、世界何れの地に於ても、雙方の利害調節を不可能とするが如きものは考へ及ぶこと能はざるのみならず、日英兩國間の意思の疎通及相互の協力は眞に世界の平和に重大なる貢獻を寄與するものたるは論を俟たざる所なり。帝國政府は斯かる關係よりして、先づ英米兩國と前述の如き精神に基き交渉を進めたる次第なりしが、右の精神は尙ほ延いて之を其他の諸國にも及ぼし、特に隣接各國との間には常に善隣の誼を重んじ、互に相侵迫せざらむことを旨とするものなり。

ソヴェット聯邦との交渉に際しても、全く此精神を以て進み來りしものにして、現に進行中の北滿鐵道交渉も其後更に大分商議進捗し、其妥結を見るの日も恐らくは遠からじと思考せらるるなり。之に依り從來屢々北滿鐵道に於て發生せし紛議の根源が除かれ、日滿「ソ」三國の友好關係が愈々強化せらるるに至れば、關係三國共に本交渉所期の目的を達成する次第なり。尙ほ又帝國政府は進みて右以外の諸懸案の解決にも努力を致し、以て兩國關係の平和的進展を計らむことを期するものなり。而して今後一層此方針を徹底せしめむが爲には、獨り我方のみならず、ソヴェット聯邦側の誠意ある協力に俟つことの大なるものあるは固よりにして、此觀點よりしてソヴェット聯邦の極東、殊に滿「ソ」國

境方面に於ける軍備に付ては、相互の信頼を増進せしむるの見地より、同國政府に於ても十分の考慮を拂はれむことを望まざるを得ず。

支那の政局は近來稍平靜の状態を呈し、政府軍と共產軍との地方的戦闘の外、格別戦亂を見ざる現下の状態は、嘗に支那の爲めのみならず、帝國の最も顧念する東亞平和の爲に甚だ喜ぶべき現象なりとす。然れども支那の政局に於て幾多の禍根伏在するは、過去の歴史に照らすも否定し難き所にして、共產軍に付ては、江西福建方面に於ける其主力は、政府軍の討伐に依り幸ひ同方面より一掃せられたりしも、是等の共產軍は尙ほ其餘力を維持しつつ貴州、四川方面に於ける既存の友軍と呼應し、西方奥地に移動しつつありとのことなるが故に、一方新疆方面の赤化の報導と相俟ちて、帝國政府としては支那に於ける是等共產黨の活動及共產軍の跳梁に對しては、引續き關心を持たざるを得ず。又地方に依りては、排日の風潮今以て十分に鎮靜の域に達せざる状態に在るは、帝國政府の遺憾とする所なり。帝國政府は東亞に於ける諸國との和親を大いに重要視し、是等諸國と共に東亞に於ける平和及秩序維持の重責を分たむとするものを以て、帝國政府は支那が一日も速に其安定を恢復する一方、東亞の大局に覺醒し、帝國の眞摯なる期待に合するに至らむことを衷心より希望して已まざるのみならず、我國も其善隣として、且つ東亞の安定力たる地位に鑑み、之が實現の爲め一層の努力を致さむことを期するものなり。而して從來兩國の間に多年懸案たりし各種の問題が漸次解決を見、支那國民が次第に帝國の眞意を諒解するの傾向あるは、帝國政府としても如實に之を認むるに吝ならず。我方

に於ては今後益々右傾向の促進に遺憾なからむことを期すると共に、支那側に於ても右に對し一層の協力を爲さむことを望む次第なり。

帝國の通商關係を概觀するに、諸外國に於ては依然として關稅の引上、輸入制限、爲替管理及爲替補償稅等に依る貿易制限の政策を行ひ、殊に我國との既存通商條約の廢棄を爲すが如き國もあり。斯る情勢は獨り我國の爲めのみならず、世界經濟恢復の大局より見て甚だ遺憾なる現象たるを以て、帝國政府は能ふ限り斯の如き通商制限を緩和撤廢せしめ相互の利益を増進せむが爲に、關係各國間に妥當なる諒解を遂げむとして努力しつつあり。抑々帝國の如く夥多の人口を擁し、且つ天與の資源に乏しき國に取りては、對外通商の維持發展は最も重要なる平和的活路にして、今日、本邦商品が世界各地に進出せしも、多年國民が一致し拮据經營此活路に向ひ邁進し來りたる賜に外ならず。勿論我國は之が爲に何等不公正なる方策を用ゐざるのみならず、其通商發展は幾多の原料生産國を裨益すると共に、消費者たる人類大衆の福祉を増進せしめつゝあるなり。尤も我が通商の發展と言ふも、之を世界通商の全體に比較すれば、我が貿易額は僅々其百分の三程度にして言ふに足らず、且つ其順位よりするも、各國中の七、八位を占むるに過ぎず、此點に付ては今後も國民一層の努力を期せざるべからざるなり。斯かる事情は幸ひ次第に其國の識者に依り理解されつつあるの状態なれ共、今後益々此理解を増進せしむることに努むると共に、飽く迄公正なる見地に立ちて我主張を徹底せしめ、相手國との利害の調整に力を致さむとす。客年六月初旬よりバタヴィヤに於て開かれたる日蘭會商に付ては、前議

會に於て述べたるが如く、何分にも問題が極めて複雑且つ多岐に亘れる關係上、未だ一々具體的妥結を見るに到らず。然れども雙方代表の過去六箇月以上に亘る努力は、彼我雙方の通商上の立場を明かにし、且つ諸種の誤解を除去するに効果ありたるのみならず、今後引き続き交渉上重要な基礎を完成せしものと信する次第なり。

之を要するに國際關係の複雑にして動搖常なきは今日世界的現象にして、此間に處して帝國の地位を固め主張を貫徹せしむが爲には、大なる覺悟を要すると共に、極めて慎重なる態度を以て當るを肝要なりとす。特に帝國の國際聯盟退は、愈々來る三月二十七日を以て實現する次第にして、茲に帝國の責任は一層重きを加ふるを感ずるものなり。然れども帝國の進むべき途は既に確定し、帝國の執るべき外交方針は前述の如くにして、對外關係は畢竟國民全體の實力の反映なるを以て、上陛下の大御心を體し、國民一致して奮勵努力を續けたらんには、如何なる難關も無事之を通過するを得べきは難事にあらずと信す。此重大なる國際時局に際して、余は特に舉國一致の御後援を翹望して己まざる次第なり。

又高橋大藏大臣は二月十五日の本會議に於て財政演説を爲せり。該演説は昭和十年度豫算に關聯するものなるに付、便宜之を第四章第一節總豫算案の部に記載せり。

以上國務大臣に對する質問並に應答は一月二十二日より二月一日まで繼續せられたり。質問は現下緊急なる國政の各般に亘りて行はれたるも、今茲に其實問應答の内容を記載する餘白なきを以て、單に質問

者の氏名及質問事項を左に摘示するに止めんとす。(通告順に依る)

質問者

質問事項

男爵 坂本俊篤君(公) 燃料國策樹立に關する問題。

加藤政之助君(成) 財政に關する問題。

美濃部達吉君(無) 司法部内の綱紀問題、殊に檢察事務の執行と其監督に關する問題。

松浦鎮次郎君(和) 文政に關する問題。

男爵 園田武彦君(公) 綱紀肅正、内閣審議會及び國防と産業との關係に關する問題。

津村重舍君(研) 外交問題、海軍軍縮會議及び一般軍備に關する問題、航空及び鐵道に關する問題、綱紀肅正問題並に中小商工業者の保護に關する問題。

岩田宙造君(和) 司法權の運用に關する問題。

伯爵 二荒芳徳君(研) 國民道德に關する問題。

水野甚次郎君(交) 航空國策確立に關する問題。

田中館愛橘君(無) 航空機の研究に關する問題。

大谷尊由君(研) 中南米方面に於ける貿易問題。

備考

各氏名の下に記したる(研)は研究會、(公)は公正會、(交)は交友俱樂部、(成)は同成會、(和)は同和會の各會派所屬を示す。(無)は無所屬なり。以下之に同じ。

第三章 法律案

第六十七議會に於て貴族院に提出せられたる法律案は七十二件にして、其中、政府提出案四十八件（可決したるもの四十五件、議決に至らざりしもの三件）、衆議院提出案二十四件（可決したるもの三件、議決に至らざりしもの二十一件）なり。

是等諸法律案に付、研究會政務審査部部屬別に分類して、其議事の經過及結果を略述すべし。而して同一法律案にして數部屬に關係を有するものは、之を編纂上便宜なりと認めたる部に編入し（同一委員に付託せられたる主たる法律案の部に併合す）、又議決に至らざりし法律案は全部之を第八節に編入せり。

第一節 第一部(大藏)關係法律案

第一部關係法律案中、可決したるものは左記十九件（政府提出案十八件、衆議院提出案一件）なり。

- 一、造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案（一六頁）
- 一、東京高等農林學校及函館高等水産學校ノ創設ニ伴フ帝國大學特別會計及學校及圖書館特別會計ノ關涉ニ關スル法律案（一六頁）
- 一、日本銀行金買入法中改正法律案（一八頁）
- 一、朝鮮銀行法中改正法律案（一八頁）

- 一、臺灣銀行法中改正法律案（一八頁）
- 一、酒造組合法中改正法律案（一九頁）
- 一、昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案（二二頁）
- 一、昭和七年法律第一號中改正法律案（滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件）（二二頁）
- 一、日本銀行納付金法中改正法律案（二五頁）
- 一、臨時利得稅法案（二五頁）
- 一、關稅定率法中改正法律案（三四頁）
- 一、大正十三年法律第二十四號中改正法律案（贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル件）（三四頁）
- 一、昭和七年法律第四號中改正法律案（輸入稅ノ從量稅率ニ關スル件）（三四頁）
- 一、關稅法中改正法律案（三五頁）
- 一、昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案（三七頁）
- 一、不動産融資及損失補償法中改正法律案（三八頁）
- 一、政府貸付金處理ニ關スル法律案（四〇頁）
- 一、昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債第二次追加發行ニ關スル法律案（四三頁）
- 一、登錄稅法中改正法律案（衆議院提出）（四四頁）

以上十九件に付き其議事の經過及結果を左に略述すべし。（各件名の下に記したる頁數は本文記事の索引

なり。以下之に同じ)

第一 造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ

新營費ニ關スル法律案

第二 東京高等農林學校及函館高等水産學校ノ創設ニ伴フ帝國大學特

別會計及學校及圖書館特別會計ノ關涉ニ關スル法律案

右二案は昭和十年二月二十六日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して三月一日の本會議に上程せられ、高橋大藏大臣は提案理由に付き大要左の如く説明せり。

造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案に付き提案理由を説明すべし。造幣局の工場は多年使用の結果改築の必要あるを以て既に二回に亘り新營費の豫算を計上せるも、残存工場の一部及廳舎も改築を要するものあり。又現在の金庫は廳舎の地下室を利用せる關係上、不完全且つ狹隘にして不便少なからざるを以て、是等の用に供する建物及其附屬設備を新營するの必要あり。依て昭和十年度乃至同十二年度に亘る右建物等の新營計畫を立て、且つ新營費の財源として右年度間に造幣局資金の一部(二百十三萬五千五百三十三圓を限度とす)を一般會計に繰入るるの必要あるを以て本案を提出せり。

東京高等農林學校及函館高等水産學校ノ創設ニ伴フ帝國大學特別會計及學校及圖書館特別會計ノ關涉ニ關スル法律案の提案理由を説明すべし。東京帝國大學農學部の實科及北海道帝國大學附屬水産専門

部を各々昭和十年度より獨立せしめ、東京高等農林學校及函館高等水産學校を創設するに伴ひ、昭和九年度末現在の東京帝國大學資金にして、東京帝國大學農學部の實科に供するもの、昭和九年度東京帝國大學の歳入殘餘にして同帝國大學農學部實科に關し生じたるもの、及同年度北海道帝國大學の歳入殘餘にして同帝國大學附屬水産専門部に關し生じたるものは、之を學校及圖書館特別會計資金に編入する等、帝國大學特別會計と學校及圖書館特別會計との關涉に關する法律を制定するの必要あるを以て本案を提出せり。

次で右二案は左記九名の特別委員に付託せられたり。

候爵 大隈 信 常君(火)	伯爵 二荒 芳 徳君(研)
子爵 綾小路 護君(研)	眞野 文 二君(和)
男爵 伊江 朝 助君(公)	坂野 鐵次郎君(成)
藤山 雷 太君(研)	下出 民 義君(交)
名取 忠 愛君(研)	

備考 (火)は火曜會を示す。以下之に同じ。(其他に付ては二三頁参照)

本委員は三月二日二荒伯爵を委員長に眞野文二君を副委員長に擧げ、委員會を開くこと二回にして二案の審査を終り、三月十五日兩案可決報告書を議長に提出せり。

三月十八日の本會議に於て、二荒委員長は委員會に於ける審査の經過及結果を報告せり。其の要旨左の

如し。

先づ兩法律案提出の趣旨に付き説明す（別項大藏大臣の説明と大體同様なるを以て茲には其記載を略す）。次に委員會に於ては政府の説明を聴取したるも、別に委員の質問もなく原案通り可決せり。

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく兩案を可決せり。

第三 日本銀行金買入法中改正法律案

第四 朝鮮銀行法中改正法律案

第五 臺灣銀行法中改正法律案

右三案は昭和十年二月二十六日衆議院を通過（可決）し、即日貴族院に送付せられたり。而して三月一日の本會議に上程せられ、高橋大藏大臣は提案理由に付き大要左の如く説明せり。

日本銀行金買入法中改正法律案に付き提案理由を説明すべし。昨年四月より施行せられたる日本銀行金買入法に依り、同行は金の買入を實行し來りしも、同行の金買入額の増加に伴ひ、政府の同行に對して負擔せる債務も亦増加し、從て其の法律上の餘力は著しく減少せり。依て今後引續き日本銀行をして金の買入を實行せしめむが爲には、此際政府の債務負擔の限度を一億圓増加し、二億圓と改むるを適當なりと認めたるを以て本案を提出せり。

朝鮮銀行法中改正法律案及臺灣銀行法中改正法律案の提案理由を説明すべし。現行の朝鮮銀行法及臺灣銀行法に依れば、兩銀行券の制限外發行に對しては、年五分を下らざる稅率を以て發行稅を課する

ことを定む。然れども最近に於て、朝鮮及臺灣に於ても金利低下の跡著しきものあるが故に、現行の稅率を以てしては、兩行の銀行券の發行を過度に抑制するの結果となり、又將來兩地に於ける金利低下の障礙ともなるべき憂あるを以て、右稅率を引下げ、之を年三分を下らざる割合となすを適當と認めたるが故に本改正案を提出せり。

次で右三案は造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案外一件の特別委員（一六頁参照）に併せ付託せられたり。而して三月十五日委員長より三案可決報告書を議長に提出せり。

三月十八日の本會議に於て、二荒委員長は委員會に於ける審査の經過及結果を報告せり。其要旨左の如し。

先づ三案提出の趣旨に付き説明す（別項大藏大臣の説明と大體同様なるを以て茲には其記載を略す）。次に委員會に於ては政府の説明を聴取したるも、別に委員の質問もなく原案通り可決せり。

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく三案を可決せり。

第六 酒造組合法中改正法律案

本案は昭和十年三月六日政府より提出せられ、而して同月十一日の本會議に上程せられ。高橋大藏大臣は提案理由に付き大要左の如く説明せり。

我國酒造業の現狀に鑑み、酒造組合に對し、組合員の使用する原料品の購入、保管、加工若くは組合

員の製品の保管、販賣等に關する共同施設、其他組合員の營業に關する指導、研究調査等の共同施設を行はしむるの外、組合に對し其營業に必要な資本の貸付等を併せ行はしめ、以て酒造業の改良發達に資せしめんとするの考なるも、現行酒造組合法には組合の事業の内容に關する規定を缺くが故に、茲に組合事業の内容を規定し、將來一層酒造組合法の施行の圓滑を期せむが爲に本改正案を提出せる所以なり。

次で木案は之を左記九名の特別委員に付託せられたり。

侯爵 徳川 頼貞君(火)	子爵 大河内 輝耕君(研)
子爵 大岡 忠綱君(研)	補闕 三井清一郎君(研)
男爵 高崎 弓彦君(公)	男爵 山根 健男君(公)
辭任 西野 元君(研)	三橋 彌君(交)
山本 米三君(成)	野村 徳七君(和)

本委員は三月十二日大河内子爵を委員長に高崎男爵を副委員長に擧げ、引續き會議に移りて質疑應答を重ね、翌十三日審査を終りて之が可決を爲し、更に同日委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。三月十五日の本會議に於て、大河内委員長は委員會に於ける審査の經過及結果を報告せり。其要旨左の如し。

本改正案に依り酒造組合は工業組合の如き組織を有し得るに至るものなり。酒造組合をして工業組合

を作ることを得せしむるも、之には手数を要するを以て、本案に依りて其目的を達せんとするものなり。委員會に於ける主なる質疑應答は次の如し。(問)原料の購入の「原料」には石炭を含むものなりや。(答)石炭も之に入る。(問)「加工」の意義如何。(答)共同精米の如く、加工に關する共同施設を言ふ。但し酒の醸造、焼酎の蒸餾、或は麥酒の製造の如きは之を含まず。(問)酒造組合に關し現在に於ける資金の融通の状態如何。(答)現在納税資金の貸付を行ひつゝあり。然れ共是は變態なるが故に本案に基き共同施設を行はしめ、之に付て預金部其他より資金の融通を爲す考なり。(問)共同施設とは何か。(答)營業の指導と云ふ如き意味にして、經濟上、技術上の調査、或は各般の調査研究を含む。(問)「併せ」の意義如何。(答)共同施設が目的にして、資金の融通は之に従たるものなるが故に、共同施設と併せてのみ資金の貸付を爲すことを得との意なり。尙ほ本案に關聯して、清酒、焼酎及麥酒の間に税の不權衡あるも、之を如何にするかとの間に對し、政府は其の趣旨は諒とするも、歳入に相當の影響あるを以て、實行は容易ならず、但し篤と考慮すべしと答辯せり。

質疑を終り、引續き採決に入り全會一致を以て本案を可決せり。

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく本案を可決せり。

第七 昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

第八 昭和七年法律第一號中改正法律案

右二案は昭和十年三月十二日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して三月十三日の本會議に上程せられ、高橋大藏大臣は提案理由を大要左の如く説明せり。

昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案に付き提案理由を説明すべし。昭和十年度一般會計に於て、既に成立せる公債法に依り公債を募集する金額、並に滿洲事件に關する經費支辨の爲め發行する公債金額の外に、歳入の不足を補填する爲五億六千五百八十餘萬圓の公債發行を必要とする事は、曩に昭和十年度總豫算の概要を説明せし際申述べたるところなるも、其發行の爲には、新に起債の權能を得ることを必要とす。尙ほ昭和十年度の歳出豫算に於ても、其中若干の金額は、例年の如く翌年度に繰越さるる結果になるべしと思考せらるるを以て、其繰越額の財源は、必しも昭和十年度内に起債するを必要とせざるが故に、翌年度に於て募債し得ることとするを適當と認む。是れ本案を提出する所以なり。

昭和七年度法律第一號中改正法律案提出の理由を説明すべし。滿洲事件に關する經費に關しては、去る第六十一、六十二、六十四及六十五回帝國議會の協贊を經、其財源に充つる爲公債を發行するを得るの法律の成立を見、之に依り昭和九年度迄の經費を支辨し得る次第なれ共、昭和十年度分の經費として、更に一億八千四百三十餘萬圓を必要とす。右の中特別會計の分は、全部普通財源を以て支辨するものなるも、一般會計の分は滿洲國防費分擔金受入等に相當する金額を差引きたる一億七千四十餘萬圓は、今日の財政情況並に本經濟の性質に鑑み、從來の如く之を公債財源に依ることとなせるを以

て、現行滿洲事件に關する經費支辨の爲公債發行に關する法律中の發行限度を改正増加するの必要あり。依て本案を提出せり。

次で右二案に酒造組合法中改正法律案特別委員(二〇頁参照)に併せ付託せられたり。而して三月二十三日委員長より兩案可決報告書を議長に提出せり。

三月二十三日の本會議に於て、大河内委員長は委員會に於ける審査の經過及結果を報告せり。其要旨左の如し。

昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案は總豫算の赤字公債に關するものにして、昭和七年法律第一號中改正法律案は總豫算中の滿洲事件費に係るものなり。右二案の審査に關して、委員會に於て爲されたる主なる質疑應答は次の如し。(問)九年度の公債發行殘額は四億七千餘萬圓あるも、今後政府は之を發行する考へなりや、又其の殘存は市場に悪影響を及ぼすことなきや。(答)發行する考へなり。而して是は日本銀行に引受けしめ、時機を見たる上賣出するものなるが故に、之を發行するは政府として何等差支なしと考ふ。次に未發行額の殘存が市場に悪影響を與へざらしめんが爲には、政府に於ても國庫の支拂を均分すべく——例へば公債利子等も四期に分ち、又月給の支拂等も相當均分するやう注意しつつあり。(問)公債の借換は市場に餘り悪影響を與へずして出來ると思ふが政府の所見如何。又之を行ふとせば、新規發行の公債と同一の條件を以て爲す考なりや。(答)赤字公債も相當發行され、且つ公債の發行額も多額なるが故に、此上借換を行ふには公債の消化力に

相當注意を要す。又借換に依つて得る節約額は二千萬圓程度に止まり、財政上大したる額に非ず。而して借換を行ふには如何なる公債を借換へるかに付て選定を要するが故に相當困難を伴ふ。然れども公債の借換は必しも赤字公債の無發行に到るを待つに非ずして、市場の消化力十分なりと認めらるる際には借換も行ふ考へなり。次に若し借換を爲す場合には、大體新規發行の公債と同一條件を以てせんとす。又借換公債は普通のものとなり、日本銀行引受の形式に依らずして、公募其他の形式に依る場合もあるべし。(問)低金利政策を行へば公債の借換も亦可能なるに非ずや。(答)低金利政策は政府も十分行ひつゝあり。然れども借換を行ふには、良く金融市場の形勢を見極めて行ふに非ざれば、惡結果を惹起する故に、之を行ふは容易の業にあらず。(問)十年度の公債は非常に多額なるも、之が吸収は可能なりとの見込なりや。(答)銀行預金、預金部其他の過去の實績及現在の情況より見て、十分吸収し得る見込なり。(問)公債は銀行資金の大半を占むるの現状なれば、之が消化の爲には更に公債募集を民衆化するを適當なりと信するも其方法なきや。(答)従来少額債券等を賣出し民衆化に努めたれども政府の意の如くならず、漸次行ふの外致し方なきものと思ふ。(問)産業界は回復して新規事業資金の需要増加し、又支那に於ける排日の休憩せる際には其方面に於ても資金の需要多かるべく、斯の如く民間の資金需要増加するの傾向ある際、其の爲に新規發行力の鈍ることなきや。(答)民間の好景氣は自然増收の増加を齎らすを以て、國庫の爲に却て欣ぶべきことなり。然れども赤字公債は極力其減少に努めざるべからず。又公債發行と民間の資金需要の増加との調和を圖る爲には常に努力を怠ら

ず。(問)公債發行額が餘り多きが故に事業の勃興を害することなきや。又赤字公債は後世に負擔を貽すものなれば、之を減少するが如き方法を執られては如何。(答)高橋大藏大臣は、公債引受資金は財界の回復に依り増加せる資金の一部にして、此の資金は公債のみならず、社債、株式、府縣債等にも投資さるるものなるが故に、此程度の公債發行に依り民間資金を壓迫するが如きことなしと考ふ。又日本銀行が賣出する場合にも押賣りがまじきことをすることなし。次に多額の赤字公債の發行は、今日の狀勢よりして致し方なきものなり。然れども今後、生産力の増加及國民經濟力の進展に伴ひ、政府の收入の増加を見るべきものと考ふるが故に——樂觀するが如く思はるべきも——後世に迷惑を及ぼすが如きことはなきものと思ふ旨答辯せり。(問)巷間往々にして公債資金は盪廻しになり居るが故に、幾何の赤字公債を發行するも構はずと爲すの議論を聞くも、政府の之に對する所見如何。(答)高橋大藏大臣は、公債引受が容易に行はるる原因は従前の固定されたる資金が開放さるるに至れる結果に依る。是は一時的現象にして、永遠に續くべきものとは認められざるを以て、質問の如き考へ方は甚だ危険なりとする旨答辯せり。

以上の質疑を終りて引續き採決に入り、全會一致を以て付託二案を可決せり。

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく兩案を可決せり。

第九 日本銀行納付金法中改正法律案

第十 臨時利得稅法案

日本銀行納付金法中改正法律案は昭和十年三月十二日衆議院を通過(可決)し、臨時利得税法案は同日衆議院を通過(修正議決)し、何れも即日貴族院に送付せられたり。而して翌十三日の本會議に上程せられ、高橋大藏大臣は提案理由に付き大要左の如く説明せり。

日本銀行納付金法中改正法律案の提案理由を説明すべし。現行の日本銀行納付金法に依れば、日本銀行に對して所得税及營業收益税を課するに當りては、右納付金は之を同行の損金として取扱ふものと規定せらる。而して今回提案せる臨時利得税法に依る課税に付きても、右と同様の取扱を爲すの必要あるを以て本改正案を提出せり。

臨時利得税法案の提案理由を説明すべし。本税制定の趣旨は既に申述べたるが如く、我國財政經濟の現狀に鑑み時局の好影響を受け活況を呈しつつあるところの産業に對し臨時新税を設け、増加せる利益の一部を國庫に納付せしむるを適當と認めたるに依るものなり。本法案の大體の骨子を述べれば、本税は其趣旨よりして課税の範圍を營業に限ることとし、大體營利法人の利益と個人の營業の利益に對して課税するものにして、是等の利益が昭和六年以前二年間の平均利益を超過する場合に於て、其超過額に對して百分の十の税率を以て賦課することと爲せり。尙ほ經濟界の狀況、營業者の實體等に鑑み、昭和五年、六年當時の利益少き場合には、法人に付ては資本金額の年七分に相當する金額を、又個人に付ては三千圓を當時の平均利益と見て課税すべき超過額を算出するものとせり。又法人個人とも超過額より年額二千圓を控除して其殘額に課税することとし、且つ個人に付ては其年の利益六千圓

未滿の場合には課税せざること等の規定を設け、本税施行の圓滑を圖りたる次第なり。本税は當分の中施行する見込にして、其歲入は昭和十年度に於て、三千三十餘萬圓の豫定なり。

以上は政府提出に係る臨時利得税法案の大體の説明なるも、衆議院に於ては之に對し、次の諸點に付き修正を加へたり。

第一點 平均利益算出の期限を昭和六年以前三年と修正す。

第二點 個人の税率を百分の七・五と修正す。

第三點 法人の減資或は増資の場合に關する特別の規定を新に挿入せり。

第四點 本法施行期間(三箇年とする)に關する規定を新に設けたり。

而して原案に對する衆議院の修正に付ては、政府は同意することを得ず。

以上本法案に付き、政府の原案並に衆議院に於ける修正に關し大體の説明を了せり。何卒慎重審議の上速に協賛あらむことを望む。

右大藏大臣の説明に對し質問出で、橋本辰二郎君及森平兵衛君は臨時利得税法案に付き大要左の如き質問を爲せり。(1)大藏大臣は曩に増税は其時期に非すと申明せるに拘らず、本税を設くるは此聲明を裏切るものに非ずや。(2)本税は臨時税なりとするも、之を恆久化するの底意を有するに非ざるや。(3)利益計算基準年度を不況の極に在りたる五、六年度に置きたるは不當なり、七年度を基準とすべしと考ふるも政府の所見如何。(4)戰時利得税に倣ひて本案を制定せるものなりとせば不當なりと思はるるが如何。(5)

本税は負擔の不均衡課税の不公平ありと考ふるも、政府は之を如何にして是正するの考なりや。(6)高利公債の低利借換は増税計畫よりも遙に合理的なりと考ふるも、政府は之を斷行するの意思なきや。(7)衆議院の修正に對しては、大藏大臣は全部不同意なりや、等の諸點に付き訊し、大藏大臣は之に對し、(1)曩の聲明は一般的増税に關するものにして、臨時利得税とは別問題なり。故に聲明を裏切るものとは考へず。(2)本税を恆久化するの意思なし。(3)業績を基礎とし且つ其の爲に苛酷にならざらむことを考慮して、五・六年度を基準とするを以て至當なりと認めたり。(4)戰時利得税とは同一にあらず。(5)大して不均衡、不公平の結果はなきものと考ふ。(6)公債借換には相當の現金償還の用意を要するを以て、今日の狀態よりして之を行ふは不可能のことなり。但し償還期限の到來せるものに付ては低利公債に借換へるの形を執りつゝあり。(7)収入の金額に不足を生せず、又徵税の方法にして法理上、技術上より見て政府の原案に優るものあらば、政府は之を考慮して然るべきものと考ふ、との答辯を爲せり。

次で兩案を特別委員に付託し、且つ重要法案なるを以て、委員の數は特に左記十八名とせり。

侯爵 中御門經恭君(火)	侯爵 佐佐木行忠君(火)
伯爵 酒井忠正君(研)	子爵 渡邊千冬君(研)
子爵 西尾忠方君(研)	子爵 裏松友光君(研)
男爵 赤松範一君(公)	桑山鐵男君(交)
男爵 松平外與麿君(公)	男爵 深尾隆太郎君(公)

倉知鐵吉君(和)	菅原通敬君(成)
西野元君(研)	馬場鏌一君(研)
森平兵衛君(研)	松本眞平君(研)
野村徳七君(和)	澁澤金藏君(交)

小委員の氏名左の如し。(三月十九日選定)

侯爵 中御門經恭君	桑山鐵男君
男爵 深尾隆太郎君	倉知鐵吉君
菅原通敬君	西野元君
馬場鏌一君	

特別委員は三月十四日渡邊子爵を委員長に、深尾男爵を副委員長に擧げ、委員會を開くこと四回にして審査を終り、三月二十日委員長より、日本銀行納付金法中改正法律案に付ては可決報告書を、臨時利得税法案に付ては修正議決報告書を議長に提出せり。

三月二十二日の本會議に於て渡邊委員長は、委員會に於ける審査の經過及結果を報告せり。其の要旨左の如し。

先づ臨時利得税法案に付き報告す。本案は政府提出案にして、衆議院に於て修正議決せられ、本院に送付せられたるものなり。政府原案の趣旨及衆議院に於ける修正の理由に付き説明すべし(大藏大臣

の提案理由の説明参照)。而して特別委員會に於ては、衆議院の修正案を原案として審査せり。此修正案に依れば、政府原案に比較し、収入總額に於て二百五十餘萬圓(基準年度を三ヶ年と改むるに依り約百十七萬五萬圓)の減少を來すものなるが故に、政府は之を主なる理由として、此修正には不同意なるもの如きも、修正各項に對する政府の意見は茲には之を省略し、直に當委員會に於ける再修正意見に付て述べし。

委員會に於ては、政府の歳入となるべき二千餘萬圓は既に議決せられたる事情を考慮して、法案實行の責任者たる政府の同意し得べき修正を爲し、又衆議院の修正案をも能ふ限り尊重し、其の希望を達せしめむが爲に十分研究せる上、更に審査の進捗を圖る爲右記小委員を設け、熟議を爲して成案を得たり。此成案は特別委員會に於ても全會一致可決せられたり。

而して再修正に付て説明すれば次の如し。

第一 基準年度を昭和六年以前二年となし、政府原案に復せり。其理由は本税が二つの相異なる經濟界の情況を比較し、其間に増加せる所得に對して課税するものなるの趣旨よりして、共に金解禁時代にして、大體情況の相似たる昭和五・六年の二箇年を基準とするを適當なりとし、之に依りて敢て苛酷なる結果を生ぜざるものと認めたるが爲、及昭和四年を加ふることに依り課税上、官民相互の手續を煩雜ならしむるを虞れ、且つ歳入缺陷百十七萬圓を生ずるを防止せんとするに在りたり。

第二 個人の税率を百分の七・五とする衆議院の修正は之を認めたり。尙ほ之に依りて生ずる歳入缺

陷百三十五萬圓は他の修正に依りて補填せり。

第三 法人の増資に對する衆議院の修正は之を削除せり。其の理由は斯の如き事實の認定を政府に委ぬるは、運用上困難を感じ、又他の税法との權衡を失するを以てなり。次に法人の減資に對する修正は、多少の字句の變更を加へて之を認めたり。其の理由は眞面目なる減資を爲せるものに對し、酷に失することなからしめむが爲なり。

第四 法人の利得金額より二千圓を控除する規定を廢止せり。(政府原案の修正)。其の理由は、從來の税法との關係上、及び之を認むべき十分の理由なく、更に之が爲め約百五十萬圓の増收を來すを以てなり。

第五 施行期間を三年とする衆議院の修正は之を認めたり。就ては本修正案に賛成せられむことを切望する次第なり。

次に日本銀行納付金法中改正法律案は異議なく可決せられたり。

季員長報告後、採決に入り、異議なく委員長報告通り修正議決及び可決を爲せり。

斯くて臨時利得税法案は衆議院に回付せられ、次で兩院協議會を開き、成案を得て修正議決せられたり。(詳細は次項兩院協議會の項に記載す)

臨時利得税法案兩院協議會

本案は三月十二日衆議院に於て修正議決せられたるものにして、同月二十二日貴族院に於て更に修正議

決せられたり。仍て茲に兩院協議會を開くに至れり。
協議委員の氏名左の如し。

貴族院協議委員

- | | | | |
|----|-----------|-----|----------|
| 議長 | 侯爵 中御門經恭君 | 副議長 | 伯爵 酒井忠正君 |
| 子爵 | 渡邊千冬君 | 男爵 | 黒田長和君 |
| | 桑山鐵男君 | 男爵 | 深尾隆太郎君 |
| | 倉知鐵吉君 | | 菅原通敬君 |
| | 西野元君 | | 馬場鏐一君 |

衆議院協議委員

- | | | | |
|----|---------|-----|-------|
| 議長 | 前田米藏君 | 副議長 | 熊谷直太君 |
| | 中島知久平君 | | 山崎猛君 |
| | 堀切善兵衛君 | | 太田正孝君 |
| | 加藤久米四郎君 | | 岡田忠彦君 |
| | 金光庸夫君 | | 松野鶴平君 |

小委員の氏名左の如し。

貴族院側小委員

- | | | |
|----|--------|-------|
| 男爵 | 深尾隆太郎君 | 倉知鐵吉君 |
| | 馬場鏐一君 | |

衆議院側小委員

- | | |
|-------|-------|
| 太田正孝君 | 岡田忠彦君 |
| 金光庸夫君 | |

兩院協議會に於ては、三月二十四日抽籤に依り中御門侯爵を議長に擧げ、慎重なる審議を竭し、翌二十五日協議會成案成立報告書を貴族院議長に提出せり。而して同日の本會議に於て、中御門兩院協議會議長は兩院協議會に於ける審議の經過並に結果に付き、大要左の如き報告を爲せり。

協議會に於ては、先づ貴族院の再修正に付て説明あり、之に對し衆議院側の質問ありたり。然る後、之を右小委員と兩院側の議長及副議長を含む合計十名に依る小委員會に移して成案を作成し、此成案は本日の協議會に於て全會一致を以て承認せられたり。兩院協議會成案の概要左の如し。

第一 基準年度を昭和六年以前三年とする衆議院の修正を認めたり。

第二 法人の利得金額計算の場合に於て、現事業年度の利益が既往事業年度の平均利益を超過する場合に於て、其超過額中二千圓を控除する旨の規定を削除せり。貴族院案は其儘存することとせしも、利得金額年千圓未滿なるときは臨時利得税を課せざることとし、少額利得者には課税せざることとなしたり。

第三 個人の利得金額計算の場合に於て、一律二千圓控除の規定を削除し、個人の利益一萬圓未満のものに限り二千圓の控除を認むることとし、尙ほ個人の利益一萬圓以上のものと雖も、其利得金額千圓未満なるときは之を課税外に置きたり。

第四 個人の税率は之を百分の八と改めたり。尙ほ法人並に個人の免税點を新に設けたる關係上、免税點を僅に超えたるものは、其超過せる利得金額より多額の税金を負擔するに至ることあるを以て、之を緩和する爲に適當の規定を設くることとなせり。

第五 法人の減資に對する衆議院の修正は、字句の修正に止めて之を認めたり。法人の減資に對する同院の修正は削除せり。

上述せる修正の諸點が、昭和十年の歳入に及ぼす影響は、同年度約六十九萬一千圓の歳入減少を來すものなり。然れども政府は法人課税義務の進捗を圖り、可成右歳入減少の補填に努むるやう陳述せり。而して本修正案は兩院協議會に於て、全會一致を以て可決せられたり。

兩院協議會議長の報告後、直に採決に移り、異議なく右報告通り修正議決せられたり。而して本修正案は衆議院に於ても異議なく議決せられたり。

第十一 關稅定率法中改正法律案

第十二 大正十三年法律第二十四號中改正法律案

第十三 昭和七年法律第四號中改正法律案

第十四 關稅法中改正法律案

右四案は昭和十年三月十九日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して三月二十日の本會議に上程せられ、矢吹大藏政務次官は提案理由を大要左の如く説明せり。

關稅定率法中改正法律案外三件に付き關稅改正の趣旨を説明すべし。先づ大正十三年法律第二十四號中改正法律案は、現行の規定品目中より貴石外幾品目を削除し、併せて字句の修正を爲さむとするものなり。貴石は容積極めて小にして、價格甚だ高價なる品物なるが故に、現行税率を以てしては取締上至難の點あるを以て、其税率を從價一割と爲さむとす。次に人造麝香等五品目に付ては、是等物品の生産、輸入及需給等の情況に鑑み、現行税率の改正を加ふるの要ありと認むるが故に、關稅定率法中改正法律案及昭和七年法律第四號中改正法律案を提出せり。尙ほ貴石に對しては現行關稅法の罰則を以てしては、之が取締の目的を達する上に於て十分ならざるものありと認めたるを以て、關稅法の改正を行ふこととなせり。關稅率の點に關しては、政府は曩に關稅調査委員會に諮問し、其答申に基き茲に關稅の關係法律案を提出せし次第なり。

次で右四案は、重要法案なるを以て、特に左記十五名の特別委員に付託せられたり。

侯爵 細川 護 立君(火)	侯爵 德川 賴 貞君(火)
伯爵 溝口 直 亮君(研)	男爵 安 保 清 種君(公)
子爵 曾 我 祐 邦君(研)	子爵 井 上 勝 純君(研)

子爵 高橋 是賢君(研) 眞野 文二君(和)
男爵 伊藤 一郎君(公) 男爵 安場 保健君(公)
青木 周三君(成) 大川 平三郎君(交)
磯村 豊太郎君(研) 大澤 徳太郎君(研)
水野 甚次郎君(交)

本委員は三月二十二日曾我子爵を委員長に、眞野文二君を副委員長に挙げ、委員會を開くこと二回にして審査を終り、翌二十三日委員長より右四案可決報告書を議長に提出せり。
三月二十五日の本會議に於て曾我委員長は委員會に於ける審査の経過及結果を報告せり。其要旨左の如し。

政府の今回の關稅改正の一は、燒酎類及貴石を十割關稅(費澤稅)より削除せんとするものなり。燒酎類の中には品質粗悪にして價格低廉なるものが輸入せらるるを以て、輸入價格と同額の關稅を設けたるのみを以てしては十分ならざるが故に、關稅定率法に依り課稅することとなせしなり。貴石に付ては十割を課稅するに依り、却て諸種の弊害——密輸入の如き——を誘發するを以て、之が防止の爲從價一割に引下げんとするなり。而して之に伴ひ關稅法の罰則に不合理を生ずるが故に、之をも併せて改正し、原價の三倍の罰金又は料料に處すと改正せむとするなり。更に關稅違脫犯の原動力たる故買犯に付ては、貴石に關する限り五千圓以下の罰金又は料料に處し、貴石の價格五千圓を超過する場合に

は價格以下の罰金に處すと改正せんとするなり。大正十三年法律第二十四號中改正法律案は昭和四年度の改正の趣旨明確ならざるが爲、之を明瞭にせむが爲に改正せられたるなり。次に人造麝香の輸入稅引上げは内地生産を保護せんが爲にするなり。其他「ヴァナヂウム」、漂白されたる平織の亞麻布及亞麻綿交織布、「マグネシウム」合金、「ヴァルガナイズド・ファイバー」等も其生産輸入及需給の情況に鑑み、現行の稅率を改正するの必要を認められたるなり。

委員會に於ける質問應答の主なるもの次の如し。(問)「ダイヤモンド」は費澤品の最たるものなるも、之を費澤稅より除くは本稅施行の趣旨に反せざるや。(答)弊害防止の爲に此改正を適當なりと考ふ。

(問)鐵刀木等に課稅するは不適當に非ずや、從來も無定見、無方針の如くなりしも今後研究する考ありや。(答)將來篤と考慮すべし。(問)貴石の稅率を引下ぐるも脫稅は絶へざるものと思ふが所見如何。(答)罰則と相俟ちて防止し得るものと考ふ。今後も十分取締る方針なり。

次で討論に入り一委員より、關稅政策の重要なるに鑑み、適當なる方策を執るべき心掛を必要とすとの意見出で、引續き採決の結果全會一致四案を可決せり。

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく四案を可決せり。

第十五 昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ

關スル法律案

本案は昭和十年三月十九日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して三月二十日の

本會議に上程せられ、矢吹大藏政務次官は提案理由に付き大要左の如き説明を爲せり。
本法律案の提案理由を説明すべし。昭和十年年度歳入歳出總豫算に伴ふ一般会計歳入不足の補填に付き
ては、之に關する法律案を今期議會に提出中なるも、別途提出せる同年度歳入歳出總豫算追加第一號
に計上せる經費の財源に付ても亦今日の場合公債に依るの必要あるを以て、本法律案を提出せる次第
なり。尙ほ本法律案は前述の如く總豫算に伴ふ歳入補填公債法案が目下審議中なるに鑑み、別個の法
律案と爲せる次第なり。

次で本案は酒造組合法中改正法律案外三件の特別委員(二〇頁参照)に併せ付託せられたり。而して三月
二十三日委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。

三月二十三日の本會議に於て、大河内委員長は委員會に於ける審査の經過及結果を報告せり。

本案は滿洲國皇帝陛下奉迎に關する豫算なり。(本案は昭和十年年度一般会計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債
發行ニ關スル法律案外一件の委員長報告と同時に爲されたるを以て、其他の點に付きては之を略す。

(二三頁参照)

委員長報告後、直に採決に入り、異議なく本案を可決せり。

第十六 不動産融資及損失補償法中改正法律案

本案は昭和十年三月十九日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して三月二十日の
本會議に上程せられ、矢吹大藏政務次官は提案理由を大要左の如く説明せり。

本法律案の提案理由を説明すべし。不動産融資及損失補償法は、昭和七年十月之を實施せし以來、銀
行の信用を確保し、金融界の安定に資する上に於て多大の効果を收め來りしも、同法に依る不動産資
金の融通期間は本年九月末を以て終了するものと規定せられたり。然るに最近に於ける銀行の不動産
固定資産の情況を見るに、之が整理は必しも既に十分に進捗せりと言ふ能はざるものあり。而も經濟
界は未だ全般的の回復を見るに至らず、不動産の價格も亦僅に低落の歩を止めたるに過ぎざる状態な
るに加へ、昨年中は殆ど全國に亘り各種の災害相踵いで起り、之が爲に銀行に於ける不動産固定資金
の整理は一層其進捗を阻害せらるるに至りし情況なり。従て金融疎通の情勢を確保せむが爲には、今
後も引續き右固定資産の資金化を助成するの必要あるも、之が爲には本法に依る不動産資金の融通期
間を本年十月以降三年間延長するを適當なりと認め、本案を提出せる次第なり。

次で本案は酒造組合法中改正法律案外三件特別委員(二〇頁参照)に併せ付託せられたり。而して三月二
十三日委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。

三月二十四日の本會議に於て、大河内委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き大要左の如く報
告せり。

先づ政府より本案の趣旨及本法が相當効果を擧げ得たる旨の陳述ありたり。委員會に於ける主なる質
問應答は次の如し。(問)本法に依る融通額(五億圓の豫定に對し、三千二十八萬圓)の甚だ少なき理
由如何。(答)原因の一は、景氣好轉後に於て資金の融通が比較的容易に得らるるに至りしこと、二は

不動産の價格低落に伴ふ資金融通の困難、三は銀行の信用に關すること、但し此點は一般の理解に依り漸次解消されつゝあり、四は利率の高過ぎること等なり。(問)現在の利率は幾何なりや、又之を引下ぐるの意思なきや。(答)預金部に於て五分三厘にて貸付け、七厘の利鞘を取る。近來の狀況に鑑み引下ぐるを可とす。(問)本法の融資は銀行の救済のみに止まるにあらずして、債務者の救済をも併せ含むものなり。債務者の救済の點に付て不十分の嫌なきや。(答)政府も其趣旨に顧み、今後努力すべし。(問)十五年後は如何になるべきか。(答)債權の性質の良きものに付きては不動産銀行に於て肩替りを爲し、然らざるものに付きては損失の整理等を爲すべし。

質問を終りて採決に入り、全會一致を以て本案を可決せり。
委員長報告後、直に採決に移り、異議なく本案を可決せり。

第十七 政府貸付金處理ニ關スル法律案

本案は昭和十年三月二十三日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して三月二十四日の本會議に上程せられ、高橋大藏大臣は提案理由に付き大要左の如く説明せり。

政府貸付金處理ニ關スル法律案の提案理由を説明すべし。政府が一般會計の歳出に依り關東震災の復舊復興の爲め、公共團體、又は學校等に貸付けたる貸付金の總額は一億七千八百八十餘萬圓に上り、右は議會の協賛を経たる豫算外國庫の負擔となるべき契約に關する件等に依りて、豫め定められたる貸付條件に従つて、昭和四年度より之が償還を開始し、昭和九年四月一日迄に五千五百四十餘萬圓の

元利金を支拂ふべきものと定められたり。然れども右元利金の大部分は延滞し、之を此儘放置せんに、將來益々延滞額が累増し、之が處置の困難を加ふるの憂あるを以て、此際適當なる對策を講ずるの必要ありとす。勿論是等政府貸付金は國民の負擔に於て行はれたるものなるが故に、所定の條件に依り之が償還を爲さしむべきは當然のことにして、殊に今日の如き國庫の財源不足の折柄、一段其必要を感ずるものなれ共、是等貸付先は何れも公共團體、學校等、公益の目的を有する團體にして、中には近年打續く經濟界の不況に依り支拂財源を得るに窮し、延滞を餘儀なくせらるるものも存するを以て、右の如きものに對しては、當初の條件に従つて取立を爲すことに依りて、其財政上に過重の負擔を爲さしめ、延いては公益上の機能を維持せしむる能はざるが如き結果を生せしむべからざるものなり。之を以て是等の貸付先に對し、其貸付條件又は延滞せる元利金の支拂方法を適當に変更するは已むを得ざる處置にして、又斯くするは其回收を促進するの結果にもなるべしと考ふるものなり。上述せる關東震災貸付金以外の、一般會計並に特別會計の支出に依る既存の政府貸付金等の中にも、略ぼ同様の事情にあるもの存するを以て、此際斯かる事情にある貸付金に付ては、貸付條件又は延滞せる元利金の支拂方法を變更し得る途を開くの必要ありと思惟す。尤も斯の如きは極めて重要なる事柄なるのみならず、又之が途を開くことに依りて、一般に延滞の氣風を助長する等の餘弊を生ずるが如きあるべからざるが故に、之が取扱は十分之を慎重にせしむることとし、新に委員會を設け、之が議を経て實行することと爲せり。右の趣旨に基き本案を提出せる次第なり。

次で本案は酒造組合法中改正法律案外三件特別委員(二〇頁参照)に併せ付託せられたり。而して三月二十五日委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。

同日の本會議に於て、大河内委員長は委員會に於ける審査の經過及結果を報告せり。其要旨左の如し。

本案の委員會の經過及結果を報告すべし。本法案の對象となるべき貸付金は、一般會計並に各特別會計の歳出の支出に依る貸付金にして、預金部資金、簡易保險積立金、郵便年金積立金等、國庫の運用に依る貸付金、或は震災手形善後處理法に依る貸付金等を除外す。右歳出の支出に係る貸付金に付ても、特に一般會計に於て貸付けたる關東及山陰、丹後、但馬地方震災關係の貸付金一億七千六百九十二萬餘圓、並に海外邦人關係貸付金千二百五十八萬餘圓に付て差當り處理の急を要するものありとす。委員會に於ける重なる質問應答左の如し。(問)何故に斯くの如き巨額の延滞を生ずるに至りしや。現在まで之を看過せしは政府の怠慢に非ずや。(答)延滞の理由は種々ありしも、就中震災の創痍未だ十分癒えざるに、經濟界の不況に際會し、財政窮乏せるが爲なり。怠慢の謗りありとせば已むを得ず。(問)從來支拂能力ありて延滞せるものは本法制定後も引續き支拂を爲さざるの虞なきや、又内務省は延滞せる各貸付先に對し、如何なる監督を爲し來りたるや。(答)一部の支拂能力ありて延滞せるものは本法に依り將來は無理なく、年賦償還することを得、回收の促進を期し得るものと考ふ。内務省に於ては今後一層地方團體の財政監督を行ふべし。(問)神社等に對する貸付金は之を免除するを適當とせざるや。(答)免除の影響は大なるものあり、且つ條件緩和に依りて償還を期し得る見込なれば、現在

其の免除を必要と認めず。(問)委員會の構成及其決議を權威あらしむるが爲の政府の所見如何。(答)十分考慮すべし。更に個々の問題即ち關東、丹後、山陰等震災の貸付金、海外邦人の貸付金、朝鮮總督府、臺灣總督府及關東州廳の貸付金、横濱の永代借地權整理及沖繩縣財政整理貸付金、並に歳出に依らざる分に付ては震災手形の貸付金等に關し、夫々質問應答ありたり。然れども減額の程度及緩和さるべき條件等に關しては、政府は一切説明するところなかりしなり。尙ほ震災關係の貸付金に付ては、衆議院に於て附滯決議を附され、政府も此趣旨に對し原則として同意したり。

審査の結果、斯かる法律の制定は、政府貸付金の整理及是が回收促進の爲に、地方公共團體の實狀に鑑み、必要已むを得ざるものなるも、尙ほ各貸付先に對する條件の緩和に關し、各團體に付き不偏、公正に行はるることの必要を認め、左の希望決議を附して全會一致を以て可決せり。

政府貸付金ハ國民負擔ニヨルモノナルニ鑑ミ政府ハ宜シク本法施行ニ際シテハ慎重ナル調査ヲ行ヒ實狀ニ即シタル整理方法ヲ講シ以テ國民負擔ノ公平ヲ期スルコトニ留意シ且委員會ノ組織權限及委員ノ選定ニ關シ善處アランコトヲ望ム

委員長報告後、直に採決に入り、異議なく本案を可決せり。

第十八 昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債第二次追加發行ニ關スル法律案

本案は昭和十年三月二十五日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して同日の本會

議に上程せられ、矢吹大藏政務次官は提案理由に付き大要左の如く説明せり。

本案の提案理由を説明すべし。昭和十年年度歳入歳出總豫算及追加第一號に伴ふ一般會計歳入不足の補填に付ては、之に關する法律案を今期議會に提出したるも、別途提出せる同年度歳入歳出總豫算追加第二號に計上せる經費の財源に付ても、亦公債に依る外之無きを以て、本法律案を提出せる次第なり。次で本案は酒造組合法中改正法律案外三件特別委員(二〇参照頁)に併せ付託せられたり。而して三月二十五日委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。

同日の本會議に於て、大河内委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き大要左の如く報告せり。

本案は二千四百四十萬圓の赤字公債發行に關するものなり。委員會に於ける主なる質問應答は次の如し。

(問)本案と關聯する法律案にして成否未定なるもの——例へば、米穀法、治安維持法——あるも、それに伴ふ經費不要のものに付ては、公債の發行を差控へる積りなりや。(答)然り。(問)其額如何。

(答)米穀法及治安維持法の兩者を合して百七十二萬圓なり。

質疑後採決に入り、全會一致を以て本案を可決せり。

第十九 登録税法中改正法律案(衆議院提出案)

本案は衆議院提出案にして、昭和十年三月三日貴族院に提出せられたり。而して三月十一日の本會議に上程せられ、直に酒造組合法中改正法律案特別委員(二〇頁参照)に併せ付託せられたり。而して三月十三

日委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。

三月十四日の本會議に於て、大河内委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き、大要左の如き報告を爲せり。

保險會社の契約の包括移轉は、合併と同性質のものなるが故に、之に對し本案に依り合併の場合と同一の登録税を課せんとするものにして、從來不動産に付ては千分の三十三、船舶に付ては千分の二十三なりしものを、合併の場合と同様、千分の三に引下げむとするものなり。而して本改正は兩者間に著しき間隔あるを以て、之に依り財政上缺陷を生ずることなきやに付て政府の所見を質したる處、政府に於ては此額は極めて少額にして豫算上不都合を生ぜず、修正も差支なしとのことなりしを以て、全會一致を以て本案を可決せり。

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく本案を可決せり。

第二節 第二部(外務、司法)關係法律案

第二部關係法律案中、議決せられたるものは左記十一件(政府提出案十件、衆議院提出案一件)なり。(議決に至らざりしものに付ては本章第八節参照)

- 一、國際文化事業ニ關スル經費支辨ニ關スル法律案(四六頁)
- 一、裁判所構成法中改正法律案(四九頁)

- 一、裁判所ノ廢止及設置ニ關スル法律案(四九頁)
 - 一、大正二年法律第九號中改正法律案(裁判所管轄區域ニ關スル件)(四九頁)
 - 一、司法代書人法中改正法律案(四九頁)
 - 一、辯護士法中改正法律案(四九頁)
 - 一、公證人法中改正法律案(四九頁)
 - 一、執達吏規則中改正法律案(四九頁)
 - 一、執達吏手数料規則中改正法律案(五〇頁)
 - 一、民事訴訟法中改正法律案(五二頁)
 - 一、刑事訴訟法中改正法律案(衆第十八號)(五二頁)
- 以上十一案に付き其議事の經過及結果を左に略述すべし。

第一 國際文化事業ニ關スル經費支辨ニ關スル法律案

本案は昭和十年二月二十六日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して三月一日の本會議に上程せられ、廣田外務大臣は提案理由に付き大要左の如き説明を爲せり。

本案の提案理由を説明すべし。元來國際間の理解を進めんが爲には、各國相互に其獨自の文化を諒解することの與つて力あるのみならず、諸外國に於ても、我が文化を知らむとするの風潮起りつゝあるを認め、政府は昨年以來朝野相應じ、日本文化宣傳の施設に著手しつゝありしが、國際聯盟脱退後の

形勢は、益々此種の施設の必要を痛感するを以て、昭和十年度の豫算に於て、之に要する經費百萬圓を計上せり。而して之が經費の支辨に付ては、大正十二年法律第三十六號に依る特別會計に屬する資金の情況に鑑み、當分の中、其資金を繰替使用するを適當と認めたるが故に本案を提出せる所以なり。次で本案に對し質疑の通告あり、田中館愛橘君(無所屬)は、國際的に宣傳せらるべき我國の文化とは如何。之に關聯して國語の尊重及其根本的整理の必要並に日本地圖作成に付き一定の方針に従ふの必要ありと思ふが當局の所見如何、又國際學界に出席する我國代表の人選に付き將來注意すべきものなきや等の要旨の質問を爲し、之に對し廣田外務大臣より國際的に宣傳すべき我國の文化とは、抽象的に述べれば、日本の特色とする國家組織、並に近來の學術、文藝等の發達なる旨、國語の根本的整理の必要あるは同感なる旨及び日本地圖作成の形式は相當の域に達せし旨の答辯あり。更に松田文部大臣は國語の尊重すべきは同感にして、國語審議會を設けて調査中なる旨及び國際學會に出席する代表の人選に付ては、當該各學會と協力して善處する旨を答辯せり。

次で本案は左の九名の特別委員に付託せられたり。

侯爵 井上三郎君(火)	伯爵 樺山愛輔君(研)
子爵 曾我祐邦君(研)	子爵 近衛秀麿君(研)
山川端夫君(研)	男爵 高木喜寬君(公)
若尾璋八君(交)	小坂順造君(成)

小林嘉平治君(和)

本委員は三月二日樺山伯爵を委員長に、高木男爵を副委員長に挙げ、三月五日委員会を開きて審査を終り、同日委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。

而して三月十一日の本會議に於て樺山委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き大要左の如く報告せり。

本法案提出の趣旨は、我國四圍の情勢に鑑み、國際文化事業の必要なるは勿論にして、其の爲の經費は一般會計に俟つを適當とするも、現在の財政状態よりしては困難を感ずるを以て、昭和十年度の資金百萬圓は大正十二年法律第三十六號に依る特別會計に屬する歳入超過額五百十三萬餘圓より流用せんとするに在り。次に委員會に於ける質問應答の大略を述べれば次の如し。(問)百萬圓を如何に支出するや。(答)外務省に文化課を置き、又海外の重要な大學に日本語學、文化の講座を設け、更に教授及學生の交換を行ふ等に用ふ。(問)特別會計に支障を來すことなきや。(答)爲替相場の關係上差益を生じ、九年度には餘祐あるを以て支障なし。(問)文化事業の經費は一般會計より支出すべきに非ざるか。(答)同感なるも財政の關係上已むを得ず。(問)諸外國に比し、資金不足と思ふが如何、又國際聯盟を脱退せる場合に浮くべき分擔金を、文化事業に用ふるを適當なりと思ふも所見如何。(答)外務省としては、今後の事業の進展に伴ひ金額を増額するやう取計ふ考へなり。(問)日支關係好轉しつゝある現在、此機運に乗じ一層對支文化に力を致すべしと考ふるも所見如何。(答)從來も其考へなりし

が、今後一段と努力すべし。(問)觀光協會等に於て外客誘致の爲に諸種の設備を爲しつゝあるも、横濱、神戸等の税關に於ける警察、憲兵等の取調其禮を失し、爲に却て惡印象を與へ、折角の協會等の努力を無に歸せしむることあるも、之に對し政府は如何に考ふるや。(答)同感なり、今後改善するやう努力すべし。

最後に委員外議員より、文化事業促進の爲に、中央に綜合大學を設立すべしとの希望意見出でたり。斯くして採決の結果全會一致を以て本案を可決せり。

委員長報告後、質疑の通告あり、曾我子爵は國際文化事業に關する資金の財源の確實化に付き質し、廣田外務大臣及高橋大藏大臣より其趣旨を諒とする旨を答辯せり。次で採決に移り、異議なく本案を可決せり。

第二 裁判所構成法中改正法律案

第三 裁判所ノ廢止及設置ニ關スル法律案

第四 大正二年法律第九號中改正法律案

第五 司法代書人法中改正法律案

第六 辯護士法中改正法律案

第七 公證人法中改正法律案

第八 執達吏規則中改正法律案

第九 執達吏手数料規則中改正法律案

石八案は昭和十年三月十九日衆議院を通過（司法代書人法中改正法律案は修正議決、其他は全部可決）し、即日貴族院に送付せられたり。而して三月二十日の本會議に上程せられ、小原司法大臣は提案理由に付き大要左の如き説明を爲せり。

裁判所構成法中改正法律案外七件の提案理由を説明すべし。

裁判所構成法中改正法律案の主眼とするところは、從來通常裁判所に於ては、民事及刑事を裁判するものとせられたりしが、今回地方裁判所に付ては民事のみを管轄する民事地方裁判所と、刑事のみを管轄する刑事地方裁判所とを設くるを得べき途を開きたる點に在り。是は東京地方裁判所の現狀に鑑み、切實に其必要を感じたるものにして、東京地方裁判所に於ける事件の數、又其職員の數に徴するに、之を一人の地方裁判所長の監督の下に其統制の全きを期するは蓋し至難のことと言はざる可からざるなり。之を以て右監督統制の全きを期せんが爲には事務の相違、職員分野に従ひ、之を民事刑事各個の地方裁判所に獨立分離せしむるを以て最も適當なりとし、又其必要缺く可からざるものなりと思惟せり。茲に於て裁判所構成法中改正法律案と相俟ち、裁判所ノ廢止及設置ニ關スル法律案を以て、東京地方裁判所を廢止して、改めて東京民事地方裁判所及東京刑事地方裁判所を設立し、同時に大正二年法律第九號中改正法律案に依り、東京民事地方裁判所と東京刑事地方裁判所の管轄區域を明にせむとする次第なり。

次に司法代書人法中改正法律案外四件は、前述の如く地方裁判所を民事地方裁判所と刑事地方裁判所に分離することを得るの途を開きたる結果、夫々其規定を改正整備するの必要を生じたるなり。即ち地方裁判所が民事及刑事の各獨立の地方裁判所に分離せられたる場合に於ける辯護士、公證人及司法代書人の監督上の地位を明かにし、又執達吏に付ても之に類する事項を改めむが爲に本案を提出せる次第なり。要するに裁判所構成法中改正法律案に關聯する整備的趣旨の改正案なり。尙ほ司法代理人法中改正法律案に付ては、衆議院に於て司法代書人の名稱を司法書士と修正せられたる結果、本案の名稱は司法書士となり居る故、右諒承せられたし。

次で右八案は、直に刑法中改正法律案外四件の特別委員（九一頁參照）に併せ付託せられ、而して三月二十二日（司法代書人法中改正法律案に付ては二十二日）委員長より右八案可決報告書を議長に提出せり。三月二十三日の本會議に於て、木場委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き、大要左の如き報告を爲せり。

特別委員會は三回に亘りて開會せられたり。

裁判所構成法中改正法律案外七件に付き其概要を説明すべし（是は前掲司法大臣の提案理由の説明と大體同様なるを以て、茲には之を省略す）。次に委員會に於ける質問應答の主なるもの一二を擧ぐべし。（問）本法案成立後、之が適用範圍は東京のみに限らるるものなりや。（答）大阪に付ては他日其必要あるやに考ふるも、現在は東京に付てのみ適用する考なり。（問）區裁判所に付ても同様の改正を必要と

せざるや。(答)區裁判所を増設するの必要あるは十分之を認むるも、經費の都合上之が實現は困難なり。而して將來に於て數個の區裁判所となすや、或は本案の如く民事、刑事專問の區裁判所となすやに付ては、現在確定せる意見なし。(問)本案の趣旨よりして、更に民事刑事各專問の裁判官を養成するの必要を認めざるや。(答)裁判官養成に付ての政府の執り來りし方針は、民事、刑事共通の裁判官を養成するに在り。然れども高級の裁判所に於ては、自ら刑事專問、民事專問と云ふが如き裁判官ありて、其所長に依りて適所に配置さることあり。質疑を終り、引續き採決に入り、全會一致を以て付託八案を可決せり。委員長報告後、直に採決に移り、異議なく右八案を可決せり。

第十 民事訴訟法中改正法律案

第十一 刑事訴訟法中改正法律案(衆第十八號)

右二案中、民事訴訟法中改正法律案は昭和十年三月十九日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して三月二十日の本會議に上程せられ、小原司法大臣は提案理由に付き大要左の如き説明を爲せり。

本案は農業者等の生活安定に資せむとするものなり。御承知の如く此問題に付ては、第六十五回帝國議會に際し、本院に於ける農業者等の窮狀緩和に關する決議もあり、旁々政府としては關係各省協議を重ねたる結果、民事訴訟法中差押に關する規定を適當に改正すべきものと考へ、茲に本案を提出す

るに至れるものなり。本案に於ては現行民事訴訟法の強制執行に關する規定中、第五百七十條第一項第二號に債務者及其家族に必要な一ヶ月間の食糧及薪炭は差押ふることを得ざるものと規定せるを三ヶ月間の食糧及薪炭と改めて其生活の保障の程度を擴張し、更に右の外一般に差押に因つて債務者が生活上回復すること能はざる窮迫の状態に陥る處ある場合に、裁判に依つて必要なる限度に財産を保留するを得るの途を開かむとするものなり。斯くして曾に農業者のみならず、小商工業者其他の窮狀をも相當に緩和するを得るものと信するなり。尙ほ本法案に於ては、右の如く民事訴訟法を改正せし結果、之と權衡を得せしめむが爲に、國稅徵收法の規定をも改正し、三ヶ月間の食糧及薪炭は國稅滯納處分に依りても之を差押ふ事を得ざるものとし、兩者相俟ちて窮狀緩和の實を擧げむことを期する次第なり。慎重審議の上、協賛あらむことを切望す。

刑事訴訟法中改正法律案(衆第十八號)は衆議院提出案にして、昭和十年三月十九日貴族院に提出せられ、翌二十日の本會議に上程せられたり。

次で右二案は直に刑法中改正法律案外四件の特別委員(九一頁參照)に併せ付託せられ、而して三月二十三日委員長より兩案可決報告書を議長に提出せり。同日の本會議に於て、木場委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き、大要左の如き報告を爲せり。

民事訴訟法中改正法律案は昨年衆議院の議案として現はれ、本院に於ても重大問題として取扱はれた

るものなるも、缺點多かりしが爲に成立を見るに至らざりしものなり。然れども其際本院に於ては之に關する建議案を提出せしを以て、以上の沿革に基き政府に於ても慎重なる調査研究の上、本案を提出するに至りたるものと認むべきなり。本案の主なる眼目は次の如し。(是は上掲司法大臣の提案理由の説明と大體同様なるを以て、茲には之を省略す)

次に委員會に於ては、本案に關し「一ヶ月」を「三ヶ月」と改めたる標準如何との質問あり、之に對して政府は、期間を餘りに長期となすに依り、債務者は不當の利益を得、債權者は意外に大なる犠牲を拂はざるべからず。又斯く債務者に有利なる規定を設くるは、却て金融上梗塞の弊を生ずる虞あるを考慮し、三ヶ月を適當と認めたるなりと答辯せり。尙ほ本案の昨年衆議院案と異なる點にして注意すべきは、此規定の適用を獨り農業家のみに限らず、廣く債務者並に其家族と規定し、一般に適用せらるる點に在り。

刑事訴訟法中改正法律案(衆第十八號)は、現行刑事訴訟法第百十三條の句留の期間及其更新の規定の無期限なるにより生ずる弊害を除去せむが爲に、句留期間「二ヶ月」を「一ヶ月」に改め、又其更新は「一ヶ月毎」に期限附を以て爲すことを得となすに在り。之に對しては政府も進んで賛成の意を表し又委員會に於ても時宜に適應したる法案なりと認めたり。

依つて採決の結果、全會一致を以て兩案を可決せり。

委員長執告後、直に採決に移り、異議なく兩案を可決せり。

第三節 第三部(内務、文部)關係法律案

第三部關係法律案中、議決せられたるものは左記十件(政府提出案九件、衆議院提出案一件)にして、何れも可決せられたり。(議決に至らざりしものに付ては本章第八節參照)

- 一、労働者災害扶助法中改正法律案(五五頁)
- 一、工場法中改正法律案(五六頁)
- 一、鑛業法中改正法律案(五六頁)
- 一、市町村立尋常小學校費臨時國庫補助法中改正法律案(五九頁)
- 一、公立學校職員年功加俸國庫補助法中改正法律案(五九頁)
- 一、府縣制中改正法律案(六一頁)
- 一、北海道會法中改正法律案(六一頁)
- 一、市制中改正法律案(六一頁)
- 一、町村制中改正法律案(六一頁)
- 一、營業收益稅法中改正法律案(衆議院提出)(六六頁)

以上十案に付き其議事の經過及結果を左に略述すべし。

第一 労働者災害扶助法中改正法律案

第二 工場法中改正法律案

第三 鑛業法中改正法律案

右三案は昭和十年三月一日政府より貴族院に提出せられたり。而して翌二日の本會議に上程せられ、後藤内務大臣は提案理由に付き大要左の如き説明を爲せり。

労働者災害扶助法中改正法律案は、現行の労働者災害扶助法が土石砂鑛採取事業、土木事業、鐵道、軌道若しくは乗合自動車に依る運輸事業、並に貨物積卸の事業等に適用せらるるものなるも、本法施行後の情況を見るに、鐵道、軌道若しくは索道の運輸事業又は水道、電氣若しくは瓦斯の事業に於ける各種の工事に付ては、其事業主の直營工事に付てのみ本法の適用あるが爲に、其事業の運営上普段行はるる修理、其他の保存的工事なりと雖も、若しそれが直營工事に非ずして注文に依りて行はるる場合には其工事は本法の適用外に在ることとなり、彼此權衡を失するを以て、此不合理を除かむとして提出せられたるものなり。次に注文に依る作業若しくは工事といふものの中に於て、船舶貨物の積卸作業、又は鐵道、軌道若しくは索道の運輸事業、水道、電氣若しくは瓦斯事業に於ける保存的の工事に於ては、其作業若しくは工事が其事業の運営上極めて密接なる關係あり。而も其作業若しくは工事引受を爲す者の中には、資力の薄弱なる者少なからざるを以て、労働者の災害扶助の全きを期せむが爲に、扶助責任者を單に労働者の直接の使用者たる者のみに止めず、斯かる作業若しくは工事の注文者にも及ぼすことと爲せり。

而して労働者の災害扶助と損害賠償との關係に付ては、労働者災害扶助法施行令第三條の扶助を受くべき者は、民法に依り同一の原因に付て損害賠償を受けたる時は、事業主は扶助金額より其金額を控除するを得と規定せられあるも、多くの場合に於ては、本法に基づく扶助は民法に依る損害賠償に先ちて迅速に爲されつつあるの關係上、改正法案に於ては、事業主が成規の扶助を爲したる場合には、其爲したる扶助の價格の限度に於て、民法に依る損害賠償の責を免るるものとし、事業主をして一原因に付て二重の負擔を受くることなからしめむことを期せり。又扶助請求權の性質に鑑み、特に二年の短期時効を設け、併せて其權利の讓渡及差押を禁ずるものと爲せり。

工場法中改正法律案並に鑛業法中改正法律案は前述せる趣旨と同様の理由を以て、職工又は工夫の災害扶助と損害賠償との關係其他に付て、労働者災害扶助法の改正案と同時に之を改正することと爲せし次第なり。

次で右三案は左記九名の特別委員に付託せられたり。

公爵 島津 忠承君(火)	伯爵 松木 宗隆君(研)
子爵 野村 益三君(研)	柴田 善三郎君(成)
男爵 關 義壽君(公)	安立 綱之君(和)
大塚 惟精君(研)	細田 安兵衛君(研)
青木 才次郎君(交)	

本委員は三月八日島津公爵を委員長に、野村子爵を副委員長に挙げ、委員會を開くこと三回にして、審査を終り、三月十一日委員長は本案可決報告書を議長に提出せり。
三月十三日の本會議に於て、島津委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き大要左の如く報告せり。

右三案に關する委員會の經過並に結果を報告すべし。

勞働者災害扶助法中改正法律案の改正の第一點は、適用範圍の擴張にして、鐵道、軌道の運輸事業及瓦斯、電氣等の事業を爲す土木事業にして、請負とするものに付ても本法を適用せむとするに在り。之に關し從來此種の事業に於て、勞働者が災害を受けたる場合には如何に處理せられたりやとの質問あり、之に對し政府委員より、從來は勞働者と雇主との人情的解決に俟つより外方法無かりし旨を答辯せり。改正の第二點は、特殊の事業に付て雇主の外に第二次的扶助責任者を設けむとするものなり。此點に關し、二人以上の責任者あるは扶助確保の爲には便宜なるべきも、實際問題として扶助請求の複雑を來し、且つ延いて勞働者に不便を與へることなきやとの質問あり、之に對し政府委員は、第一次扶助責任者は直接の使用主にして、原則として之に對し請求を爲すものなり、唯右の者扶助せざる場合に於て第二次に事業注文者に請求するものなれば、扶助請求の混亂を來すことなしと答辯せり。改正の第三點は、扶助と損害賠償との重複を避け、又扶助の时效は二年とし、扶助請求權の讓渡、差押を禁ずる等、扶助請求權の性質に基き現行法を改正せむとするに在り。而して时效を二年とせし理由如何

との質問に對し、政府は扶助は一面に於ては一種の貸銀、他面に於ては一種の損害賠償と見るべきものと思ふが故に、民法の損害賠償請求權の时效三年と貸銀請求權の时效一年との中間を取り、及び勞働者災害扶助責任保險法に依る保險金支拂義務の时效二年と歩調を合せて二年となしたる旨答辯せり。他の二案も前述の趣旨に基くものなるも、之に對しては格別質問も無く、次で討論に入り、一委員より本改正案は現行法實施の成績に鑑み、勞働者の保護と共に事業者の便宜をも考へ、何れにも偏せざる改正案なるも、尙ほ將來に於ても災害扶助に付ては十分なる考慮を拂はれ、其完璧を期せられむことを望むとの、希望的意見を附しての賛成意見あり、引續き採決の結果、全會一致を以て原案通り可決せられたり。

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく右三案を可決せり。

第四 市町村立尋常小學校費臨時國庫補助法中改正法律案

第五 公立學校職員年功加棒國庫補助法中改正法律案

右二案は昭和十年三月十六日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して三月十八日の本會議に上程せられ、松田文部大臣は提案理由に付き、大要左の如く説明せり。

市町村立尋常小學校費臨時國庫補助法中改正法律案提出の理由は、市町村財政の現状に鑑み、市町村立尋常小學校費臨時國庫補助法に依る補助年限を昭和十年年度まで延長し、併せて市町村に對する補助金交付の割合を變更するの必要あるを以てなり。

公立學校職員年功加俸國庫補助法中改正法律案の提案理由を説明すべし。今回實業補習學校及青年訓練所の兩青年訓練機關を統合して青年學校とすると共に、實業補習學校教員養成所を改めて青年學校教員養成所とすることとなり。仍て公立學校職員年功加俸國庫補助法中、學校の名稱を改むるの必要あるを以て、本案を提出せる次第なり。

次で右二案は左記九名の特別委員に付託せられたり。

公爵 山 縣 有 道君(火)	侯爵 大久保利武君(研)
松浦鎮次郎君(和)	子爵 實 吉 純 郎君(研)
男爵 金子 有 道君(公)	堀切善次郎君(研)
加藤政之助君(成)	石 川 三 郎君(研)
吉田羊治郎君(交)	

本委員は三月十九日大久保侯爵を委員長に、松浦鎮次郎君を副委員長に擧げ、委員會を開くこと三回にして審査を終り、三月二十二日委員長は兩案可決報告書を議長に提出せり。

三月二十三日の本會議に於て、大久保委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き大要左の如き報告を爲せり。

市町村立尋常小學校實臨時國庫補助法中改正法律案の改正の要點は、本法は匡救豫算として既に三年間實施せられたるも、現下町村の財政状態に鑑み、更に一年を延長して國庫補助を行はむとするに在

り。但し其金額に於ては國家の財政其他の事情よりして、從來の千二百萬圓を九百萬圓と改め、併せて補助率の改定をも行はむとするものなり。又市に付ては、其財政状態町村と異なるものあるを以て、補助額を從來の半額にし、而して災害其他の事情に依り財政窮迫せる町村に對しては、成る可く從來の補助額を支給せんとするものなり。本案に付て、此補助は將來も續行する考なりやとの質問あり、之に對して松田文部大臣は國庫の財政状態をも併せ考ふるの必要あるも、成る可く續行したき旨を言明せり。其他、教育費國庫補助法との關係、又既往三年間の實施の情况、今回の補助は如何に支給せらるるや、及び災害町村に對する補助に依り受くるべき特別町村に關する影響等の諸點に付き質問應答ありたるも、是等は速記録に讓る。

公立學校職員年功加俸國庫補助法中改正法律案は提案理由説明の如き簡單なる案なり。

質疑應答を終了し、それ〴〵討論採決の結果、滿場異議なく兩案を可決せり。

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく兩案を可決せり。

第六 府縣制中改正法律案

第七 北海道會法中改正法律案

第八 市制中改正法律案

第九 町村制中改正法律案

右四案は昭和十年三月十九日衆議院を通過(修正議決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して三月二

十日の本會議に上程せられ、後藤内務大臣は提案理由に付き大要左の如き説明を爲せり。

府縣制、北海道會法、市制及町村制中の改正法律案を一括して其提案理由を説明すべし。第六十五議會に於て協賛を経たる衆議院議員選舉法中改正法律案は、客年六月二十三日法律第四十九號を以て公布せられ、之に伴ふ附屬諸法令の改正も、既に其必要なる手續を了せり。従て一面に於ては此衆議院議員選舉法改正の趣旨に照應し、一面に於ては地方議會の議員選舉に於ける實績に徴し、地方議會の議員選舉に關する規定の改正を行ふと共に、併せて他の若干の事項に於て必要なりと考へらるる改正を加ふることと爲せり。茲に於て地方制度に關する諸法律の改正を提案せる次第なり。改正案は上述四法律に關するものにして、其内容は相當多數の項目に亘れるも、主に議員選舉に關する事項なり。而して其議員選舉に關する事項は大體之を二に分つことを得。第一は直接に昨年衆議院議員選舉法の改正に伴ふ事項、第二は直接に之に伴ふものに非ざるも、過去の實績に徴し、此際改正を加ふるを適當なりと認むる事項なり。先づ第一の事項に於て述べむに、改正案は衆議院議員選舉法改正の趣旨に従ひ、一、成る可く容易に投票の場所を創設し得るの趣旨を法文に加へたること、二、選舉人の年齢は選舉人名簿確定の期日に依り之を算定するものと爲せること、三、議員又は當選者に欠缺を生じたる場合に於ては、選舉の期日より一年以内は一般次點者を繰上げて之を補充するものと爲せること、四、所謂連坐の訴訟の手續を改正衆議院議員選舉法と同様に改めたり。是等の改正に伴ふ衆議院議員選舉法の罰則其他の規定を準用する諸規定を整備したるものなり。第二の事項に於て述べれば、一、改正

案に於ては市の全部に於て議員候補者届出の制度を採用し、之に伴ひ立會人届出、所謂連坐の訴訟等に關する規定を設けたり。且つ之に衆議院議員選舉又は道府縣會議員選舉に於けると同様の選舉運動及其費用に關する取締規定を適用することと爲せり。是等は既に衆議院議員選舉並に道府縣會議員選舉及大都市の市會議員選舉に關し、相當の効果を挙げ居るものと考ふるが故に、此際一步を進め全部の市に於て之を施行せむとするものなり。二、各種地方議會の議員選舉に關し、所謂不在者投票の制度を採用することと爲せり。大正十四年衆議院議員選舉に關し此制度を採用せし以來、既に數次の選舉を重ね、今や官民共に此制度に習熟せるものと考へらるるを以て、此際之を地方議會の議員選舉にも及ぼし、成る可く多數の選舉人をして現實の選舉に参加するの機會を得せしむることと爲せり。三、尙ほ比較的稀に生ずる場合なれども、府縣會議員選舉に關し人口の著しく少き郡にして一選舉區となるものがあるが故に、是等の郡は府縣條例を以て隣接の郡市と併せて一選舉區と爲し得るの途を開き、各選舉區に對する議員の配當を成るべく公平ならしめむことを期せり。以上は議員選舉に關する改正條項なり。是等の事項の外、改正案に於ては、地方自治の實績に徴し、從來の制度に對し若干の整備改善を加ふることと爲せり。一、租稅滯納處分中の者に對し、其市町村公民權を停止することとしたり。此際公共的精神の向上の上より見て、現に租稅滯納處分を受け、其處分中にある者の公民權行使は妥當ならずと考へらるるが故に、之を停止することとしたるなり。二、市會又は道府縣會の權限に屬する事件にして輕易なるものは、豫め市會又は道府縣會の議決を経て其範圍を定め、市會又は道府縣會の閉會

中、市參事會又は道府縣參事會に於て之を議決し得ることと爲せり。是は事務の便宜と簡捷とを圖るの趣旨に基くものなり。三、市町村會、府縣會等地方議會の内部に於て行はるる選舉に於て、同數の得票者二人以上ある場合に於ては、從來の制度に依れば先づ年齢多き者を探りたりしが、改正案に於ては抽籤の方法を用ゐて當選者を決定するものと爲せり。地方議會の内部に於ける選舉にありては、選舉の結果が大體に於て正確に豫見せらるるが爲に、屢々起りたる弊害の實情に鑑みたるものなり。四、臨時府縣會に付ては、場合に依り通常の會期たる七日より短かき會期を定め得るの途を開きたり。是は臨時府縣會には必しも七日の會期を必要とせざる場合あるを以てなり。以上は政府提案に係る改正の要旨なるも、之に對し衆議院に於て一の修正を加へられたり。其修正は、租稅滯納處分中の者の公民權停止の條項に關するものにして、即ち政府原案に於ては租稅滯納處分中の者に對しては市町村公民權を停止し、從て是等の者は市町村會議員の選舉權及市町村の名譽職を擔任するの資格を有せず、又道府縣會議員の選舉權及被選舉權を有せざることと定められたるが、修正案に於ては此拘束を或程度に緩和し、租稅滯納處分中の者と雖も市町村會議員及府縣會議員の選舉權は之を認むることとし、唯市町村に於ける名譽職擔任の資格及道府縣會議員の被選舉權のみを制限せむとするものなり。

審議の上適當なる協賛あらむことを望む次第なり。

次で右四案は之を左記九名の特別委員に付託せられたり。

侯爵 池田 宣政君(火)	關屋 貞三郎君(研)
子爵 白川 資長君(研)	子爵 富小路 隆直君(研)
松井 茂君(和)	次田 大三郎君(成)
松村 義一君(公)	西本 健次郎君(研)
山上 岩二君(交)	

本委員は三月二十二日白川子爵を委員長に、松村義一君を副委員長に擧げ、委員會を開くこと二回にして審査を終り、翌二十三日委員長より右四案可決報告書を議長に提出せり。而して三月二十四日の本會議に於て、白川委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き、大要左の如き報告を爲せり。

府縣制中改正法律案外三件の委員會の經過及結果を報告すべし。委員會に於ては衆議院の修正通り右四案を可決せり。改正案の大體の趣旨は次の如きものなり。(是は前掲内務大臣の提案理由の説明と大體同様なるを以て茲に之を省略す)次に委員會に於ける質問應答の主なるものは左の如し。(問)衆議院の修正に對し、貴族院に於ても賛成せる場合の政府の所見如何。(答)後藤内務大臣は原案を最善と考ふるを以て其成立を希望するものなるも、修正案に於ても原案の趣旨が或程度に於て現はれ、其の趣旨を達成し得べきものなれば、修正案にして兩院を通過せし場合には、其趣旨に従ひ善處すべしと答辯せり。(問)租稅滯納處分を公平に行ふ爲の方法如何。(答)行政監督上能ふ限りの手段を講ずべ

し。尙ほ市制、町村制の施行令に付ても考慮中なり。

質疑を終り採決の結果、右四案は異議なく衆議院の修正通り可決せられたり。

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく委員長報告通り右四案を可決せり。

第十 營業收益税法中改正法律案(衆議院提出案)

本案は衆議院提出案にして、昭和十年三月十四日貴族院に提出せられたり。而して三月十五日の本會議に上程せられ、直に酒造組合法中改正法律案特別委員(二〇頁参照)に併せ付託せられたり。而して三月二十三日委員長より本案修正議決報告書を議長に提出せり。

三月二十四日の本會議に於て、大河内委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き、大要左の如き報告を爲せり。

本案は年來の懸案たりしが、今日まで意の如くならずして延引せるものなり。然るに今回、政府當局が妥協的精神を以て望まれ本案の成立を見たるに付ては、深甚の敬意を表する次第なり。本改正案の内容は、演劇の興行に關する税は性質上營業收益税なるに拘らず、一種の雜種税を賦課せらるるの現狀にして、是に依れば甚だ重税にして且つ不合理なるが故に、興業者に對する重壓は勿論、延いて農村の娛樂、思想上に及ぼす影響或は藝術の民衆化に反する結果を生ずるを以て、營業收益税法の改正を爲して、此不都合を除去せんとするに在り。而して政府に於ては、是等の趣旨は總て之を肯定されたり。次に然らば何故に斯くの如き不合理なりし税を廢止せざりしやとの質問に對しては、政府は此税は三

百五十萬圓の收入となるも、營業收益税と改むるに於ては、單に十萬圓位の收入となるのみなれば、現在の地方の財政状態に鑑み之が改正を延期し一般財政整理の際まで待つことと爲せりと答辯せり。而して委員會に於ては妥協點を發見せんが爲に懇談會を開きたる處、一委員より改正案の昭和十一年四月一日より施行すとの規定を、施行期日は之を勅令に譲ると修正すべしとの意見出で、内務當局に於ても異議なく之を承認したり。而して此の修正の精神は、行政の便宜上、施行期日を勅令に譲るものなるも本案成立せる以上は之が放置を許さず、速に斯くの如き不合理なる税を改むべしとするに在りたり。政府も其趣旨を諒とせるを以て、異議なく上述の如く修正議決せられたり。

委員長報告後、直に採決に入り、異議なく委員長報告通り修正議決せられたり。而して即日衆議院に廻付せられたり。

第四節 第四部(陸軍、海軍)關係法律案

第四部關係法律案中、議決せられたるものは左記一件(政府提出案)にして、可決せられたり。

一、兵役法中改正法律案(六七頁)

本案に付き左に議事の經過及結果を略述すべし。

兵役法中改正法律案

本案は昭和十年二月二十七日政府より貴族院に提出せられたり。而して三月二日の本會議に上程せられ、

林陸軍大臣は提案理由に付き大要左の如く説明せり。

兵役法中改正法律案の提案理由を説明すべし。

近く青年訓練所と實業補習學校とを併合し、新に青年學校を設けることとなりしが、此併合の目的並に新舊施設の内容より見て、新に設けらるる青年學校に付ても、青年訓練所に於けると概ね同様の趣旨に於て、在營期間の短縮の制を設くるを適當なりと考ふるを以て、是に關する所要の改正を爲さむと欲するなり。次に壯丁の徵兵適齡届を一月末まで提出すべきものと爲せるに對し、市町村長の壯丁人員の調査は一月初にして、此兩者間に連絡なきものなるが、徵集準備上、市町村に於ける壯丁人員の調査に當り單に戸籍上のみにては處置し得ざる事項増加し、市町村長は其資料に困難を感じ居る實情にあるを以て、此際徵兵適齡届を市町村長の壯丁人員調査前に提出せしめ、之を調査の資料たらしむるを適當なりと考ふ。以上二點を以て改正案を提出するに至りし主要なる事項とするも、其他從來の經驗に基き明白ならしむるを便宜なりとする事項、及び他の法令の改廢に伴ふ事項を附加せり。慎重審議の上協賛あらむことを希望する次第なり。

次で本案は左記九名の特別委員に付託せられたり。

侯爵 山内 豊 景君(火)	子爵 立見 豊 丸君(研)
男爵 鍋島 直 明君(公)	男爵 有地藤三郎君(公)
中村純九郎君(交)	田所美治君(和)

松本 學君(研)	三木與吉郎君(研)
平沼 亮 三君(成)	

本委員は三月六日立見子爵を委員長に、田所美治君を副委員長に擧げ、委員會を開くこと二回にして審査を終り、三月十一日委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。

三月十三日の本會議に於て、立見委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き大要左の如く報告せり。

委員會の經過並に結果を報告すべし。本改正案の主要なる點次の如し。(前掲陸軍大臣の提案理由の説明参照)委員會に於ては陸軍、海軍、文部及法制局の各政府委員に對して質疑を爲せり。其主なるものを擧ぐれば左の如し。(問)青年學校とは如何なるものなりや。(答)青年學校は男女青年に對して其心身を鍛鍊し、徳性を涵養せしむると共に、職業及實際生活に樞要なる知識技能を授け、以て國民たるの資格を向上せしむるを目的とし、普通科二年、本科五年の修業年限なり。尙ほ其他研究科及專修科を置くことを得。而して普通科は尋常小學校卒業生、本科は高等小學校卒業生を入學せしむるものとす。學科の配當は、男子に付て述べれば、本科の低學年に於ては毎年二百十時を下らざる時間を之に費し、修身、公民科及普通學科に約三分の一、職業科に約三分の一、教練科に約三分の一の時間を充當す。高學年は一年百八十時間にして、修身及公民科並に教練科に約半を、普通學科及職業科に約半の時間を充當するものなり。(問)青年學校令の公布の時期如何。(答)本令は既に御裁可を得、本法律案

の成立と同時に公布し得るやう準備を了せり。(問)條例中の「修得の程度」の意義を明かにされたし。(答)從來青年訓練所は毎年二百時間(四箇年に八百時間)を費し、教練と他の學科とにそれぞれ折半したるも、今回の改正に於ては青年學校を卒業せざるも、教練及其他の時間各三百五十時間、合計七百時間を修得すれば、本法の特典を受け得るの程度と認むるなり。(問)青年學校卒業者と前問の最下限の間を修得すれば、本法の特典を受け得るの程度と認むるの必要なきや。(答)差別を設くるは、取扱上複雑を來し實行不可能なり。但し之を歸休詮衡の資料と爲すことを得べし。(問)義務教育とするの意思なきや。(答)入學し得ざる多數の青年もあり、又費用の點に於ても困難を伴ふを以て、目下其意思なきも、低學年の若干年内を義務教育とすることに付ては研究中なり。(問)青年學校令は外地にも適用さるべきや。(答)朝鮮或は臺灣等に於ては、青年訓練所、若くは實業補習學校に入所又は入學する生徒の素質に格段の差異あるを以て、之を合併教育とするは甚だ不便なり。故に外地の教育令を改正して從來通りとなすも、青年訓練所卒業生は兵役年限短縮の特典を受くることを得。(問)臺灣に付ては今回自治擴張の企あるも、其前に之に兵役法を施行する意思なきや。(答)目下其意思なし(最後の問答は懇談會に於て爲されたり)。質疑を終りて討論採決の結果、異議なく本案を可決せり。委員長報告後、直に採決に移り、異議なく本案を可決せり。

第五節 第五部(農林、商工)關係法律案

第五部關係法律案中、議決せられたるものは左記三件(政府提出案)にして、何れも可決せられたるも、内一件即ち北洋漁業取締法案は衆議院に於て未決となりたり。(議決に至らざりしものには本章第八節参照)

一、北洋漁業取締法案(七一頁)

一、倉庫業法案(七五頁)

一、産業組合中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案(七八頁)

以上三案につき其議事の經過及結果を左に略述すべし。

第一 北洋漁業取締法案

本案は昭和十年二月二十六日政府より貴族院に提出せられたり。而して三月一日の本會議に上程せられ、山崎農林大臣は提案理由に付き大要左の如き説明を爲せり。

本案の提案理由を説明すべし。現在我が北洋漁業に於て重きを爲すものは、露領漁業及鮭鱒等の母船式漁業なり。露領漁業は我國が其漁業權を獲得せし以來、權益維持に關する官民不斷の努力に依り、今日の状況を呈するに至りしものなり。又母船式漁業は近來發展せる漁業にして、露領漁業と相俟ち、北洋に於ける我が漁業の開發上重要なる地位に在るものなり。然るに是等漁業の從來の經過を見る

に、關係漁業の間に動もすれば統制を缺くの結果、或は對外的行動に一致を缺き、或は資源の永續性を害し、又或は販賣輸出上に不利を招く等、内外兩方面に亘り權益の維持發展上、遺憾の點少からざるものあり。政府は先年來此弊を矯正せむが爲に、關係業者を指導誘掖し、企業合同の機運を促進するに努めたりしも、是等の漁業及漁業者間の統制監督に關し其準據すべき法規の不備なるが爲に、各般の禍因を除去するに付て困難なる事情ありたり。之が爲に北洋漁業の基礎に、動もすれば憂ふべき現象を避くることの不可能なりとするが如き嫌を免れざるものあり。之を以て政府は本案に依り、北洋漁業の主力的經營主體たる株式會社をして政府の特別なる監督の下に立たしめ、本漁業の特殊性に基き、國家的立場に於て事業を運營せしめ、北洋漁業の基礎を鞏固にし其維持發展を圖らむとせし次第なり。審議の上協賛あらんことを望む。

次で本案は左記九名の特別委員に付託せられたり。

侯爵 徳川 義親君(火)	伯爵 有馬 頼寧君(研)
子爵 保科 正昭君(研)	犬塚 勝太郎君(交)
男爵 赤松 範一君(公)	男爵 三須 精一君(公)
宮田 光雄君(研)	次田 大三郎君(成)
松本 勝太郎君(和)	

本委員は三月二日有馬伯爵を委員長に、赤松男爵を副委員長に擧げ、委員會を開くこと六回にして審査

を終り、三月十三日委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。

三月十五日の本會議に於て、有馬委員長は委員會に於ける審査の經過及結果を報告せり。其要旨左の如し。北洋漁業取締法案特別委員會の經過並に結果を報告すべし。本案の大體の要旨は次の如し(前掲農林大臣の提案理由の説明参照)。委員會に於ける質疑及答辯の中、主なるもの左の如し。(問)本法に依り特別監督を受くべきものの範圍如何。(答)條約とは日「ソ」間の漁業條約の謂にして、母船式漁業に付ては本法施行の當初としては、母船式鮭鱈漁業を指定する方針なり。株式會社の指定に付ては、條約に基く漁業を營むものとしては日魯漁業株式會社を、又母船式鮭鱈漁業を營むものとしては、大太平洋漁業株式會社をそれぞれ指定する方針なり。(問)母船式蟹漁業に付ては如何。(答)本漁業は其性質上之を本法より除外するものにあらざるも、其現狀は鮭鱈漁業の場合と事情を異にするものあるを以て、現狀にして著しき變化なき限り、政府は第一條の母船式漁業に指定する意嚮なし。(問)北洋に於ける我が漁業權益の維持開發の爲に、半官半民の一大會社と爲すの意思なきや。(答)現在の主力的經營主體たる會社をして、本法に依る特別監督の下に事業を經營せしめ、十分其實績を擧げしむるを以て、此際最も適當なる方策なりと認む。(問)監督の權限廣きに過ぐるが爲に、事業者に迷惑を及ぼすことなきや。(答)會社を保護監督し、以て國家的立場に於て事業を運營せしむるの根本方針に立脚して各種の監督を行ふものなるが故に、質問の如き懸念なし。(問)本法に依り特別の監督を受くる會社の外將來之と同一漁業を營む他の企業の出現を認むる方針なりや。(答)露領漁業、母船式鮭鱈漁業の大合

同を遂行せる從來の經過に鑑み、今後同漁業の活動範圍たる地域に於ては、同種漁業者の新なる出現に依り、再び從來の如き經過を繰返すことなからしめむとするは、從來の合同方針及本法の精神に照して自ら明かなりと考ふ。(問)本年、本法律案を制定するを必要となす理由如何。(答)之に對し農林、外務兩大臣は北洋漁業に關する内外の特殊的諸狀勢其他に鑑み、其主力的經營主體に對する國家の特別なる監督制度の完備を圖る必要ありと答辯せり。其他、北洋漁業に於ける三大漁業の合同の今日迄の沿革及經過、北洋漁業の範圍、法文上の重要財産の種類、露領漁業に於ける蕃殖保護に關する從來の施設及將來の方針、並に北洋漁業の維持開發又は統制の爲に發する施設命令の範圍等の諸點に付て、質疑應答を重ねたり。

續いて討論に入りたるに、一委員より露領漁業は「ポーツマス」條約に依りて得たる所の重要な國家的權益なるが故に、之に依つて生ずる利益を一會社が壟斷するは面白からず。故に本法第四條の規定を修正し、會社に利益ありし場合には其利益の一部を國家に納付せしめ、以て之を一般國民に均霑せしむるが爲に、納付金制度を設くべしとする修正意見出でたり。然るに之に對し他の委員より、右修正意見の趣旨には同感なるも、納付金制度は會社の不合理なる利益計算よりして、納付金の皆無となりて其實行を期し難き虞あり、又政府の施設命令と納付金制度との併用は、會社の負擔をして、過分に重からしむるの結果を生ずる場合あるを以て考慮を要すべし。又納付金制度は會社の獨占的地位と相俟つべきものなるが故に、此際は右納付金制度を會社の獨占的地位の保障の趣旨と共に取入れ、

左記希望決議を附して原案に賛成すとの意見を提出せり。採決の結果、修正意見は少數を以て否決せられ、結局多數を以て希望意見を附して原案を可決せり。

北洋漁業ハ内外ノ特殊的諸狀勢ニ鑑ミ其ノ權益ノ維持進展上主トシテ現在ノ主力的經營主體タル會社ヲシテ國家的見地ニ基キ其ノ經營ニ當ラシメ政府ハ之ニ對シ特殊ナル監督ヲ加フルト共ニ其獨占的地位ニ付テハ充分之ヲ尊重シ以テ斯業ノ健全ナル發達ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ又一面露領漁業ハ「ポーツマス」條約ニ依リ我國ノ得タル重要ナル權益ナルヲ以テ之ニ依リテ生スル利益ハ一般國民ニ之ヲ及ホスヘキモノナリ仍テ政府ハ此ノ趣旨ニ基キ本制度ノ運用ヲ爲スト共ニ將來其ノ成績ニ微シシ納付金制度ニ付考慮スル等適當ナル處置ヲ講セラレンコトヲ希望ス

委員長報告後、直に討論に移り、次田大三郎君(成)は北洋漁業に關する權益獲得の沿革、國家が之に對して與ふる保護及其獨占的地位、並に本制度が國民思想上に及ぼすべき影響等に鑑み、政治的良心の最小限度の要求たる納付金制度の制定を政府に希望して、原案に賛成する旨を述べ、男爵岩倉道俱君(公)は、本法案は北洋漁業の沿革及現狀に照し當を得たるものなりとして、賛成意見を述べたり。引續き採決に移り、異議なく委員長報告通り可決せられたり。而して本案は衆議院に送付せられたるも、衆議院に於ては未決に終りたり。

第二 倉庫業法案

本案は昭和十年三月十九日衆議院を通過(修正議決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して翌二十日



の本會議に上程せられ、勝商工政務次官は提案理由に付き大要左の如き説明を爲せり。

倉庫業法案提案の理由を説明すべし。倉庫業は貨物の大量保管を職能とするものにして、保険業銀行業と同じく社會公共に對し、重大なる利害關係を有するものなり。殊に倉庫證券を發行する場合に於ては、商品の賣買並に商品擔保の金融上重要な機能を營むものにして、其經營の良否、設備の完否等は國民經濟の發展に至大なる影響を及ぼすものなり。然るに從來我國に於ては、倉庫業の監督取締に關する法規は完備することなく、之が爲に保管設備又は經營方法等に付て、遺憾の點少からざるものあり。其結果倉庫業並に倉庫證券の信用を薄弱ならしめ、商品の賣買、商品を擔保とする金融の圓滑を期し、倉庫業の機能を完全に發揮せしむる上に於て、支障なきを期し難き情況に在り。仍て茲に倉庫業の監督取締の法規を制定して、資力、信用の薄弱又は設備の不完全なる業者の倉庫證券發行を取締ると共に、其事業經營に付き適當なる監督を行ひ、以て倉庫業の健全なる發達を助成するの趣旨に基き、本案を提出せる次第なり。尙ほ衆議院に於て、本法案の一部に修正ありたれ共、本法案提出の根本趣旨に牴觸せず、又運用上に於ても、別段支障なしと認めたるが故に、政府は右修正に對して同意を爲せるものなり。慎重審議の上協賛あらむことを切望す。

次で伯爵有馬賴寧君(研)は、本案に對する衆議院の附滯決議の第三に付き政府の所見を質したるに、勝商工政務次官は、決議第三の趣旨は、農業倉庫業及産業組合附屬の倉庫が農業倉庫法又は産業組合法の規定の範圍を逸脱して、營業倉庫を壓迫するが如き行爲は取締るべきものとするの趣旨と解し、仍て農

林省と協議の上、右諸法の適切なる運用に依り極力妥當なる處置を講ずべしと答辯せり。而して本案は左記九名の特別委員に付託せられたり。

侯爵 井上三郎君(火)	子爵 植村家治君(研)
男爵 橋本正輝君(公)	男爵 杉溪山言君(公)
内藤久寛君(研)	中村圓一郎君(研)
門野幾之進君(和)	武井覺太郎君(成)
田中徳兵衛君(交)	

本委員は三月二十二日井上侯爵を委員長に、植村子爵を副委員長に挙げ、委員會を開くこと四回にして審査を終り、三月二十五日委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。

同日の本會議に於て、井上委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き大要左の如く報告せり。

委員會の經過並に結果を報告すべし。委員會に於ては農林、商工兩省との間に、大要次の如き質問應答ありたり。(問)第三條の事業計畫等を變更せむとする場合の規定に關し、衆議院は政府原案に於ける認可制を届出制に修正し、政府も亦之に同意せるも、其理由如何。(答)政府は認可制を適當なりと考ふるも、之を届出制と爲すも立法の根本趣旨に牴觸することなく、又法律の適正なる運用に依り、大體に於て原案の目的を達し得べしと考へたるが故なり。(問)届出制となす時は自由に變更するを得るを以て、政府が第九條の行政處分に依り取締を爲すまでの間に於て、不良の營業を爲すの虞ありと

思惟するも之が監督方法如何。(答)政府は命令を以て、豫め一定期間前に届出を爲さしむる考なれば、實際上變更する迄には、第九條に依る變更の禁止、又は再變更、其他必要なる命令を發することを得る故に差支を來すことなし。(問)衆議院の希望決議に關する政府の所見如何。(答)之に付ては有馬伯爵の質問に對する政府委員の答辯參照(七六頁)。(問)營業倉庫は、各種の保護を受くる農業倉庫に依り、不當に壓迫せらるることなきや。(答)農業倉庫及び營業倉庫は、それぞれ異りたる使命と分野とに關するものなるを以て、其懸念なし。續いて討論に入り、一委員より國家的見地に基く倉庫業の統制及其發達の爲に、大倉庫業法の制定に關する意見あり、又希望決議を附して原案に賛成すとの意見出で、採決の結果、左記希望決議を附して原案を可決せり。

商業倉庫ト農業倉庫トハ各々其機能ヲ發揮セシメ相扶ケ相俟ツテ都市及農村ノ經濟發達ニ寄與セシムル様商工、農林兩省ニ於テ適切ナル指導監督ニ努メラレントヲ望ム

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく委員長報告通り、本案を可決せり。

第三 産業組合中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案

本案は昭和十年三月十九日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して翌二十日の本會議に上程せられ、守屋農林政務次官は提案理由に付き、大要左の如き説明を爲せり。

本案提出の理由を説明すべし。本法は昭和七年十月一日施行以來、相當の成績を挙げ居るものなるも、其融通期間は本年の九月末を以て終了するものと定められたり。然るに産業組合の現狀に鑑みる

に、尙ほ融通期間を繼續し、組合金融の疏通に資するを以て、本制度の趣旨を達成する上に於て最も適當なる措置と考へらるるなり。依て組合金融の現況、其整理期間等を考慮し、特別融通期間を尙更に三箇年延長せむと欲するなり。審議の上、協賛あらむことを切望する次第なり。

次で本案は左記九名の特別委員に付託せられたり。

公爵 島津忠承君(火)	子爵 伊集院兼知君(研)
子爵 米倉昌達君(研)	男爵 足立豊君(公)
男爵 園田武彦君(公)	室田義文君(交)
辭任 稻畑勝太郎君(和)	鈴木幸作君(研)
補闕 小林嘉平治君(和)	大和田健三郎君(成)

本委員は三月二十二日伊集院子爵を委員長に、足立男爵を副委員長に擧げ、委員會を開くこと二回にして審査を終り、三月二十三日委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。

翌二十四日の本會議に於て、伊集院委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き報告を爲せり。其要旨左の如し。

本委員會の經過並に結果を報告すべし。本案は第二條の三年の期限を六年と改め、更に三年間融通期間を延長せむとする趣旨なり。元來損失補償に付ては一億圓の資金を以て融通することとなせるも、實際の融通金額は三千七百萬圓に過ぎず、又昨年は各種の災害相踵ぎて起り、農民は非常に困窮し、

更に又産業組合の現状に鑑み、融通期間を延長し以て本制度の趣旨を達成せむとするものなりとす。質問應答の詳細は之を速記録に譲るも、當局の答辯中に、他の金利との釣合を考へて今後利子の引下を考慮する旨の答辯ありたるを附言す。討論採決の結果、全會一致を以て本案を可決せり。委員長報告後、直に採決に移り、異議なく本案を可決せり。

第六節 第六部(遞信、鐵道)關係法律案

備考 遞信省關係法律案を缺く

第六部關係法律案中、議決せられたるものは左記二件(政府提出案)にして、何れも可決せられたり。

一、札幌軌道株式會社及矢作水力株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

一、宮崎縣營鐵道及軌道並ニ大隅鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

第一 札幌軌道株式會社及矢作水力株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル

補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

第二 宮崎縣營鐵道及軌道並ニ大隅鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發

行ニ關スル法律案

右二案は昭和十年三月十四日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して翌十五日の本會議に上程せられ、内田鐵道大臣は提案理由に付き大要左の如き説明を爲せり。

兩案の提案理由を説明すべし。今回提出せる事項は、軌道の營業廢止補償と、地方鐵道及軌道の買收の爲公債發行に關するものなり。先づ軌道の營業廢止補償に付て述べれば、補償せむとする軌道は北海道に於ける札幌軌道及岐阜縣に於ける矢作水力株式會社經營の軌道なり。是等は何れも是と接近併行して、國有鐵道を敷設せる結果、其影響を受け營業を繼續するを得ざるに至れるを以て、今回其營業廢止に依りて生ずる損失を補償せむとする次第なり。次は地方鐵道及軌道の買收に關するものなるも、買收せむとする鐵道及軌道は、宮崎縣に於ける宮崎縣營鐵道及軌道並に鹿兒島縣に於ける大隅鐵道なり。是等は何れも建設工事の進捗上買收を必要とするものなり。協賛を與へられむことを希望す。次で兩案に特別委員に付託せられたり。而して何れも重要法案なるが故に、委員の數は特に左記十五名と爲せり。

- | | |
|------------------|----------------|
| 公爵 鷹 司 信 輔君(火) | 公爵 岩 倉 具 榮君(火) |
| 伯爵 川 村 鐵 太郎君(研) | 男爵 大 井 成 元君(公) |
| 子爵 井 上 匡 四 郎君(研) | 子爵 秋 元 春 朝君(研) |
| 子爵 鍋 島 直 繩君(研) | 大 島 健 一君(和) |
| 男爵 中 村 謙 一君(公) | 男爵 大 藏 公 望君(公) |

青木 周 三君(成)

堀 啓次郎君(研)

三 橋 彌君(交)

風間 八左衛門君(研)

青木才次郎君(交)

本委員は三月十八日井上子爵を委員長に、大藏男爵を副委員長に擧げ、委員會を開くこと二回にして審査を終り、三月二十日委員長より兩案可決報告書を議長に提出せり。

三月二十二日の本會議に於て、井上委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き報告を爲せり。其要旨左の如し。

兩法案の内容を説明すべし(是は前掲鐵道大臣の提案理由の説明を更に詳細に敷衍せしものなるも、茲には紙數の關係上其記載を省略す)。

討論に入り質問應答の際に政府の言明せられたる左の諸點に付き、重ねて之に對する委員の希望的意見の陳述ありたり。即ち一、買收後、會社線が省線に變更せらるる場合に於て、成るべく從來の交通關係、特に停車場の位置及數等を變更せず、而して地方民の不便を來さざるやう、二、地方鐵道の現在の従業員を能ふ限り國有鐵道に採用し、失業者を出さざるやう、及び三、殘存物件の評価等に付ても、苛酷に過ぐるることなきやう善處せられむことを希望すと陳述せり。

採決の結果、全會一致を以て兩案を可決せり。

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく兩案を可決せり。

第七節 第七部(内閣、拓務)關係法律案

備考 内閣關係法律案を缺く

第七部關係法律案中、議決せられたるものは左記二件(政府提出案)にして、何れも可決せられたり。(議決に至らざりしものに付ては本章第八節參照)

一、朝鮮事業公債法中改正法律案

一、南朝鮮鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

右二案に付き議事の經過及結果に付き略述すべし。

第一 朝鮮事業公債法中改正法律案

本案は昭和十年三月十六日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して三月十八日の本會議に上程せられ、兒玉拓務大臣は提案理由に付き説明を爲せり。其要旨次の如し。

本案提出の理由を説明すべし。朝鮮總督府特別會計に於て、昭和十年度以降五箇年繼續事業として、鐵道の建設及改良の追加工事を施行するの豫定なるを以て、之に要する經費總額九百五十萬圓を朝鮮事業公債法に追加し、而して其總額を六億千五百八十萬圓に増額せむとする爲に、本法律案を提出せる次第なり。

次で本案は左記九名の特別委員に付託せられたり。

- | | |
|----------------|----------------|
| 候爵 小村 捷 治君(火) | 伯爵 柳 原 義 光君(研) |
| 子爵 戶 澤 正 己君(研) | 男爵 岩 村 一 木君(公) |
| 板 谷 宮 吉君(研) | 江 口 定 條君(和) |
| 久 恒 貞 雄君(交) | 油 井 德 藏君(成) |
| 大 谷 尊 由君(研) | |

本委員は三月十九日小村候爵を委員長に、戸澤子爵を副委員長に挙げ、引續き會議を開きて審査を終了し、同日委員長より本案可決報告書を議長に提出せり。

而して三月二十二日の本會議に於て、小村委員長は議事の經過及結果に伴き大要左の如き報告を爲せり。

委員會の經過並に結果を報告すべし。本改正案の目的は次の如し(前掲拓務大臣の提案理由の説明參照)。

改正の理由とするところは、輒近滿洲國と朝鮮との間の鐵道運輸數量噸に増加を來し、之に應ずる爲に釜山、新義州間の幹線並に東北圖們線に改良を加へ、以て輸送能力及速力の増進を圖り、又平壤の北方順川を基點とする日滿連絡の第二鐵路たる滿浦鎮の鴨綠江架橋並に附近一部の路線建設に増加公債を充當するものなり。委員と政府との間に、主に技術的方面に關する質問應答あり、又此朝鮮事業法の適用範圍を今回鐵道以外の諸事業に及ばざる理由如何との質問に對しては、募債關係に付て大藏省の承認を得る上に困難ありしを以て、取敢ず緊急を要する鐵道事業に局限し、他は將來に期する旨

の答辯ありたり。採決の結果、全會一致を以て原案を可決せり。

委員長報告後、直に採決に移り、異議なく本案を可決せり。

第二 南朝鮮鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

本案は三月二十四日衆議院を通過(可決)し、即日貴族院に送付せられたり。而して同日の本會議に上程せられ、兒玉拓務大臣は提案理由に付き大要左の如き説明を爲せり。

本案提出の理由を説明すべし。本案買收豫定の鐵道は朝鮮國有鐵道光州驛より南下し、麗水に至る迄百哩の鐵道なり。朝鮮國有鐵道慶北北部線の建設計畫の進捗に伴ひ、南部朝鮮に於ける國有鐵道の運輸系統を整備するの必要あるを以て、本鐵道を買收せむとするものなり。仍て之が買收代金として交付すべき公債を發行する必要があるが故に、本案を提出せる次第なり。

次で本案は左記九名の特別委員に付託せられたり。

- | | |
|------------------|----------------|
| 公爵 鷹 司 信 輔君(火) | 子爵 秋 田 重 季君(研) |
| 子爵 梅 園 篤 彦君(研) | 岡 喜 七 郎君(交) |
| 男爵 北 大 路 實 信君(公) | 小 坂 順 造君(成) |
| 今 井 五 介君(研) | 各 務 鎌 吉君(和) |
| 上 郎 清 助君(研) | |

本委員は即日鷹司公爵を委員長に、秋田子爵を副委員長に挙げ、引續き會議を開きて審査を終り、委員

長より本案可決報告書を議長に提出せり。
三月二十五日の本會議に於て、鷹司委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き大要左の如き報告を爲せり。

本案の買收豫定鐵道は、朝鮮國有鐵道光州驛より麗水に至る延長約百六十「キロメートル」の廣軌鐵道なり。買收の理由は、一、麗水、下關間には定期連絡船あり、依て本線は重要線なること、二、水害等の場合に京釜線の豫備線として重大なる使命を有するものなるが故に統一經營の必要あること、三、國鐵慶全北部線及晋州方面に於ける國鐵豫定線との運輸系絡上並に建設工事進捗上に便宜あること、及び四、本鐵道は現在朝鮮私設鐵道補助法に依り補助を受けつつあるも、之を買收せむには、公債の利子額と補助金額とを比較し年額約三十萬圓の利益を政府に齎すものなること等に在り。買收價格は朝鮮私設鐵道の特殊性に鑑み、買收の時に於ける建設費を時價に依り國債券面金額に換算せる金額を以て算定するなり。公債の發行所要額は、四分利公債約千二百二十五萬圓の豫定なり。委員會に於ては慎重審議の上、原案通り可決せられたり。委員長報告後、直に採決に移り、異議なく本案を可決せり。

第八節 議決に至らざりし法律案

第六十七議會に提出せられたる法律案中、貴族院に於て議決に至らざりしものは二十四件（政府提出案

三件、衆議院提出案二十一件）なり。

第一部（大藏）關係法律案

第一部大藏關係法律案は左記三件（衆議院提出案）なり。

- 一、家祿賞典祿給與未済ニ關スル法律案（八七頁）
- 一、郷又ハ町村祿高ニ對シ公債證書給與ニ關スル法律案（八七頁）
- 一、地租法中改正法律案（九〇頁）

右三案に付き左に其の議事の經過を略述すべし。

第一 家祿賞典祿給與未済ニ關スル法律案

第二 郷又ハ町村祿高ニ對シ公債證書給與ニ關スル法律案

右二案は昭和十年二月二十三日衆議院より貴族院に提出せられたり。而して三月一日の本會議に上程せられ、高橋大藏大臣は兩案に對する政府の意見を陳述せり。其要旨次の如し。

右二案に對する政府の意見を陳述すべし。本法律案と同様の法律案が、既に數回議會に提出せられたりしも、政府として其都度之に同意し得ざる旨を表示せり。今日に於ても、政府は依然として之に同意するを得ざるものなり。其理由の大要を茲に説明すべし。

先づ家祿賞典祿給與未済ニ關スル法律案に對する反對理由としては、抑々明治九年の所謂金祿公債處分なるものは、將來の毎年の給與を廢することを前提とし、其救濟方法として、各人の祿高を基

とし、一定額の公債を一時に給與したるなり。而して明治三十年の家祿賞典祿處分法は、金祿公債處分に依りて支給したる公債の元本金額に付て不足あるものに對し、其不足分を追給する趣旨の法律にして、毎年の給與の不足分に對する追給の法律には非ざるなり。故に本法律案提出の根本理由たる點、即ち金祿公債處分以後の毎年の給與不足は、明治三十年の法律に依り追給されたれども、明治三年乃至九年の毎年の給與不足は未だ追給されざるを以て、此分に對しても追給を爲すべしとの主張は之を承認する能はざるなり。又秩祿處分問題に關する從來の沿革に徴するも、大正八年法律第三十四號の制定に當り、秩祿處分に關する救済は之を以て最後と爲す旨の聲明が議會に於て爲されたる次第にして、今日更に此問題を取上ぐるは妥當ならずと思惟す。又本法律案に依りて救済せむとする明治初年の祿の給與不足に對する請求權の如きは、性質上俸給權類似のものにして、從て國家に對する他の一般債權と性質上何等異なる所なきなり。斯の如き普通の債權を六十數年後の今日、之が復活を認むるに至らば、是と類似のものにして權衡上認めざるを得ざるもの續出すべく、斯くては法律上時効の制度を設けたる精神を全く没却するの結果を生ずべし。尙ほ之を救済問題として考ふるも、當時の關係者は若干給與に不足ありとするも、兎に角之に依りて生計を立て來りしものにして、其家名承繼人が六十數年後の今日に於て、必しも之が爲め窮狀にあるものとも認め難く、從て救済問題として取扱ふことも不合理なりと考ふるなり。更に事務處理上の關係より見るも、六十數年前の古き事項にして、且つ大正十二年の大震災に依り大部分の重要資料を滅失せる關係上、其調査は頗る困難の業にし

て、從て法律成立するも公平に之を施行するを得ざるの結果を見るに非ずやと憂慮せらるるなり。次に郷又八町村祿高二對シ公債證書給與ニ關スル法律案に對する反對理由は、大體に於て家祿に關する法律案と共通の點多きも、特に本法律案の目的とする鹿兒島藩の協力高に付ては、大正十一年行政裁判所の確定判決に依り届出洩のもの無き旨既に判示されたり。從て若し此法律案に依り、此事件を再び取上ぐるに至らば、行政裁判所の確定判決に對し再審理の途を開くに至るべく、斯の如きは今日の行政裁判法の趣旨に考へ適當ならざるものと思惟す。以上の理由に依り、政府は兩法律案に對し同意するを得ざる次第なり。

次で右二案は造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案特別委員(一七頁參照)に併せ付託せられたり。

委員會に於ては矢吹大藏政務次官は重ねて兩案に對する政府の反對意見を陳述し、更に三月十五日の委員會に於ては高橋大藏大臣は自ら進みて出席し、再度之に反對するの理由を次の如く強調したり。即ち「兩案に對する政府の所見は本會議に於て陳述せし所なるも、更に此機會に於て之を明確にすべし。本法律案と同様の法律案が既に數回衆議院を通過して貴族院に回付せられ、殊に昨年第六十五議會に於ける貴族院の兩法案關係委員會に於ては、委員中より政府は誠意を以て速に此兩法案に對し適切なる對策を講せられむことを望むとの趣旨の熱心なる希望のありたることは、政府に於ても委細承知する次第なり。從て政府當局としては、右委員會に於て表示されたる希望に付き十分なる敬意を拂ひ、從來の行

掛り等は一切之を棄て、白紙の状態に於て慎重に本問題を再検討したる次第なり。然るに其結果は、考究すれば考究するに従ひ益々兩法律案の不合理なること判明し、若し假に斯の如き法律案にして通過するに至らば、後述の如く今日行はるる所の法制の原則を破り、國政運用上容易ならざる悪影響の存するを確めたるが故に、誠に遺憾の次第なるも政府としては兩法案に對し明確に反對の意思を表明せざるを得ざるものなり。……と冒頭に述べ、更に一、法案提出の根本的理由に誤謬あり、二、時効制度の精神に反す、三、行政裁判所の確定判決に對し再審理の途を開くの不合理を生ず等の反對理由を述べ（詳細は本會議に於て爲せる反對意見並に委員會速記録を参照されし）、政府ととしては遺憾ながら兩法案に同意し得ざる旨を強調する所ありたり。

而して委員會に於ては或は懇談會を開きて兩案の審議を竭す等、其審査に當りしも、未だ審査を終るに至らずして議會の會期終了せり。

第三 地租法中改正法律案

本案は昭和十年三月二十三日衆議院より貴族院に提出せられたり。而して同月二十五日の本會議に上程せられ、直に酒造組合法中改正法律案外二件の特別委員（二〇頁参照）に併せ付託せられたり。而して未だ本案の審査を終るに至らずして議會の會期終了せり。

第二部（外務、司法）關係法律案

第二部關係法律案は左記十件（衆議院提出案）なり。

- 一、刑法中改正法律案（九一頁）
 - 一、借地借家調停法中改正法律案（九一頁）
 - 一、刑事判決宣告猶豫ニ關スル法律案（九二頁）
 - 一、小作調停法中改正法律案（九二頁）
 - 一、司法保護法案（九二頁）
 - 一、刑事訴訟法中改正法律案（衆第十九號）（九二頁）
 - 一、舊獨逸膠州租借地還付ニ關スル條約實施ニ伴フ損失ノ補償ニ關スル法律案（九三頁）
 - 一、民事訴訟法中改正法律案（九三頁）
 - 一、公證人法中改正法律案（九三頁）
 - 一、昭和八年法律第五十三號辯護士法中改正法律案（九三頁）
- 以上十案に付き左に其議事の經過を略述すべし。

第一 刑法中改正法律案

第二 借地借家調停法中改正法律案

右二案は昭和十年二月二十一日衆議院より貴族院に提出せられたり。而して同月二十五日の本會議に上程せられ、直に左記九名の特別委員に付託せられたり。

公爵 山縣 有道君（火）

子爵 濱尾 四郎君（研）

木場 貞 長君(研)	仁井田 益太郎君(和)
男爵 本多 政 樹君(公)	男爵 徳川 喜 翰君(公)
山 隈 康君(研)	金岡 又左衛門君(成)
大西 虎之助君(交)	

本委員は三月一日木場貞長君を委員長に、徳川男爵を副委員長に擧げ、兩案の審議を爲したるも、未だ審査を終るに至らずして議會の會期終了せり。

第三 刑事判決宣告猶豫ニ關スル法律案

第四 小作調停法中改正法律案

右二案は昭和十年三月二日衆議院より貴族院に提出せられたり。而して三月十一日の本會議に上程せられ、直に刑法中改正法律案外一件の特別委員(九一頁参照)に併せ付託せられたるも、未だ兩案の審査を終るに至らずして議會の會期終了せり。

第五 司法保護法案

本案は昭和十年三月十四日衆議院より貴族院に提出せられたり。而して翌十五日の本會議に上程せられ、直に刑法中改正法律案外三件の特別委員(九一頁参照)に併せ付託せられたるも、未だ其審査を終るに至らずして議會の會期終了せり。

第六 刑事訴訟法中改正法律案(衆第十九號)

第七 舊獨逸膠州租借地還付ニ關スル條約實施ニ伴フ損失ノ補償ニ關スル法律案

右二案は昭和十年三月十九日衆議院より貴族院に提出せられたり。而して翌二十日の本會議に上程せられ、直に刑法中改正法律案外四件の特別委員(九一頁参照)に併せ付託せられたるも、未だ兩案の審査を終るに至らずして議會の會期終了せり。

第八 民事訴訟法中改正法律案

第九 公證人法中改正法律案

第十 昭和八年法律第五十三號辯護士法中改正法律案

右三案は昭和十年三月二十五日衆議院より遺族院に提出せられたり。而して未だ本會議に上程せらるるに至らずして議會の會期終了せり。

第三部 (内務、文部) 關係法律案

第三部關係法律案は左記六件(内務關係法律案)なり。

- 一、大正九年法律第五十六號中改正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)(九四頁)
- 一、衛生組合法案(九四頁)
- 一、傳染病豫防法中改正法律案(九四頁)
- 一、産師法案(九四頁)

- 一、行政執行法中改正法律案（九四頁）
- 一、臨時地方財政補整金法案（九五頁）

以上六案に付き左に其議事の經過を略述すべし。

第一 大正九年法律第五十六號中改正法律案

本案は昭和十年三月二日衆議院より貴族院に提出せられたり。而して同月十一日の本會議に上程せられ、直に酒造組合法中改正法律案特別委員（二〇頁參照）に併せ付託せられたるも、未だ其審査を終るに至らずして議會の會期終了せり。

第二 衛生組合法案

第三 傳染病豫防法中改正法律案

第四 産師法案

右三案は昭和十年三月二日衆議院より貴族院に提出せられたり。而して同月十一日の本會議に上程せられ、直に労働者災害扶助法中改正法律案外二件の特別委員（五七頁參照）に併せ付託せられたるも、未だ右三案の審査を終るに至らずして議會の會期終了せり。

第五 行政執行法中改正法律案

本案は昭和十年三月十四日衆議院より貴族院に提出せられたり。而して翌十五日の本會議に上程せられ、直に労働者災害扶助法中改正法律案外三件の特別委員（五七頁參照）に併せ付託せられたるも未だ其

審査を終るに至らずして議會の會期終了せり。

第六 臨時地方財政補整金法案

本案は昭和十年三月十四日衆議院より貴族院に提出せられたり。而して同月二十日の本會議に上程せられ、直に特別委員に付託せられたり。而して本案は重要法案なるを以て、委員の數は特に左記十八名と爲せり。

- | | |
|----------------|----------------|
| 公爵 一條 實 孝君(火) | 侯爵 大久保利 武君(研) |
| 侯爵 大隈 信 常君(火) | 子爵 梅小路 定行君(研) |
| 子爵 野村 益 三君(研) | 子爵 立見 豊 丸君(研) |
| 内田 重 成君(交) | 太田 政 弘君(研) |
| 塚本 清 治君(成) | 男爵 岩 倉 道 俱君(公) |
| 男爵 周 布 兼 道君(公) | 男爵 長 基 連君(公) |
| 岡田 文 次君(和) | 赤 池 濃君(和) |
| 橋本 辰二郎君(研) | 金子 元三郎君(研) |
| 宇野 勇 作君(交) | 大谷 尊 由君(研) |

本委員は三月二十二日一條公爵を委員長に、野村子爵を副委員長に擧げ、委員會を開くこと三回に及び、慎重審議本案の審査を遂げたるも、其審査を終るに至らずして議會の會期終了せり。然れども本案

は重要法案にして且つ年来懸案たりしものなれば、政府當局の本案に對する所見を徴するの一端に資せむが爲に、特に委員會に於て陳述せる政府の意見及び之に對する委員會に於ける質問應答の要旨を左に適示せむとす。

後藤内務大臣は委員會に於て本案に對する政府の所見に付き大要左の如く陳述せり。

現今地方財政の窮迫せる情況を見、之が匡救の途を樹立せざるべからざるは、政府に於ても痛感する所なり。故に本案の趣旨の如きも、其匡救方法の一として考究せらるべきものとすることに於ては、政府も之を諒とす。然れども其匡救の爲には更に地方財政窮迫の原因を探究し、之が除去を期せざるべからざる所にして、例へば、累積せる地方債を整理して其重壓より免れしむること、地方團體の擔任する事務の内容に従ひ地方費及國費の分擔を整理調整すること、地方財政自身の經理、運営に付ての整理整頓、及び之と關聯し、地方税制と中央税制との關係に於ける修正を施す等の方途を講せざるべからざるものなりと考ふ。而して臨時地方財政補整金制度の如きも、以上の諸點と併せ考究せらるべきものにして、特に地方團體相互の間に於ける經濟力の不均衡に基く負擔力の不均等を是正し、以て其調節を圖らむとする本法案の趣旨は、十分考究を必要とするものなりと考ふ。然れども一面に於て、獨り此補整金制度のみを以てして、果して所期の効果を奏し得るや否やに付きては、尙ほ疑を懷かざるべからず。又一面に於ては本制度は臨時と言ふと雖も、地方財政の現状よりして必然的に恆久化するの性質を有するものと思考せらるるが故に、之に伴ひ恆久的の財源を必要とするものとも考ふるな

り。茲を以て本制度の如きは、國家財政の將來の計畫と併せ考へ、此財政上の計畫の十分に成立せし後に非ざれば、行ふを得ざるものと考へらるるなり。故に政府に於ては、本制度の樹立と關聯する各方面の事情をも併せ考へて十分検討せる上、結論に到達せむことを希望するものなり。又内閣審議會の設立せられたる曉には、之に地方財政の整理、改善に關する事項をも付議せむと考ふるものなり。

以上の如くにして、政府としては直に本案に賛成の意を表するを得ざる次第なり。

次に委員會に於ける質問應答の主なるものを擧ぐれば大要左の如し。

(問)内務省に於ては昭和七年以來本制度と同趣旨の法制を研究し、又大藏省とも交渉ありたりと承るも差支なき限り其説明を乞ふ。(答)政府部内に於ても地方財政の整理改善に關する研究は之を爲したるも、其内容を述べることを得ず。大藏當局と交渉せしは事實なり。(問)地方團體の固有事務及委任事務の經費の分擔に付き當局は如何に考ふるや。(答)委任事務と雖も一面是は地方團體の利益となるものなるが故に、必しも嚴格に之を國家の負擔とするは困難なりと考ふ。(問)地方團體の事務並に財政の整理の餘地ありと考へらるゝが如きも、夫は如何なるものに關するや。(答)其餘地は非常に少なしと考ふるも、尙ほ之を考究せむとす。(問)本案の財源は之を如何にするの考へなりや。(答)大藏大臣は之に付きて明確なる答辯は差控ふるも、地方財政の立直しは之を必要なりと痛感する旨及農村等の更生は先づ第一に地方民自身の精神的及經濟時の自力更生に俟たざるべからざるものとも考ふる旨を答辯せり。

第四部（陸軍、海軍）關係法律案

議決に至らざりし法律案中には第四部關係法律案を有せず。

第五部（農林、商工）關係法律案

第五部關係法律案は左記四件（政府提出案三件、衆議院提出案一件）なり。

- 一、米穀自治管理法案（九八頁）
- 一、米穀統制法中改正法律案（九八頁）
- 一、米穀共同貯藏助成法案（九八頁）
- 一、度量衡法中改正法律案（一〇四頁）

右四案に付き左に其議事の経過を略述すべし。

第一 米穀自治管理法案

第二 米穀統制法中改正法律案

第三 米穀共同貯藏助成法案

右三案は昭和十年三月二十四日衆議院を通過（米穀共同貯藏助成法案は可決、他の二案は修正議決）し、即日貴族院に送付せられたり。而して同日の本會議に上程せられ、山崎農林大臣は提案理由に付き大要左の如き説明を爲せり。

右米穀關係三案の提案理由を説明すべし。政府は昭和八年十一月より米穀統制法を施行し、米價の公

定並に季節的出廻り調節を根幹として米穀の統制を圖りつゝあり。更に昭和九年五月より臨時米穀移入調節法を施行し、兩者相俟ちて米穀政策を行ひ來りし次第なり。米穀統制法實施の経過及諸般の米穀事情並に財政上の影響等に鑑み、且又第六十五議會に於ける貴衆兩院の決議の趣旨を尊重し、更に米穀對策に付きて考究を遂げむが爲に、昨年九月米穀對策調査會を内閣に設置せり。而して臨時米穀移入調節法は本年三月三十一日を以て效力を失ふに至るを以て、調査會に於ても鋭意調査研究を進め、本年一月中旬米穀對策諸案を議決し、之が答申を爲せり。政府は此答申に基き右三案を立案、提出するに至りし次第なり。以下順次其概要を説明すべし。

先づ米穀自治管理法案は内地、朝鮮及臺灣を通ずる過剰米穀を統制せむが爲に、米穀の自治管理を行はしむるを以て目的と爲すものなり。即ち内地、外地一貫の方針を以て公平なる統制方を立つると共に、生産者等をして自治的に米穀の調節を圖らしめ、政府と民間と相協力して米穀統制の目的を達成せむとするものなり。而して本案は過剰米穀を統制する方法に依るものなり。

近來内地、朝鮮及臺灣を通じ、米穀の供給の増加、殊に朝鮮米及臺灣米の移入數量の増加に依りて、供給過剰の結果を招來し、一朝大豊作等に際會せむには米の非常なる供給過剰を生じ、米價を著しく低落せしむるに至ることあるを以て、過剰數量を生ずる場合には、米穀生産者の團體、米穀取扱業者の團體等に於て、自治的に右過剰米穀の管理を行はしむるものなり。其他一般販賣米の取引の自由に付ては制限を加へざるの趣旨なり。法案の内容は政府は毎年米穀年度の初期に於て、内地、朝鮮及臺灣の

全體を通じ、其米穀年度の需給推算を行ひ、而して需給推算の結果米穀の過剩數量を生ずる場合には、其數量の範圍に於て一定數量を定め、之を内地、朝鮮及臺灣に割當てて統制を爲さむとするものなり。而して右の一定數量の内地、朝鮮及臺灣に對する割當は、内地、朝鮮及臺灣の米穀管外移出數量の増加の趨勢の外に、米の管外移出數量、米穀收穫の豊凶等の關係をも參酌して定むることと爲せり。尤も其割當は諸般の關係より當分の間、法に明定するを適當なりと考へ、當分の内は内地百分の三十五、朝鮮百分の四十三、臺灣百分の二十三とし、唯内地、朝鮮及臺灣に於ける其時の豊凶等の關係に依り之を變更するの餘地を有することと爲せり。而して統制を行ふの機關としては、内地、朝鮮及臺灣に於ける市町村等の一定地區を區域として、米穀生産者、地主等を以て組織せる米穀統制組合を設立せしめ、更に此組合の相互の連絡を圖り、其機能を全からしめむが爲に、上級系統機關として聯合會の制度を設くることと爲せり。然れども内地に於ては、米穀販賣組合及其聯合會をして、此米穀統制組合及聯合會の業務を代行するを得るの途を設けたり。尙ほ米穀統制組合又は代行する販賣組合の存せざる市町村に於ては、農會も業務代行を爲し得るの途を開きたり。斯くして政府は内地朝鮮及臺灣に於ける上級系統機關に對し、一定數量の統制を命じ、其上級系統機關は其所屬團體に對して系統的に統制すべき數量の割當を行ふことと爲せり。而して米穀統制組合又は其業務を代行する團體に於ては、割當られたる數量の米穀を貯藏し、内地米の價格が相當に値上を來し、政府の解除の許可ある迄は其貯藏を繼續するものと爲したり。勿論、政府は其團體の貯藏能力其他の事情を參酌し、若し貯

藏の困難なりと認むる部分に付きては、希望に依り一定價格を以て買上ぐることと爲せしなり。以上の如く米穀生産者の團體をして自治的管理を行はしむるも、其後に於ける天候の如何等に依り實際の收穫高の増加を來せし場合には、更に米穀の供給過剩を生ずることあるを以て、斯の如き場合に關し、政府は更に二次的に米穀生産者の團體、米穀取扱業者の團體等に對して統制を命ずるを得るものと爲したり。本案は大要以上の如くにして、本案に依る統制は米穀の供給過剩の爲に生産者は勿論、米穀の取扱業者に於ても困難を感じる場合に行ふものなるを以て、是等に對し本案は相當の便益を與ふるものなりと考ふ。又米價が一定程度の値上を來せる場合に於ては、貯藏米穀は解除を受け市場に出廻り得ることとなるを以て、之に依り需給の關係圓滑となり、消費經濟にも好影響を及ぼすべしと思惟するものなり。尙ほ本案實施の場合には、相當供給過剩の年柄に於ても、政府は從來の如く大量の買上、買入を爲すことを防ぎ得るが故に、假令貯藏米に對し助成金を交付するものと爲すも、國庫の負擔は之に依りて相當に輕減せられ、米穀統制法の運用等に付きては好結果を齎すものと信ずる次第なり。

次に米穀統制法中改正法律案に付て説明すべし。本改正案は第一に出廻期に於て農家が米の賣急ぎを爲し、政府への賣渡申込が一時に殺倒する等の弊を防止せむが爲に、最低價格に金利及保管料を加算するものと爲せり。第二は非常災害等の場合に政府所有米を賣渡し、應急の措置を爲し得るの途を開きたり。第三は粟、高粱及黍と同様に米の代用食糧たる小麦及小麦粉に付きては、輸入の制限及輸入

税増減免除を爲し得るものと爲せり。

穀共同貯蔵助成法案は、穀の共同貯蔵に付きては既に昭和五年及同八年の大豊作に際し、之を奨励實行し、相當効果を收めたるを以て、今回、此穀の共同貯蔵の助成を恆久的施設として行はむとするものなり。即ち産業組合、農會等の團體が米の出廻數量の調節又は備荒貯蓄の目的を以て穀を貯蔵する場合に於ては、政府は此貯蔵團體に對し金利及保管料に相當する政府所有米穀を交付する方法を以て奨励を爲せり。仍て以て米穀統制法等に依る出廻調節と相俟ちて米穀の統制を圖らむとするものなり。

會期切迫せる際、審議の不便は恐縮に存するも、何卒協賛を賜らむことを切望す。

次で本案に對する質疑の通告あり、上山滿之進君(和)は(1)斯の如き大法案を會期切迫の際に提出せしは貴族院の審議權を輕視するものに非ざるか。(2)本案は第六十五議會に於ける貴族院の希望決議に添はざるものと思ふが、政府は果して本院の希望決議を如何に考ふるものなりや。(3)衆議院の修正に對する政府の所見及び其修正が豫算に及ぼす關係如何等の諸點に付きて質し、之に對し岡田内閣總理大臣は貴族院の審議權及其希望決議は之を尊重する旨を答辯し、山崎農林大臣は貴族院が衆議院の修正に同意せる場合には十分之を尊重する旨及修正に伴ひ追加豫算を更に追加するの必要な旨を答辯せり。(上山君は更に法案の内容に付きて詳細に亘る質問を爲せるも、紙數の關係上其記載を略す)。次に子爵大河内輝耕君(研)は、本案は曩の希望決議の趣旨に添ふものと謂ふを得ず、從て之に満足するを得ざる旨を述べ、

更に本案は外地米の保護となり却て内地米を壓迫するの結果を來す虞なきや、又外地米に付ては徹底的なる處置を執るべきものと思ふが所見如何と訊し、之に對し山崎農林大臣は調査會の深究の結果、内地外地の間に何等の間隔なき對策を執るべしとなす一致點に到達せる旨を答辯せり。
次で本案は重要法案なるを以て、特に左記十八名の特別委員に付託せられたり。

- | | |
|---------------|---------------|
| 侯爵 細川 護 立君(火) | 侯爵 松平 康 昌君(火) |
| 伯爵 有馬 賴 寧君(研) | 子爵 青木 信 光君(研) |
| 子爵 藪 篤 麿君(研) | 子爵 片桐 貞 央君(研) |
| 内田 重 成君(交) | 上山滿之進君(和) |
| 男爵 郷 誠之助君(公) | 男爵 松岡 均 平君(公) |
| 男爵 稻田 昌 植君(公) | 有賀 光 豊君(研) |
| 次田 大三郎君(成) | 金杉英五郎君(研) |
| 久米田 新太郎君(研) | 小林嘉平治君(和) |
| 絲原武太郎君(研) | 山上 岩 二君(交) |

本委員は會期切迫せし折柄なれば、山崎農林大臣の提案理由の説明に對する質疑を終了して本會議を散會したる後、直に互選會を開きて松平侯爵を委員長に、片桐子爵を副委員長に擧げ、引續き委員會を開きて其審議を竭せしも、政府に於ては會期を延長することなく、且つ三案は大法案なるを以て、未

だ審査を終るに至らずして議會の會期終了を告げたり。

第四 度量衡法中改正法律案

本案は昭和十年二月二十一日衆議院より貴族院に提出せられたり。而して同月二十五日の本會議に上程せられ、長岡半太郎君(無)子爵會我祐邦君(研)及男爵阪谷芳郎君(公)は本案に對する政府の所見を質し、岡田内閣總理、町田商工、松田文部、林陸軍の各大臣及堀田海軍政務次官はそれ〴〵所管事項に付て答辯し、次で左記九名の特別委員に付託せられたり。

- | | |
|--------------|-------------|
| 侯爵 中御門經恭君(火) | 伯爵 溝口直亮君(研) |
| 子爵 片桐貞央君(研) | 男爵 伊藤文吉君(公) |
| 赤池 濃君(和) | 大橋新太郎君(研) |
| 田村 新吉君(成) | 飛嶋文吉君(研) |
| 水野甚次郎君(交) | |

本委員は三月八日中御門侯爵を委員長に、片桐子爵を副委員長に擧げ、本案の審議を爲せるも、未だ其審査を終るに至らずして議會の會期終了せり。

第六部 (逓信、鐵道) 關係法律案

議決に至らざりし法律案中には第六部關係法律案を存せず。

第七部 (内閣、拓務) 關係法律案 (備考 拓務關係法律案を缺く)

第七部關係法律案は左記一件なり。

一、議院法中改正法律案

本案に付き左に其議事の經過を略述すべし。

議院法中改正法律案

本案は昭和十年三月六日衆議院より貴族院に提出せられたり。而して同月十三日の本會議に上程せられ、直に特別委員に付託せられたり。而して本案は重要法案なるが故に、委員の數は特に左記十五名となせり。

- | | |
|--------------|--------------|
| 侯爵 西郷從德君(火) | 侯爵 松平康昌君(火) |
| 伯爵 二荒芳德君(研) | 子爵 前田利定君(研) |
| 子爵 大河内輝耕君(研) | 子爵 岡部長景君(研) |
| 織田 萬君(和) | 男爵 東久世秀雄君(公) |
| 塚本清治君(成) | 男爵 黒田長和君(公) |
| 黒崎定三君(研) | 男爵 徳川喜翰君(公) |
| 古島一雄君(交) | 三木與吉郎君(研) |
| 岩崎清行君(交) | |

本委員は三月十五日前田子爵を委員長に、黒田男爵を副委員長に擧げ、本案の審議を爲したるも、未だ

其審査を終るに至らずして議會の會期終了せり。然れども本案は重要法案にして且つ年來懸案たりしものなれば、政府當局の本案に對する所見を徴するの一端に資せむが爲に、特に委員會に於ける主なる質問應答の要旨を左に摘録せむとす。

(問) 本案に對する現内閣の所見如何。(答) 岡田内閣總理大臣は、本案は種々の事項に亘り、其中には比較的解決し易き事項あれども、一面に於ては其關係する所廣く、特に慎重審議を要する事項ありと考ふ。殊に常置委員會の如きは、憲法上議會の會期の制あるに顧み、法律上及び政治上種々考慮を要するものあるが故に、本案に付きては篤と研究すべしと答辯せり。(問) 研究の結果近く政府より、議院法中改正法律案を提出するの意思ありや、又本案は寧ろ政府案として提出さるるを本筋と考ふるも所見如何。(答) 岡田内閣總理大臣は、熱心に研究する考へなり。其結果、成案を得るに至らば提案せむとするの旨答辯せり。(問) 貴族院及衆議院の議長の待遇に付ては、本案の改正とは別に考慮せられ居るや。(答) 之に對し岡田内閣總理大臣は、議長副議長及び議員の待遇に付ては慎重考慮を要するものなりと考ふ、議長の待遇は議院法の改正如何に拘らず、考慮するを適當なりと思考する旨答辯せり。(問) 常置委員會は憲法違反なりや、又現行法第二十五條に於て繼續委員を認むる以上、之と其權限の内容、輕重等に關しては差異あるべきも、大體其主義を同じくする常置委員制を設くるも、少くとも形式上に於ては敢て議會の會期制と矛盾するものに非ずと考ふも政府の所見如何。(答) 常置委員會が憲法違反なりや否やは、委員會自體の性質の明瞭となるまでは答ふるを得ず。繼續委員は憲法

違反に非ずと考ふるも、常置委員に付ては尙ほ憲法上の疑義あるが故に篤と研究すべし。

第四章 豫算案

第六十七議會に提出せられたる豫算案は左記九件にして、貴族院に於ては各案審議の結果、何れも衆議院議決案の通り可決せられたり。

- 一、昭和十年度歳入歳出總豫算案並昭和十年度各特別會計歳入歳出豫算案(一〇八頁)
- 一、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件(總豫算附屬)(一〇八頁)
- 一、昭和九年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)(一五三頁)
- 一、昭和九年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)(一五三頁)
- 一、昭和十年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)(一五七頁)
- 一、昭和十年度歳入歳出總豫算追加案(第二號)(一五七頁)
- 一、昭和十年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)(一五七頁)
- 一、昭和十年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第二號)(一五八頁)
- 一、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第一號)(一五八頁)

以上九案に付き總豫算案並に追加豫算案の二節に分ちて、其議事の經過及結果を略述すべし(各件名の

下に記したる頁数は本文記事の索引なり。

第一節 總豫算案

第一 昭和十年度歳入歳出總豫算案並昭和十年度各特別會計歳入歳出豫算案

第二 豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件（總豫算附屬）

岡田内閣成立以後、財界は前内閣當時に引續き漸次景氣好轉の兆を示すに至り、相當額の自然増収を見込み得たれ共、國防費及び滿洲事件費は猶ほ國際狀勢の緊張の爲に依然として多額を計上するの餘儀なき情況にして、又災害匡救費及び爲替相場の變動に基く經費も相當多額を計上せざるべからざるの必要あるを以て、歳入不足は依然として解消せらるるに至らず。而して之が爲には從來の如く概ね歳入補填公債を發行して收支の均衡を保たしめたり。各豫算案は何れも昭和十年二月十四日衆議院を通過（可決）し、即日貴族院に送付せられ、直に之を六十三名の豫算委員に付託せられたり。（豫算委員の氏名は附録常任委員一覽表参照）

二月十五日貴族院の本會議に於て、高橋大藏大臣は昭和十年度歳入歳出總豫算及財政計畫の概要に我國經濟界の現狀に付き説明を爲したり。其要旨左の如し。

高橋大藏大臣

昭和十年度歳入歳出總豫算の金額は、歳入歳出共に二十一億九千三百餘萬圓なり。而して歳入豫算は經常部十三億三千五百餘萬圓、臨時部八億五千七百餘萬圓にして、歳出豫算は經常部十二億九千三百餘萬圓、臨時部九億餘萬圓なり。之を前年度豫算額と比較すれば、歳入經常部に於て八千七百餘萬圓を増加し、同臨時部に於て一億七百餘萬圓を減少し、歳入合計に於て二千餘萬圓を減少せり。又歳出經常部に於て四千五百餘萬圓を増加し、同臨時部に於て六千五百餘萬圓を減少し、歳出合計に於て二千餘萬圓を減少せり。

昭和十年度歳入に關し其大要を前年度豫算額に比較すれば、租稅收入に於て地租、酒稅及取引所稅に於て減少せしも、所得稅三千八十餘萬圓、營業收益稅六百二十餘萬圓、關稅千五百六十餘萬圓の増加を初めとし、各稅概ね増收となりしを以て、租稅全體に於て五千三百四十餘萬圓を増加せり。又印紙收入に於ては八百五十餘萬圓を増加し、官業及官有財産收入に於ては、森林收入五百九十餘萬圓、專賣局益金七百五十餘萬圓、配當金收入四百八十餘萬圓の増收等の爲め、二千四百四十餘萬圓の増加となり、其他の收入の増減を加除し結局歳入經常部に於て八千七百餘萬圓の増加となれり。歳入臨時部中普通歳入に於ては、臨時利得稅の創設に依る増加三千餘萬圓、滿洲國國防費分擔金受入九百八十餘萬圓、其他の増減を加除し結局三千六百餘萬圓を増加し、經常部臨時部の合計普通歳入に於て一億二千三百餘萬圓を増加せり。

次に歳出豫算の概要を説明すべし。昭和十年度歳出豫算の編成に當りては、努めて節約を旨とし諸般の經費を計上せしも、滿洲事件費及爲替相場の變動に基く經費は、前年度に引續き相當多額を計上す

るの必要あるに加へ、國際時局の情勢は陸海軍軍備の充實に益々巨額の経費を必要とするのみならず、昨年各地に起りたる災害等の対策の爲に要する経費も亦多額に上ぼるが故に、結局歳出總額は二十一億九千三百餘萬圓に達せし次第なり。而して上述の諸経費に付き大體を説明すれば、滿洲事件費は一般會計に於て、外務省所管三百六十餘萬圓、陸軍省所管一億六千二百三十餘萬圓、海軍省所管九百六十餘萬圓、大藏省所管に於て豫備費として五百萬圓、合計一億八千六十餘萬圓にして、之に朝鮮總督府及關東局特別會計の分三百七十餘萬圓を加ふる時は、總額一億八千四百三十餘萬圓となり、九年度に比し増加を示せるも、是は主として航空兵力充備に要する経費の増加せしが爲なり。陸海軍の兵備改善に關する経費は、前年度に於て既に本年度分を豫定したる額二億二千八百四十餘萬圓、新規増加額陸軍省所管に於て經常部千六百二十餘萬圓、臨時部二千餘萬圓、海軍省所管に於て經常部七百八十餘萬圓、臨時部九千三百七十餘萬圓、陸海軍兩省所管新規増加額合計一億三千七百八十餘萬圓、總計三億六千六百三十餘萬圓なり。次に昭和九年に於て各地に起りたる災害等の爲め、之が対策に要する経費は既に前議會に於て説明せしが如く、本年度分として六千六百十餘萬圓を計上せり。外國爲替相場の變動に基きて要する経費は、一般會計に於て七千四百五十餘萬圓、特別會計に於て千二百三十餘萬圓、合計八千六百八十餘萬圓なり。尙ほ河川及港灣等の土木工事にして、所謂時局匡救費等に依りて完成せざりしものに付ては成るべく之を完成せしむるの方針を執り、之が経費を計上することと爲せしも、其本年度以降の總額は内務省所管に於て小貝川外五河川改修費三千百九十餘萬圓、酒田

港外二港修築に關する経費六百六十餘萬圓、中小河川改良助成費千五百九十餘萬圓、地方港灣改良助成費三百五十餘萬圓、農林省所管に於て用排水幹線改良事業費補助千七十餘萬圓、計六千八百八十餘萬圓にして、其本年度所要額は千四十餘萬圓なり。以上の経費は何れも必要缺くべからざるものにして結局歳出總額は二十一億九千三百餘萬圓に達する次第なり。

次に臨時利得税に關して一言すべし。我國經濟界の現況を観るに、一部の産業は時局の好影響を受け、尠からざる利益の増加を見つゝあるの狀況なるが故に、是等に對し臨時利得税を課し其利益の一部を納付せしむることと爲せり。而して昭和十年度の収入見込額は三千三十餘萬圓なり。尙ほ本税賦課に付ての必要な法律案は別途提出することとしたり。

昭和十年年度歳入不足の金額は前年度同様公債財源に依ることと爲せり。即ち昭和十年度に於て一般會計の財源たるべき公債は、震災善後公債七百四十餘萬圓、道路公債五百五十餘萬圓、滿洲事件費公債一億七千七十餘萬圓、歳入補填公債五億六千五百八十餘萬圓、合計七億四千九百六十餘萬圓なり。又特別會計の公債發行豫定額は、朝鮮總督府二千四百萬圓、帝國鐵道三千八百萬圓、通信事業千四百五十萬圓、合計七千六百五十萬圓にして、一般及特別會計の公債發行豫定總額は八億二千六百十餘萬圓となりて、前年度に比較し一億五千九十餘萬圓を減少せり。是等の公債の發行方法に付ては、從來の如く一應日本銀行をして之を引受け處理せしむるの方針なり。昭和七年以來政府の發行せし公債は相當巨額に上ぼりしに拘らず、今日まで良好なる成績を收め、其大部分は消化せられ、公債の急激な

る増加に伴ひ易き諸種の弊害は之を避くるを得たり。今後に於ける發行分に付ても、同様圓滑なる消化を期待する次第なり。

以上政府提出の豫算に付ては、衆議院に於て全部政府提出案の通り可決せられたり。

次に一般經濟界の情勢に付きて説明すべし。昭和七年以來政府は經濟界の不況を打開し、景氣回復の目的を達せむが爲に、金融上に適切なる改善を施し、以て低利なる産業資金供給の圓滑を圖り、民間の努力と相俟ちて我國財界の恢復に寄與したるは贅言を要せざるものと考ふ。即ち低金利の趨勢は漸次各方面に波及し、短期及長期の各種金利は何れも顯著なる低下を示し、從て公社債の低利發行の如きも相踵ぎて行はれ、昭和七年一月以降九年末に至る三箇年間に於ける地方債の發行總額は十九億五千餘萬圓、又社債の發行總額は四十一億六千餘萬圓にして、其中低利借換に係るものは、地方債に於て十二億六千餘萬圓、社債に於て二十六億五千餘萬圓に達せり。從來我國金利の高率なるは産業發達上の一の障碍たりしものなりしが、右の如き金利の低下に依り生産費を低下せしめたる効果も亦尠なからざるものありと思考す。又政府放出資金の浸透に伴ひ、資金の供給も相當潤澤となり、勞務の需要を喚起し、國民貯蓄力の増大と相俟ちて、銀行其他金融機關の預金は何れも著しき増加を來せり。今、昭和九年末に於ける最近三箇年に付きて見るに、普通銀行及貯蓄銀行の預金殘高に於て合計十四億二千餘萬圓、又郵便貯金の殘高に於て三億四千餘萬圓の何れも増加にして、最近の一箇年に於ても其殘高に於て各々六億八千餘萬圓及一億四千餘萬圓の増加を示せり。從て一般金融界は頗る平穩の状態を呈す

るに至り、之に伴ひ經濟取引も漸次増加せしは、手形交換高の顯著なる増加に依るも窺知し得る所に於て、尙ほ物價指數の漸騰、補助貨流通高の増加、重要物品生産高の増大、勞働者就業指數の向上、鐵道貨物輸送量の増加等に依りて見るも、商工業方面に於ける景氣の好轉、相當顯著なるものあるを證し得べしと考ふ。然れども未だ全面的景氣恢復の域には達せざる情況にして、特に農山漁村の方面に於ては、經濟不況の改善遅れたるものあり、殊に昨年の災害に因り多大の損害を蒙りし地方あるは誠に遺憾に堪へざる所なるも、政府としては是等罹災地其他の窮乏農村に對し、最善を竭して其復舊救済を圖りつつある次第なり。尙ほ商工業方面の活況に伴ひ、事業計畫の顯著なる増加を示し、昭和七年一月以降三箇年に於ける諸會社の新設及擴張計畫資本總額は二十九億餘萬圓に達せしも、之に付き戒慎を要する點は新會社の濫設を避くべきことにして、殊に我國に於ては從來好景氣に乗じ或は不確定なる事業を企て、或は不健全なる方法に依り新設會社の株式を募集する等、動もすれば世人の投機心を助長し、思惑熱を煽る等の弊あり、其結果社會各方面に對して尠からざる害惡を與へたる例乏しからざるが故に、金融界は勿論一般國民に於ても、今後に於ては事業の内容及計畫の適否に對し甄別を加へ、以て斯かる弊害に陥らざるやう十分留意するの必要ありと考ふるものなり。

次に外國貿易の狀況を見るに、昨年中に於ける我國の對外貿易總額は、輸出二十二億五千八百餘萬圓、輸入二十四億餘圓、輸出入合計四十六億五千八百餘萬圓に達し、輸入超過額は一億四千二百餘萬圓なり。之を前年に比較するに、輸出に於て三億二千六百餘萬圓、即ち一割六分九厘、輸入に於て三億

八千二百餘萬圓、即ち一割九分のそれ／＼増加を示し、輸出入合計に於ては七億八百餘萬圓、即ち一割七分九厘の増加にして、又輸入超過は五千六百餘萬圓の増加なり。而して輸出入品の内容を見るに、輸入總額の増加は主として原料品の輸入増加に因るものにして、又輸出總額の増加は概して全製品の輸出増加に因るものなるを知り得るなり。而して斯の如く原料品の輸入、製品の輸出共に旺盛なるは國內産業の活況を如實に反映するものと言はざるべからず。然れども現在世界各國相競ひて輸入防遏の方策を講じつゝあるの事實に鑑み、今後共官民一致協力、我國海外貿易の進展に向ひて努力するの必要ありと考ふる次第なり。

外國爲替管理法の施行後今日に至るまでの成績を見るに、其運用は圓滑に行はれ、所期の目的を達しつつありと認めらるる所にして、圓爲替相場も過去二年の間著しき變動なく大體に於て安定を保ち來りしは誠に欣幸とする所なり。然れども國際間に於ける經濟關係は依然として錯雜を極め、國際爲替市場の前途は猶ほ渾沌たる域を脱せざるものあり。從て我國に於ては國際收支の均衡を維持するに深く留意すると共に、海外經濟情勢の趨移に對し常に細心の注意を拂ひ、以て機宜の處置を謬らざるの用意を肝要なりとす。

翻て國際經濟界の情勢を見るに、各國共に自國經濟界の調整發達に銳意努力しつつあるも、未だ所期の効果を擧ぐるに至らざるのみならず、通貨政策の方面に於ても、一方に於て貨幣制度に改革を加へ物價の引上に努むる國の存するに對し、他方從來の金本位を維持せむが爲に、極力財政の緊縮、物價の引下を圖りつつある國も亦尠からず。從て通貨爲替の問題に關する國際的協調の如き、容易に之を期待し得ざるの狀況なり。殊に世界各國を通じて顯著なるは、自國産品を保護し、外國品の輸入を防遏せむとするの風潮にして、通商上の障壁は益々高められむとするの傾向にあり。而して右の如き傾向は、窮極に於て現下に於ける世界的不況を打開するの所以にあらず。故に余は今後斯かる情勢の速に改善せらるるを希望すると共に、國際經濟の圓滿なる運行と發達とを期せむが爲には、各國互に協調して通商の便宜を増大するを最先の急務と信するものなり。

前述の如く國際經濟關係は、依然として自然の發達を妨ぐるの狀態なるを以て、此間に處し獨り我國經濟界の安定を期待するは甚だ難事なれども、今日迄の經過に付きて見るに、幸にして大體に於て漸次景氣恢復の道程を辿りつゝありと言ふを得べし。然れども國內全般に亘り景氣好轉を示すには至らざるものあり。之が實現の爲には今後尙ほ多大の努力を要するものありと言はざるべからず。而して我財政の前途に於ても幾多の問題を控へ居るのみならず、今や我國は内外共に多事多難の境地に臨むに至りしを以て、國民は此際大に奮起し、不屈不撓の精神を以て協心戮力、現下の非常時局を打開し、國運の伸張に貢獻するの覺悟を要するものありと信する次第なり。

終りに臨み本豫算案に對し、協賛を與へられむことを希望する次第なり。

以上大藏大臣の演説後、國務大臣の演説に對する質疑に入り、其質問及應答は二月十五日より同月二十五日まで繼續せられたり。今茲に其廣汎なる質問應答の内容を記載するの餘白なきを以て、總て之

を貴族院議事速記録に譲り、單に質問者の氏名及質問事項を左に摘示するに止めむとす。(通告順に依る)。

質問者 質問事項

三上參次君(無) 神社問題及之と關聯する教育、宗教並に一般教化に關する事項。

水野甚次郎君(交) 航空に關する問題及航空豫算に付て。

男爵 菊池 武夫君(公) 綱紀問題、特に所謂 天皇機關説に關する問題。

子爵 三室戸敬光君(研) 國定教科書の編纂に關する事項及び 天皇機關説に關する問題。

男爵 井上清純君(公) 天皇機關説に關する問題。

男爵 阪谷芳郎君(公) 皇紀二千六百年奉祝記念事業に關する事項及豫算に付て。

尙ほ二月二十五日の本會議に於て美濃部達吉君(無)は、同月十九日の本會議に於て爲せる菊地男爵其他の議員の同君の著書に關する發言に付て、一身上の辯明を爲したり(其辯明は廣汎に亘るが故に茲には其記載を省略す)。

豫算委員は一月二十九日伯爵柳澤保惠君を委員長に、男爵大井成元君を副委員長に擧げたり。委員會は總豫算案に付ては二月十五日より三月四日に亘りて前後十回開會せられ、其間或は秘密會を開きたることあり。又各分科會を開くこと三回乃至五回して審査を終り、三月四日の委員會に於て、昭和十年度歳入歳出總豫算案、昭和十年度各特別會計歳入歳出豫算案及豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要

スル件は、何れも衆議院議決案の通り可決せられ、同日委員長より各案議決報告書を議長に提出せり。三月八日の本會議に於て、柳澤委員長は委員會に於ける審査の經過及結果に付き報告を爲せり。其要旨次の如し。

豫算委員會の經過及結果の大要を報告すべし。

先づ全體の豫算に付き説明せむに、大藏省の發表に依れば昭和十年度豫算純計は、歳入に於ては一般會計二十一億九千三百四十一萬四千二百八十九圓、之に各省に亘りて三十有餘の數を占むる特計會計八十五億八千六百二十七萬四千八百二十六圓、合計百七億七千九百六十八萬九千五百十五圓なり。此中に於て約四十の項目より成る控除額の合計は二十八億三百三十九萬二千二百三十一圓にして、之を差引きたる歳入豫算の純計は七十九億七千六百二十九萬七千八百八十四圓なり。次に歳出に於ては、一般會計歳出は歳入と同一にして、特別會計は八十一億二千九百三十一萬一千四百十五圓、合計百三億二千二百七十二萬五千七百餘圓なるも、是に付ても前同様の計算に依り、歳出の控除額二十四億八千三百三十萬一千八百七十七圓を差引けば、歳出豫算の純計は七十八億四千四百四十二萬三千八百八十七圓なり。之を九年度の純計豫算と比較するに、歳入に於て十一億一千五百十三萬三千餘圓の増加、歳出に於て十一億二百七十六萬七千餘圓の増加を來せり。而して此増加の原因は、十年度に於て特別五分利公債及滿鐵英貨公債等の借換及償還並に米穀證券の借換等、其他歳入歳出に亘り特殊の理由ありしが爲なり。

次に委員會に於ける主なる質問應答に付き説明する所あるべし。順序としては先づ豫算案と隔りたる問題より始むべし。

第一、天皇機關説に關する問題。去る二月の本會議に於て、天皇機關説に付き一議員が他の一議員の所見に關する意見を發表されたるに付、四日の豫算總會に於て委員外の一議員が委員會の許諾の下に質問を爲したり。而して其事項は重要なが故に、要點のみを説明するに止むるは、或は遺憾の點あらむことを虞れ、質問の頭初の部分を除きては速記録を讀むこととすべし。其初めの部分を述べれば、我が歴史の上に於て時々現はるる所の皇國の盛衰は、國體の眞髓、皇室の尊嚴を國民が意識する程度の大小厚薄にあるは疑なき所なり。今日滿洲事變を契機とし全國民の意識が皇國精神に充ち満ちたる際に於て、議政壇上より天皇の主權説を排し、機關説を維持し、國民の信條を攪亂するの言辭を聽くに於ては、之を此儘に捨置く能はずと述べられ、更に本件が議會の問題となりし現狀に於ては、單に學説上の問題としてのみ取扱はるべきものにあらず、又憲法上の成文たる文字上の論議にもあらず、より以上に崇高にして且つ嚴肅なる重大事件にして、嘗て問題となりたる南北朝正閏問題、三種神器問題に優るとも劣らざる所の重要問題なり。此心を以て一議員の本會議の發言のみに限り、批判を加へ質問すと申され、四箇條の質問を始められたり。茲に其速記を讀むべし。第一、一議員は自分の説は君主主權主義である所の日本の國體基礎に、西洋の立憲主義を加へたるものであると述べて居りながら、忽ちにして此二つの總和であるべき所の中に、君主主權の本色を全部抹消して素知らぬ顔

に機關説を支持し、氏の所謂基本主義であるべき君主主權を有郁無郁に葬り去つて、人權蹂躪を以て政府に迫りながら、自分は大權を蹂躪して居る、ちよつと素人には氣の付かぬやうな言葉を以て、天皇の大權を自己の機關説に結付けて居る、其陋劣さは呆れたものでございます、其苦しき辨解としまして、法律上の言葉を以て申さば、天皇は國家を代表して國家の權利を總攬するなどと、恰も株式會社の一社長が會社を代表し、一切の切盛をなすと同視いたしましたして、君主主權主義の假面を冠りながら機關説を高調せる此不都合さ、國體の明徴を十大政綱の一とせられて居りまする總理は、之に對してどう御考に相成りまするか、之が御尋申上げる第一點でございます。第二、其議員は又法律上の觀念と致しまして、天皇の大權は權利にあらず、權能なりと申して居ります、殊更に法律上の觀念と斷つてある所が非常に破綻を來す弱點であると考へます。我々は法律上とは申さず、歴史の上と申さず、日本肇國の神勅と悠々三千年傳へ來れる所の國民的信念日本民族たる信條は憲法實施の明治二十三年前と後に於て何の變る所がない筈でございます、憲法上の論議は憲法學者に任じて置けなどは總理も御述になつたやうですが、それは甚だ失禮であります、是は咄嗟の御間達ではありはしませんまいか、天皇の御事に關する限り、憲法中の文字に依りてのみ極限し解すべきものではございません、い、より高く、より神嚴に、眼光紙背に徹する底の熱と誠を持つることが必要と存じます、我が憲法は欽定憲法であるだけ其處に思を致さるべきであらうと考へますが、中正なる總理の御所見は如何でございますか、第三、其議員は又しても法律の知識なき者などと稱へまして、機關説の自己辯護を

試み、君主が萬能の權利を有すること、それは純然たる西洋の思想である、我が日本の歴史に於ては萬能の權利を御持でないと申しますが、是も一を知つて他を知らざる妄言であります、畏くも我が天皇は大御寶としての國民、赤子としての臣民に臨ませ給ふのでありますから、西洋諸國に見る暴虐の事實なきことを天皇の權力が萬能でないと云ふ證據に引用すると云ふことは以ての外で、實に不謹慎の言でございます、是では菊地男爵より學匪と呼ばれても已むを得ぬではないかと斯うも考へ得るのであります、天皇の大權は萬能でないなど一議員が申して居る、此言説をどう御考でございますか、敢て首相の御所見を伺ひたいのでございます、第四、此議員は更に又議會は原則として天皇の命令に服するものではないと唱へまして、其辨解として、此原則として申すのは特定の定めあるものを除いてと云ふ意味であると、斯様に申して居ります、併ながら之に依りますれば原則として議會は天皇の命に従はぬものである、例外としては時々天皇の命に服するの結論でありますから、此處にも論旨の矛盾がございます、原則と申しましたならば、十中の八九であり、例外と申しましたならば十中の一二を言ふのは常識でございます、でありますから本原則として、即ち十中の八九は議會は天皇の命に服せざる權能ありと云ふことに歸着いたしましたして、其議員の説は斯様になつて參るのであります、總理は此結論を是なりと御認めになりますか、今申上げました以上四點を伺ふのであります、是が四箇條の質問であります。」之に對する總理大臣の答辯は次の如し。「三室戸子爵に御答いたします、私は我が國體の他に比べものなき尊きものである、我が國體は天壤無窮の御神勅に明であり

まするやうに、萬世一系の天皇の統率の下に其國は御歴代の窮りなき大御心に依り赤子として愛撫せられましたる臣民の子孫であります、億兆心を一にし世々忠誠を捧げ奉り、皇運を翼賛し、肇國の理想に向つて進展し來たのであります、我が國體誠に尊嚴なるものでありまして、言葉を以て現はすことの出来ないものであります、古今を通じて違があつてはならぬものである、斯様に信じて居ります、私が此所で斯様なことを述べますることさへ誠に恐懼に存するのであります、伊勢大廟に參拜を致しまする者は年々其數を増しまして、今は毎日數萬を數へると云ふことであります、此多くの人が大廟の大御前に額きます時「何事のおはしますかは知らねども」此歌の心と同じく尊嚴其ものを面り見て心を打たれない者はないと思ひます、我が七十萬の同胞は國體に關しては私と同じ考を持つて居ると存するのであります、生を此世に享けまして此尊嚴なる我國に生れ出ましたことは我が國民の誇とし喜びを感じる所であらうと思ひます、私は天皇機關説を支持する者でもありません、贊成する所ありません、又先程御讀みになりました……憲法上の學説の御讀みになりました所は私の贊成する所でありませぬ、私は我が尊嚴なる國體は學説に依つて微動だもするものでないと信じて居ります、國體の尊嚴に付ては歴代の政府が深く思を致したことと思つて居ります、將來も亦深く思を致さなければならぬことと存じて居ります。」之に對し一議員は更に念を押して次の如く質問せり。「總理大臣は私が考へて居ります以上に、國體の森嚴を御考になり、總理としての輔弼の責任上、御立派なる御答辯を此貴族院を通じて世に御發表になりましたのでございますから、其御言葉の裏には、天皇機關説

なるものは日本に於ては存在すべきものに非ず、斯様な御所見なりと考へまして宜しいのでございませうか。」之に對し總理大臣は、「御答を致します、私は天皇機關説には賛成いたして居りませぬ、不賛成であります、明瞭に御答を致します。」此答辯に對し、其議員は未だ明瞭にあらずとして更に次の如き質問を爲せり。「私は總理大臣は此説は許すべからざるものであると、斯様な御考であると斷言いたしました宜しいのでありますか、其斷言が悪いと云ふことでもございませうか、其斷言が宜しいと云ふことでもございませうか、可否何れかを仰せ願へれば誠に満足に存じます。」之に對し岡田總理大臣は斯く答辯せり。「是は深く考究しなければならぬ問題だと思ひます、此處で私が直に三室戸子爵と同じだと云ふことを斷言する迄にはちよつと困難と存じます。」之に對し其議員は、「大分困難のやうでありますから、此程度に止めて置きます。」と述べ、此質問を終りたり。

第二、綱紀肅正に關する問題(刑政運用に就て)。(問)一、現内閣は政綱の一として政治の淨化、綱紀肅正、議會政治の尊重を宣明せられたるも、刑政運用のことは此綱紀肅正の中に含まれるものなりや、或は全く司法部に委ねて顧みざるものなりや。二、施政方針の中に聖詔を奉體しとあるも、是は歴代の詔勅を包括せらるるものと解し、明治二年九月の刑律改撰の勅語をも含むものと考へて可なりや、此詔には刑の原則を示され、「刑ハ刑ナキニ歸スルニアリ」と宣はせられたり。是は徳川時代の刑の殘酷より御救ひ給はむとするの聖旨と拜察す。之に顧みて今日人權蹂躪の聲喧しきも、其因つて來るべき原因あらば、之が根絶を計らざるべからず。三、司法制度の本質に遡りて考ふるに、司法行政は國

家の重要政策の立場より審議せらるべきものなるを以て、何れ設けらるべき内閣審議會に諮るべきものかと考ふるも所見如何。四、綱紀肅正に付ては必しも刑事處分に持ち行かずとも、事前に行政監督に依りて肅正し得べきものありと考ふ、瀆職に付きては行政の運用に依りて肅正を行はば、刑事事件に至らずして済むこと多かるべしと思考す。五、第五十九議會に於て刑事補償法の通過せしは喜ぶべきことなるも、未だ不十分なる所ありと考ふ。殊に検事判事の強要に依り自白を爲し、其爲に刑事補償を受け得ざるに至る虞なきか。六、未決拘留期間短縮の無視せらるることなきや。七、惟ふに刑事關係の法律改正の歴史は人權擁護の繰返しにして、過去の豚箱事件の如きが度々起りしが爲に、刑事訴訟法の改正を見るに至りたり。而して糺問式訴訟主義に依りては被告人は十分防禦の方法を執り得ざるが故に、現行法は彈劾式訴訟主義に依れるものなるも、果して實行され居るや否や。又各地に起りし多數の警察或は検事の拷問暴行事件の如き、若し事實なりとすれば、斯の如き検事は戒飭すべきにあらざるなきか、彼の幸徳秋水の事件の如きも、赤旗事件の検事の取調が酷に過ぎたるが爲に起りたりとさへ言ふ者あり、司法權及司法警察の爲に今後十分注意すべきものと思ふが所見如何。(答)一、十大政綱の綱紀の振肅には、刑政に付ても自ら之に含まるるものと考ふ。二、聖詔は總べて國體を明徴ならしむるものなるが故に、刑律改撰の勅語も固より此中に含む。當局は常々人權の擁護を期しつゝあり。三、刑政は重大なる案件なるを以て、内閣審議會に諮らざるべきものと思考す。四、綱紀肅正に付ては十分努力し、行政上の處分を受くることなからむことを期せむと欲するも、若しありと

せば厳正公平に處分せざるべからず。五、刑事補償制度實施以來、補償を與へたる數及金額共に少きも、今後補充費途に依りて能ふ限り補償を與へたと考ふ。六、未決勾留期間の長引くは已むを得ざる所なるも、其短縮には今後十分努力する考なり。七、司法上の處分に付きては過去に於て遺憾の點尠からざりしを悲しむ。檢事の取扱に付ては十分の注意を促し、又監督を行ひしも拘らず、猶且つ仰せの如き事實あるは遺憾に堪へず。檢事は原告官たるを失はしめず、又被告人をしては其の地位を保持せしむるやう十分努力しつつあり。

第三、綱紀肅正に關する問題(内務行政に付て)。(問)一、近年全國市町村等地方自治團體に於て不當支出及瀆職等が屢々行はれ、昨年中に各主要都市に於て市會議員、市吏員等の間に起りし不祥事件は、新聞紙上の報導に係るものみに付て見るも、非常なる數に上べれり。東京市に於ては曩の板舟事件以來度々瀆職事件起りしが爲に、市政は紊亂を來し、市民の失望を招き、延いて之が全國に及ぼす惡影響は夥しきものあり。又町村に關する不正行爲としては、該町村吏員の中にも相當あるも、殊に前内閣以來農村匡救事業として各町村に行はるる土木事業に付ては、町村の負擔たるどころの四分の一の工費の事業は、多府縣に亘り公然の祕密として行はれざるものあり。是等は監督不十分なるが爲なりと考ふるも所見如何。二、郡役所廢止當時に於ける部長の約半數は府縣廳の事務官に任せられ、町村の監督に當るものとせられたりしが、事實は何れも府縣廳の課長の椅子に就き、直接監督に當れるものなし。故に豫算を増加して地方團體監督の専任事務官を置くの必要ありと考ふるも所見如何。(答)一、

地方團體、市町村吏員の不正行爲及犯罪激層の事實に付ては甚だ遺憾なり。現在の監督を以て十分なりとは言ふ能はざるも、地方團體をして過誤なからしめむが爲には、先づ地方團體の自覺、吏員の覺醒及正義觀に依頼せざるべからず。犯罪續出の理由を専ら監督不十分のみにありとは考へず。二、監督官制度設置の意見あるが如きも、中央及地方廳の者をして十分監督を行はしむる考なり。現在の狀態よりしては、地方監督の専任事務官の設置には困難を伴ふ。東京市に對する監督は十分考慮するも、尙ほ市民及全國民の自覺に俟たざるべからずと考ふ。

第四、憲法政治完成の爲の教育に關する問題。(問)現内閣の政綱聲明書中に「能ク憲法政治ノ真髓ヲ發揮シテ民意ノ暢達ヲ圖ラムトス」とあるを喜ぶものなるが、同時に之を政綱中に加へざるべからざる今日の社會の實情を悲しむ。明治二十二年憲法發布以來茲に約半世紀、其制定の爲に心血を濺ぎ來りたる人士の所期し、又理想と爲せし所は果して達せられしや否や、遺憾の點尠からざるものありと考ふ。由來日本國民は感受性に富み、動もすれば附和雷同の傾向ありて思想の動搖變化甚しきものあり。歷史上に於ては諸種の變遷ありたるも、今日に於ては右傾思想橫行し、政黨は非難せらるるの時に在り。然れども政黨は無用のものなりやと云ふに然らず。憲法政治の運用を圖る上に於て、政黨は必然的存在なり。之にも拘らず今日政黨不信の聲を聞くに至りし原因は、政黨員が地盤擴張に全力を注ぎしが爲に其弊害は諸方面に波及し、地方議會及帝國議會に於ける醜き政争となり、嘗て政黨員が政争の信條となせる確信と自尊心とを失墜せしに在り。然らば政黨政治は果して絶望的のものなりやと

云ふに之亦然らず。此秋に當りて國民は自覺し、朝野を舉げて立憲政治完成の目的の爲に十分なる努力を竭さざるべからざるものと考ふる次第なり。惟ふに政治組織は大別して力の政治及會議の政治の二と爲すことを得べし。力の政治たる専制政治に對し、立憲政治は會議の政治なり。茲に立憲政治完成の爲の教育と云ふは、此會議なるものの教育を意味す。會議の意義、組織、目的、理想、作法、禮儀、根本を爲す所の諸規則、又會議の眞の精神等に關する教育を徹底的に、青少年、兒童に施したらむには、社會百般の機關は今日より一層有効に且つ圓滑に活動し、帝國議會の狀態の如きも全く面目を新にし、延いては立憲政治に對する國民の信頼を鞏固ならしめ、立憲政治家も亦一層自重自尊の念を高揚するに至るべし。總ての動物中人類のみに會議あり、從て人類のみに進歩あり、文化あり。會議なるものは人間の特徴の最たるものなりと考ふ。我國に於て歴史的なる會議は屢々開かれたりしも、其第一の會議は天の安河原に開かれたる大會議なり。而して各時代を経て會議は益々發達し、現在憲法上の機關は殆ど會議組織ならざるはなし。然るにも拘らず我國の初等、中等學校の教育にして會議教育に關けたるは遺憾至極なり。抑々我國に於ては議論を爲すことを惡しざまに考ふる者あるも、誤れるの甚だしきものなり。尤も會議にはそれに共通する幾多の規則あるを知らざるべからず。「スポーツ」に「スポーツ」精神あるが如く、會議にも會議精神なかるべからず。會議教育と云ふ言葉は或は珍奇なる言葉なりと考へらるるやも計られずと雖も、余は會議教育の必要を痛感するものなり。畏くも聖德太子の憲法第十七條にも會議の必要なるを宣示せられたり。尙ほ現内閣の政綱聲明書には、行

政の改善に付ては繰返し強調せられたるにも拘らず、議會政治の改善に付ては比較的簡單に説述されたるやの感なきにあらざるも、憲法政治の完成に關する言葉にして政綱の上に表示せられしは、誠に欣快とする所なり。果して然らば、憲法政治の眞髓を發揮し、民意の暢達を圖らむが爲の會議教育に關する當局の所見如何。(答)先覺たる爲政者は心血を濺ぎて憲法政治の完成に努力せられたり。政治の局に當る者は先づ第一に之に心を致さざるべからず。議會を尊重して政治を行ふ以上は、政黨は無視し得べきにあらず。然るに近來政黨の信用次第に薄れ行くは慨嘆に堪へざる所なり。政府は聖旨を奉體して中正なる政治を行ひ、身を以て範を示さむことを期す。會議精神に付きての教育を必要なりとするは政府も全く同感なり。現在に於ても教科書中には之に關するもの多少掲載されあるも、更に之を徹底せしめむことを期すべし。又其實習に付きても、之を研究し實施の運に至らむことを期するの考なり。此答辯に對し質問者は更に左の希望的意見を陳述せり。即ち答辯に満足するも、學校に於ける會議の實習には惡弊をも伴ふを以て、十分注意あらむことを望む。中小學校の教科書中には會議精神に關するものは殆ど之を認むる能はず。從て教員は特に之を教ふべしとのことあるに非ざれば、敢て教ふるものにあらずと考ふ。會議精神の教育の爲には今後十分努力されむことを望む。

第五、教育、宗教及思想に關する問題。(問)我國は近時思想動搖し、教育者及其監督者の責任感は甚だ薄らぎたり。其結果、官立學校の火災、長野縣教育界の紊亂等を惹起し、其他之に類するもの枚舉に遑あらず。宗教界に於ては戒律を失つて騒動を起せしものあり。又一方に於ては宗教類似の思想横